

この
おもしろ
1972

し
か
ら
か
い
し

1972

もくじ

発刊のことば	4
発刊によせて	5
八日市商工会議所の概要	
写真	8
商工会議所の使命	9
商工会議所の事業概要	11
1 商工団体の移り変り	17
2 悲喜交々	21
3 商工会議所15年の歩み	23
4 主要事項年表	29
5 会員数の推移図	31
6 財政規模の推移図	31
7 商工会議所会館の建設	32
8 商工会議所の機構図	37
9 商工会議所15周年記念式典	38
八日市市の概況	
八日市市の概況	41
産業の概況	41
特産	44
観光	46
夢の将来	52
八日市商工業の今昔	
商工業の今昔	55
目で見る明治・大正・昭和	
目で見る明治・大正・昭和	95
広告	
広告索引	103
広告	104
八日市商工業者名簿	
商工業者名簿	201
商工会議所顧問・役員・議員	263
結び	273
編集後記	274

伸子町の八日市



発刊のことば



八日市商工会議所会頭 岡崎 耕平

八日市商工会議所創立15周年を迎えるに当り、其の記念事業の一環として八日市商工名鑑を発刊する事になりました。

我が八日市市は、聖徳太子開市の町として古くより近江湖東地方の商業及び文化の中心地として歩み続けて参りました。本書は、当市商工業界の詳細と併せて当市歴史の今昔を広く各方面で紹介して関係各位の一段の躍進と繁栄を希求する所以であります。

幸に地域社会の発展と広く業界各位の事業活動の一助となれば望外の喜びと存じます。

本書編集に際しまして、当市の今昔等資料の収集に充分とは申しあげられませんが、委員の方々の大変な御苦心と御努力を賜りまして茲に出来上りました次第です。何卒御賢察いただき御活用賜ります様御願ひ申し上げますと共に、編集委員の皆様に対し衷心よりその労を感謝致します。

終りにのぞみまして、発刊に当り関係各位より頂きました御理解と御協力に対し心から御礼申し上げます。

発刊によせて



八日市市長 武村 正義

八日市商工会議所が昭和31年に創立されて以来今日まで、湖東地区経済圏の一翼をになう本市商工業の中枢機関として常に業界を指導しリードされて、15年の歴史を築かれてこられました。これを記念して、今般ここに八日市商工名鑑を発刊されますことはまことに時宜を得た企画と存じ衷心よりおよろこび申し上げる次第でございます。

ご存知のように当市商業の歴史は古く、その経済活動は極めて旺盛であります。近時工業も数多くの工場誘致に成功し、商工業都市として面目を一新しつつあり、名実ともに湖東地方の中心都市として、特に夢多き時代を迎えようとしています。

このときにあたり商工名鑑を通じて本市商工業の現況を広く全国に紹介し、業界振興のための資料として活用されますことは実に意義深いことでございます。

各業界のますますのご隆盛とあわせ市勢進展に格段のご支援ご協力を賜わらんことを念願いたしまして発刊によせるお祝いの言葉といたします。

商工会議所の概要



マークの由来

商工会議所のマークは、
チャンバアー・オブ・コマアース
アンド・イングストリーの三つの
頭文字をうまく組合せたものです。

チャンバアーとは会議所、
コマアースとは商業、
イングストリーは工業の意味で
す。

その他に考案者の意図は、
ジャパン(日本)の頭文字Jも含ま
せ、なお、おおどり(想像上の大
鳥)が翼を垂天の雲のごとく拡げ
て9万里の上空を飛ぶ様子も表現
しています。

即ち、日本商工会議所が世界に飛
躍していることを示し全国各地の
商工会議所はこのマークで統一さ
れています。



八日市商工会議所



会頭 岡崎 耕平



副会頭 二橋 貞治郎



副会頭 奥村 晃一郎



専務理事 北村 繁太郎

商工会議所の使命

商工会議所とは

商工会議所とは一体なんだろう。
さて、その正体は？

商工会議所はあなたの心にも

あなたは、親戚や向う三軒両隣り、同業の方々とはじっこんに仲よく交際されるでしょう。この気持は、自分の欲得をこえて助け合う尊い信頼の心からです。この心の発展こそ商工会議所のすがたであって、みんなの心のともしびです。

大企業も中小企業も

商工会議所の活動には、大企業も中小企業もみんな力を合わせて、都市を住みよく働きやすい場所にする念願がこめられています。

そして同時に、これから開放経済体制にはいるわが国の産業の競争力をもっともっと強くしようとしています。

自発的な奉仕の精神

商工会議所は、あなたの住んでいる地方を発展させようとして自発的に奉仕しようとする人々が、人と人との信頼を基礎に活動している団体です。

商工会議所は荣誉ある献身の団体です。

商工会議所法という法律

商工会議所は、古い歴史を背景として発展してきましたが、いまの制度は昭和28年8月に制定された“商工会議所法”という法律によって運営されているのです。

政府や国会も商工会議所を重視

会議所が商工業界の世論を代表している機関であることは法律が規定し、政府も国会も深く重視しています。

政治団体のように政治活動はしませんが、全国457の商工会議所が結集して商工業の振興に力を注いでいるのです。

あなたの意見を世論に反映

商工会議所は会員組織です。あなたの意見は会議所の意見となり、さらに日本商工会議所の意見とすることができ、その意見が政府や国会を動かすのです。

特定商工業者

商工会議所は、地区内の商工業者であって商工会議所法に定めている人々を登録し法定台帳を作らねばなりません。その人々は入会しなくても、会員に準じた権利と義務があります。

これを特定商工業者といって、非会員の人々

でも会議所議員の選挙権が認められています。 に対する理解の深さを示すものでありましょう。

会 員

商工会議所の運営をささえ、事業活動の推進力となるのが会員です。会員は自分の事業の発展のために会議所の機構をじゅうぶんに利用することができます。

最初の商工会議所

世界最初の商工会議所は、今から 360 年ほど前にフランスのマルセイユに誕生いたしました。

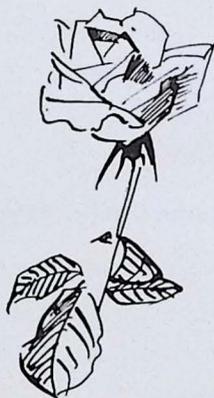
これはマルセイユの港を中心に貿易や商業上の権利をまもり、商売の繁栄をはかるために有力な業者が集って作りしました。港に出入する船舶の管理まで引受けたといわれています。

日本で最初の商工会議所

日本に商工会議所が設けられたのは明治11年で、東京は渋沢栄一氏が、大阪は五代有厚という実業界の第一流の人々が主唱してつくりました。

商工会議所の数

明治・大正・昭和の3代を経過して、商工会議所は国運と同じあゆみをつづけてきましたが、いまでは457、会員数32万余と大発展をとげてまいりました。これは、商工業の人々の会議所



商工会議所の事業概要

商工会議所の事業

商工会議所の生命は、その行なっている事業にあることは、申すまでもありません。商工業者のために秘書役をつとめる反面、公的な性格によって、地方全体の産業、交通、教育、労働、社会福祉などの諸問題の改善につとめています。

商売とは売ることと見つけたり

あなたは、あなたの製品又は製品の販路を、どのようにして、広めていこうかと、苦心されているでしょう。まず、会議所は、あなたにこんなお手伝いをします。

商取引の紹介あっせん

全国約 450の商工会議所は約35万余の信用ある会員を擁して、各地に存在しており、相互に緊密な連絡をとって、仕入にも販売にも、一役買っております。

市場調査も会議所で

販路の開拓には、まず市場調査が必要です。どの会議所にも全国各地の商工名鑑や、商工案内がそろえてあります。それでわからないことは、相手の会議所へ照会してもらえます。



知事を囲んで懇談会

博覧会や見本市にあなたの商品を

あなたの商品の優秀性を認識させ、取引を増進させるために、会議所は見本市や、展示会を開いたり、後援しています。

講演会・講習会・見学会の開催

商工会議所の重要な任務の一つは、つねに高い経済視野に忙しい会員を誘い出すことです。

商工会議所は業界、学会などの権威者を招いて政治や経済の事情や法律、販路実務、品質労務管理などに関する講習会・講演会を開いています。

また合理化、近代化の進んでいる工場、商店街、マーケットなどの見学会も行なって、見聞を広めています。

調査研究の結果を刊行してお手許へ

時々刻々に変化する経済の実情を捉えて、資料の提供を行なっています。

労務管理の方法や賃金の動向を調査した資料は、経営の羅針盤として会員から重要視されています。

事務機能を向上させるための技能検定

珠算・計算尺・タイプライター・商業英語・簿記等に関する技能検定試験を年に何回も行なっています。商工会議所独特の検定で合格者は実業界から、その技能を高く評価されています。

観光振興にひとくちを

観光地の開発や附近の名所旧跡や産業の紹介宣伝に努めています。観光案内や産業案内のパンフレットを発刊して、外来客の誘致を行なっ

ています。

地域経済の開発を

道路や港湾が悪ければ、人や商品はその地域を避けて通ります。電力や用水が不十分であれば、工場も逃げだします。これでは衰退するばかりありません。

商工会議所は、道路、港湾、鉄道、電力、用水、通信網など産業基盤をいっそう充実させてその地域の経済開発を促進させることに絶えず努力しています。

工場誘致や工場の進出も

商工会議所はお互いに連絡をとりながら工場の地方進出のお世話もしています。持前の調査能力を発揮して、立地条件や進出企業の業種規模などをよく調べ受入側も、ともに納得がいくよう万全の体制をとっています。こんな仕事は



議員総会

常議員会

全国各地に網の目のようにはりめぐらされた商工会議所の独壇場です。

いますぐ商工会議所の推進力に

会議所活動の力の源泉は、すべて会員の協力から生まれてきます。

あなたの意見は重要な支えです。ここでどうしてもあなたの力を借りて新しい推進力になってもらわなければなりません。

あなたの信用を高めるために

あなたが商工会議所の会員になることは、とりもなおさず、あなたの信用を高め、あなたの事業が社会から好感と尊敬を得ることになるのです。

そればかりでなく……

産業基盤の強化や工場誘致など直接商工業の振興に関連したことがばかりではありません。学校・病院の誘致や移転、公園、橋りょう、駐車場、街路灯の整備、都市の不燃化中高層対策、都市の美化運動……わたしたち達の住む地域社会全体の繁栄をめざして「新しい町づくり」に懸命です。

すべてあなたの自由意志で

商工会議所の加入脱退はすべて自由です。商工会議所と会員との関係は「銀行と預金」に例

えられるのもそのため、いまこそあなたはあなたの意志で商工会議所の会員になって事業の繁栄を託すべきでしょう。

中小企業相談所

中小企業相談所はどここの会議所のなかにも、必ず設けられています。国と県、府や市も経費を助成して、設けられたもので、商工会議所の公益性が生んだ制度です。



新年互礼会風景

あなたは何かの機会に経営指導員という呼び名を聞いたことはありませんか。この人々こそ新しい時代のうつりかわりをしっかりと経営的専門的知識でつかみ、常に研究心を怠らないあなたのコンサルタントなのです。

経営指導員は経営全般の知恵袋

経営指導員は企業の経営全般についてのコンサルタントです。商取引、金融、税務、労務、



従業員ボウリング大会
会頭のあいさつ

入賞者に対するトウフィーの授与



入賞者に対するトロフィーの授与



新年互礼会における会頭あいさつ

商店街連盟役員会
(都市再開発説明)



運営委員会



産業政策委員会

生産など、なんでも困ったときの指導役であり、安心して信頼のできる経営全般の知恵袋で、そのうえ、いっさい無料で相談に応じます。

経営指導の対象

商工業者で、まず工業ならば従業員が20名以下、商業ならば5名以下の規模の方々の企業をおもに対象としているのが、経営指導員です。しかも、電話1本ですぐ訪問いたします。

経営指導員も手を焼く相談

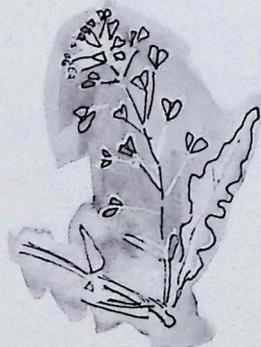
経営指導員は通産省から資格の認定をうけた実務指導家でありますから、大ていのことは解決できます。なお、深い専門的なことは？ご心配には及びません。難問は経営指導員の手から専門指導員の手に移されて、こんせつしていねいに解明されます。

専門指導員が受持つ仕事

税務、経理一税理士、公認会計士
技術、経営相談一技術士、中小企業診断士
特許、新案意匠、登録商標一弁理士

病院の役目—商工会議所（中小企業相談所）

経営指導員、専門指導員を医師に見たてるならば、商工会議所は、まさに病院の役目を果たしている存在です。



1 八日市の商工団体の移り変り

はじめに詳細な資料が保存されていないので、残念ながら明確に記載することが出来ないが、本書を企画すると同時に各委員が古老を訪問して記憶を辿って纏められたものを整理すると

飛行第3聯隊御用達組合の結成

大正4年当市に飛行場が設置され、市内の業者が御用達のための出入が始まった。然し、軍の防諜と事故防止のために組合結成の機運が起り、飛行第3聯隊の出入業者を中心に御用達組合が結成された。この組合に加入しない業者は厳重にチェックされて組合の紹介がなければ、軍の出入商人にはなれなかった。組合長に加藤清一氏が就任され運営にあたられた。

この組合が当市の商工団体組織の起源だといわれている。

実業聯合会の結成

八日市に飛行第3聯隊が設置され、当市の容貌も一変し来たので商工業の団体を結成する事になり、大正14年八日市町役場に於て発会式が挙行された。

会長 宮師惣治郎

副会長 松吉良助 井村井右衛門の諸氏。

事業としては主として、年4回の大売出しの企画等。

八日市商工会の結成

昭和12年頃、八日市町の助成が得られることにより、実業聯合会を発展的に改組し、商工会結成の機運が生まれた。当時の町議会の勸業委員会が補助として年間250円位を支出することに決定した。

そこで八日市商工会は、初代会長に宮師惣治

郎氏が選出され、他の役員も留任した。事務所は役場内に置き、大売出し等の業務を企画していたが、日支事変の勃発により、商工会業務ばかりでなく招集軍人の送り迎えの行事に参画していた。

昭和16年12月8日、大東亜戦争になり、戦争が進むにつれて企業整備等が始まり、商工会の運営も変更になった。

会長 宮師惣治郎

副会長 藤田莊太郎 重森文二の諸氏。

昭和17年会長が町長に就任されたので役員の改選。

会長 小島弘太郎

副会長 重森文二 和田周達の諸氏

市民生活物資の配給業務が主たる仕事になって来た。

戦争が激しくなり、物資不足に伴い商業活動も意の如くならず、終戦となり、商工会の事務所も消防団事務所と合住となり活動も殆んどなく、

昭和23年頃山田治右衛門の手により再編成された。

昭和24年5月、森井澁氏が商工会に就職。事務員5名となり、役員として

会長 山田治右衛門

副会長 関司松兵衛

専務理事 森井澁

常任理事 山田隣之助

の諸氏が就任。

本格的商工会議所の機構に整備し、事業の運営を図った。

名称も八日市商工会議所となっていたが、商工会議所法の施行により名称を変更し、八日市商工会となった。



旧商工会館 改造前



旧商工会館全景



旧商工会館正面

昭和26年八日市商工会として事務所を町警の建物を町より借り受け、売出しの外、催物を積極的に実施していた。

昭和29年、会長山田治右衛門氏の町長就任に伴い副会長岡司松兵衛氏が会長となった。

この頃の商工会は、売出し年4回の外、永年勤続従業員の表彰、各種コンクール及商工祭を主催し、名実共に県下一の商工会に発展して来た。

八日市商工会議所の創立

昭和29年、八日市町と中野村が合併、引続き翌30年近接5村（平田、市辺、玉緒、御園、建部）の合併に依り、八日市市が誕生した。

八日市市の誕生に依り、商工会を商工会議所法による法人に改組する機運が起り、準備期間として設立のための委員が選出された。

設立委員として

岡司松兵衛 小梶三右衛門 二橋貞治郎
重森 文二 平田謙之助 森井 澁
の諸氏。

先進商工会議所の研修、特に富山県礪波商工会議所へは設立のための諸般の準備を詳細に見聞し多大の成果があり着々準備も進行した。

設立発起人51名、その代表者を岡司松兵衛氏とし、昭和31年1月18日設立趣意書を作成。同意を求めた処、802名の同意があったので、昭和31年2月8日午後1時より八日市公民館大広間に於て648名の出席のもとに盛大に創立総会を開催した。

当日の司会者	重森文二氏
当日の議長	二橋貞治郎氏
副議長	井村平三郎氏 村田和平氏
当日の主な来賓	市長 議長 県商工課長の諸氏
役員の詮衡委員	委員長珠玖義造氏外14名
選出された役員	会頭 岡司松兵衛 副会頭 今宿泰蔵

小梶三右衛門

専務理事 森井 澁

監 事 福原捨次郎

山田平治郎

常 議 員 村田和平

池田峯次郎

内片陸郎

平田謙之助

小島弘太郎

二橋貞治郎

井村平三郎

齊藤香苗

山田平治

重森文二

議 員 久保半左衛門

松本政治郎

外村伊八

喜多良三

藤川勝治郎

奥野筆吉

村田信一郎

前川捨蔵

久田英二

多田富蔵

岩根宇一郎

高村幸一

梅原康三

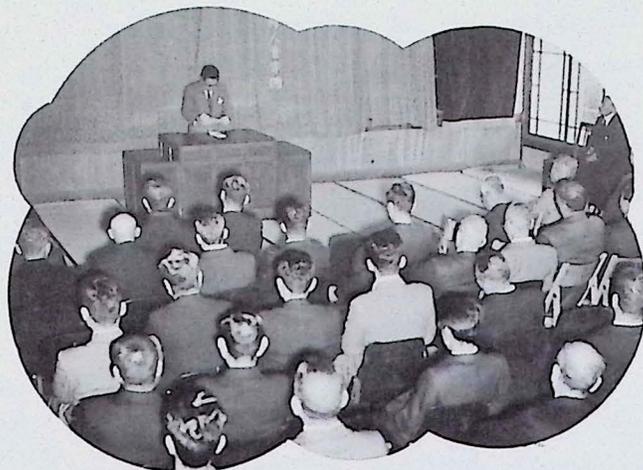


八日市商工会議所創立式に於ける
八日市市長 今宿次男氏祝辞



八日市商工会議所成立式に於ける
初代会頭 関司松兵衛氏挨拶

八日市商工会議所成立式に於ける
知事代理 祝辞



- 辻川敬一
- 北岸幸太郎
- 福井八右衛門
- 田中外次郎
- 向政五郎
- 山田隣之助
- 西堀栄治郎
- 中沼保三
- 泉賢治郎
- 仙波玄一
- 大橋浜司
- 西田藤吉
- 三浦忠蔵
- 寺田昇之助
- 村田梅吉
- 野畑忠次郎

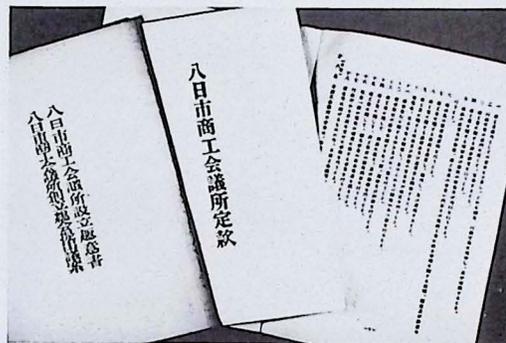
の諸氏が選出された。

引続き通産大臣宛設立認可申請書を提出し、昭和31年3月15日付を以て認可となり、同月30日付設立登記完了。同月31日付滋賀県知事宛登記完了届を提出。昭和31年4月2日成立式を挙行、ここに八日市商工会議所の創立を見るに至った。



2 悲喜交々

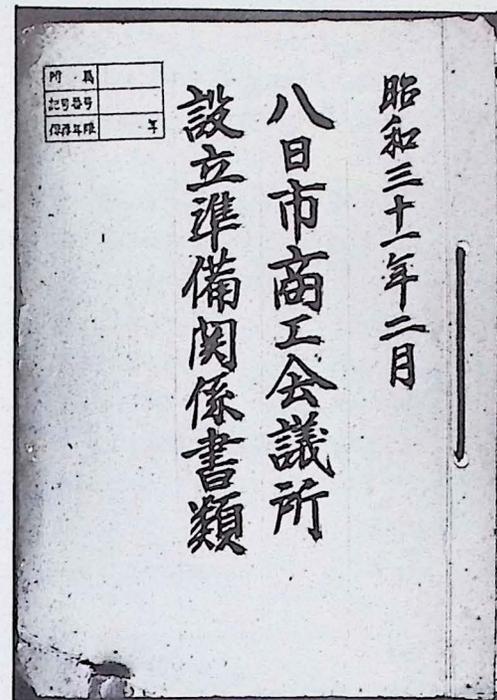
八日市商工会より八日市商工会議所への昇格については、20余年の勤務中、もっとも苦勞したものに属します。最初は日野、能登川等周辺町村を包含した湖東商工会議所構想を打ち出し各町村商工会を廻ってみたものの大利を考えないで、自町村の目先の利害で判断する商工会が多くて見込が立たず、結局、八日市市域とすることにしました。(これは、結局、後に商工会の組織に関する法律が出て、市域に限定したこ



創立総会に提出した議案

とが幸いしました)

県商工課に相談し、既設の商工会議所の同意を求めても、大方は、未だ八日市市の産業、経済上商工会議所は無理であるとの結論で有りましたので、腹立ちまぎれに上京、通産省の企業第一課に行き、当時の係の村田清課長補佐に直談判に及んだ処、初めは無理だと拒んでいた村田事務官も我々の熱心にほだされてか、其れ程言うならやってみなさい、其の為には富山県の礪波の商工会議所を見て来て、其の手順を参考にしたら如何とのこと。早速関司会頭や二橋氏等と礪波商工会議所に行った処、八日市以上の悪条件で設立していることを見聞し、一同嬉びました。



創立のために準備した書類綴

早速書類を借りてみて、其の膨大な調査量や手続の煩雑に驚き、これから短時日に、こんな書類が出来るかどうかと心細くなり、心配になって来ました。

以来設立事務にかゝった訳ですが、市から補助金60万円を頂き、専任者も決めましたが、其の人々も途中で病気になったり、辞任したりして、結局、自分自らが専らやらねばならぬこととなり、家庭に迄持ち込んで、何とか原案を作成、設立総会も終え、二寸厚みの書冊、二十数冊を印刷し、準備は整いましたが次の段階は、認可申請でこれが一番の難件、又々上京して、村田事務官に見て貰いましたが不備を多々指摘され、がっかりした上に、たまたま認可申請に

来ていた北海道の美唄商工会議所の会頭（認可前の）の話によると、5・6人で十数度来ているが未だ認可にならない。旅費だけでも200万円近いののこを聞き、財布の乏しい我々は又々がっかり来ました。幸い我々が持参した書類は、八日市に持ち帰らずとも訂正補填が出来そうで夜を徹して作成し、通産省の村田事務官に提出した処、大臣に迄認可手続をするのことで、又嬉ぶといった悲喜交々の状況でありました。

1カ月程して待ちに待った通産産業大臣石橋湛山の名で認可されたのが、確か昭和31年3月15日だと覚えます。私は何だか泣きたいような気持ちで、喜びにわくわくしながらいつまでも其の認可状を見ていました。これで悲喜交々であった会議所の設立は終り、近い内に開催せねばならぬ八日市商工会議所成立総会に思いを及ぼしたのは、それから1時間もたってからであったと思ひ出されます。

(前専務理事 森井澁)



通産大臣宛提出した認可申請書原本

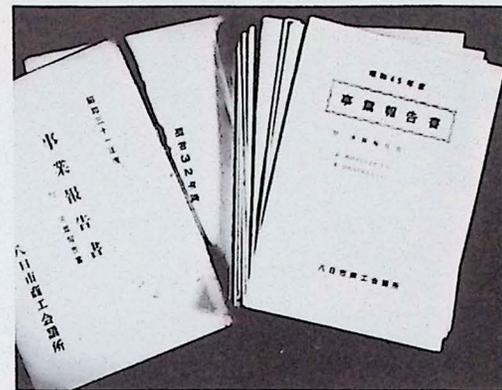


3 八日市商工会議所15年の歩み

総括的概要

昭和31年

八日市を中心とする市制実施以来今後の商工業発展を期待し地区内業者の意見の結集により、八日市商工会議所の創立を見たのであるが会議所創立初年度たる昭和31年度は、我が国経済界に於いては未曾有の好景気で神武景気と称せられたるもこれは大企業の乃至特定商工業に限られ農村を相手とし且又工場も少く商業者は濫立の傾向にある我が八日市市に於いては一般的に景気は停滞乃至下降気味であり只好景気の造船界の余波でコンプレッサー等の製造或は大都会の景気の余波によるパルプ・酒・織物界の上昇或は又近來の交通事情よりくる自動車類修理工場の活況等は稍見るべきものがあつた。然かも年度末に近づくに従い此の景気下降は著しく、今後之が打開は商工会議所の指導下に商工業者は結集を堅くし各種振興施策を活発にすること以外になく、従つて会議所の積極的活動が要請されて来たのである。然し商工会議所は創立初年度である為、充分なる積極的活動も期し得なかつたが、三カ年計画を樹立。初年度に於いては所内の整備と所員の訓練、次年度に於いては役員議員の改選に伴う会議所の基礎確立と会議所の事業の普及、三年度に於いては会員の再整備、会員の再検討及定款の所要改正（特に地区・部会・会費等）を為し、恒久性を確立するに基き初年度計画たる今後の活動の基礎を作るべき所内の整備と所員の訓練に意を用い之が成果の挙揚につれ事業活動を逐次実施してきたのであり、前記経済界の動向を睨み合わせ各業界の意向を反映せしむると共に商工相談指導講習会取引の

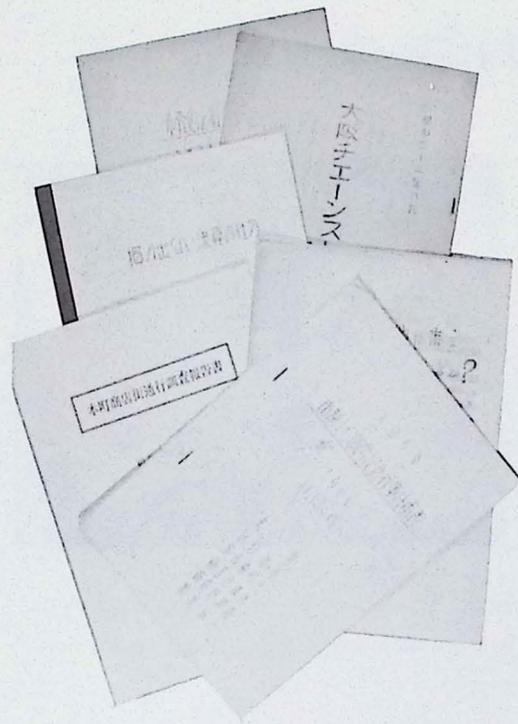


初年度よりの事業報告書

斡旋、展示会の開催、検定の実施、融資等広く商工業の振興発展と経営合理化に務めて来たのである。

昭和32年

昭和32年度に於ける我が国経済界は輸入著増による外貨保有の激減之が対策たる公定歩合の引上げ、之等を総合するデフレ策の強行により不況の波は漸次全国にひろがり、当八日市市に於てもその埒外にあるを得ず不景気が急速に迫つて来て産業界の沈滞金詰りの様相を見るに至つた。凡そ当市の如き農村相手の商業都市に於ては景気の良いと言われる年に於いても平均三割増悪の場合に於いて平年より三割減という上下巾を以て景況不況を分かっているものであり、言い換えれば景気変動の差が大都市程でないが、尚前年度の好調に比しての急速なる不況であるためその上下巾が極端から極端に行つたためにする金詰りは近來にない混乱を引起した。工場生産についてもこの範疇を脱するを得ず若干の生産減を見、或は一部操業短縮の実施が為された。当所は設立第二事業年度であり当初の計画に基き役員議員の改選を行い会議所としての基礎確立に重点を置き、諸施策を実施するため各業

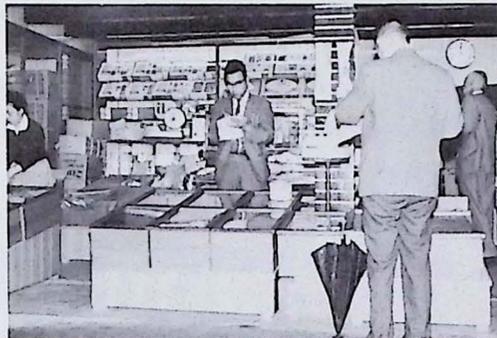


界の意向をまとめ関係方面に意見具申を行うと共に金融難緩和のための小口融資及び国民金融公庫支所直扱の斡旋を行い、一面企業の合理化を促進せしむるための組織化協同化を計り設備の近代化を研究指導する等各種の事業活動を積極的にし商工業の振興に努力を傾注し、更に観光協会を設立し観光宣伝事業の拡充を期した。更に特記すべき事項は為し得るならば毎年公共の会社を一社宛会議所会員の努力により設立するを目途として当年に於いては、かねて懸案であった魚介青果物等の卸売市場を設立したこと、昨年一月（32年）ディスカウント百貨店たる大阪チェーンの八日市進出を会議所の手により一度は防止したがその後関係業者の協力が得られず本年三月再び進出の機会を与えて今後の商業市場に暗雲を投じたことは注目すべきことからであった。

昭和33年

鍋底といわれた我が国経済界は国際収支の好

転にともない漸次回復に向いつつあるも地方経済界に於いては殆んどその影響を見ず、前年度に引続き横這いの景況に推移した。本所に於いては中小乃至零細企業を会員の大部分とするので中小企業振興対策に施策の重点を置き商工振興のための各種事業と観光のための事業実施と相まって随時必要な意見を関係方面に開陳してその実現を図り、地方産業の啓発に寄与することが出来たと確信する。特に本年度内に於いては本市永年の懸案であった八日市卸売市場の設立に参画し遂にその実現を完了したる他、従業員退職金制度・失業保険事務組合の創設等社会福祉の増進に努め商工会議所の使命達成を目的として各種事業を推進せり。



▲ 全国商店サービス運動 商店コンクール審査

昭和34年



▲ 商店照明コンクール審査

海外の景況が反映して著しく上昇し、先年の神武景気を上廻る岩戸景気を唱える程の好景気であったが、本市経済界においては殆んどその

影響を見るに至らず横這いの景況に推移した。特に本年はトランプ会社及びコンクリート会社の設立に参画し、その実現を完了したる他産業従事者福祉制度の加入の推進に努める一方納税意欲の向上の一助として納税協会支部の設立に努力し商工会議所の使命達成を目的として各種事業を推進せり。

昭和35年



商店経営診断

我国の世界稀れに見る経済成長率と世界経済界の好調にめぐまれ、わが財界の好況は昨年「岩戸景気」を更に上廻る上昇を示したのであるが、本市経済界には殆んどその影響を見るに至らずに推移した。特に本年は「商工会法」の施行にともない、国及び県の補助を受け小規模事業対策としての経営改善普及員を設置し経営改善に関する相談指導にあたりと共に労災保険の一括加入等社会福祉の増進に努め積極的に会議所本来の使命達成を目的として各種事業を推進せり。

昭和36年

我国の経済界は所得倍増・経済成長率世界一の合言葉に呼応し、生産界の設備拡充一般消費ブームの風にあおられ有史以来の好況を謳われたのであるが、国際収支の赤字による金融引締政策の影響により一部中小企業に深刻な打撃を与えているが本市経済界には目立った影響を見るに至らずに推移した。当所においては中小零



従業員サービスコンクール審査

細企業を会員の大部分とするので国の施策により一昨年より設置された小規模事業対策に施策の重点を置き、商工振興のための各種事業と観光のための事業実施と相まって随時必要な意見を関係方面に開陳してその実現を促し地方産業の啓発指導にいささか寄与することが出来た。特に本年は八日市織物組合の設立に参画、その実現を完了したるほか工業会を結成、工業分野に積極的に力を注ぐなど会議所本来の使命達成を目的として各種事業を推進せり。

昭和37年

我国の経済界は数年来順調に成長してきたが民間の設備投資抑制のための金融引締め・貿易自由化の影響の余波等悪条件が揃い中小企業の苦況は一段と深刻な不況を招いたが、本市経済界には目立った影響を見ずに推移した。特に本年は商工婦人学級の開設を見たるほか、全事業所の巡回簡易診断を始めるなど会議所本来の使命達成を目的として各種事業を推進せり。



昭和38年

我が国の経済界は昨年来の高度経済政策の行過ぎから消費者物価の上昇、国際収支の悪化など安定成長の推進を阻害し、景気調整を要望され苦難の一年であったが、当市経済界にはさしたる影響を見るに至らず推移した。特に本年は昨年来近鉄本社に要望していた市内循環バスの開通を見たる外、近畿圏整備法の施行、国際空港誘致運動、八日市遊園地の設置開



▲上・延命山 産業道路開発

下・第1回(1960年)よりの新年互礼会 名刺交換録

題と開発促進に努め積極的に会議所本来の使命達成を目的とした事業を実施した。

昭和39年



経営コンクール審査

昭和40年

昭和40年度の我が国の経済界は、前年来の不況に明け政府の公定歩合の引下げによる金融緩和策、財政投融资の促進など財政面からの景気刺激策も効果のあらわれぬままに「戦後最悪」不渡倒産の「記録更新」に暮れた苦難の一年であったが、当市経済界にはさしたる影響もなく推移した。

特に本年は中小企業集団に指定され、中小企業の労務改善事業を統一的に実施し中小企業の発展と労働者の経済的・社会的地位の向上に資するなど、会議所本来の使命達成を目的とした事業を実施した。

昭和41年

昭和41年度の我が国の経済界は、公債発行などの財政面からの刺激による景気は次第に回復に向い、輸出も好調な足どりを示し、一昨年来の深刻な不況から漸くこれを脱し持続的成長への第一歩を踏みだしたものの、末端まで浸透するには至らず一抹の不安をのこした一年であったが、当市経済界にはたしたる影響もなく推移した。特に本年は大型店舗の進出に応じ、地元においては新たな発展をはかり一段と経営の合理化・組織化を図り、体質の改善に努力を傾け

我が国の経済界は開放経済の下、高度成長に伴い生じた「ひずみ」を是正し安定成長に切りかえられ貿易収支は漸次好転したが、国内産業は沈滞し不況に陥り中小企業のうちには景気調整のしわ寄せのため戦後未曾有の企業倒産が続出した苦難の一年であったが、幸い当市経済界にはさしたる影響もなく推移した。特に本年は産業従業員の福祉の増進に寄与すべく労働福祉協議会の設立を見たる外、八日市広域商業診断を実施し、当市将来の指針を究める等会議所本来の使命達成を目的とした事業を実施した。

るべく八日市工業振興(協)本町商店街振興組合の結成をはかり、指導・管理するなど会議所本来の使命達成を目的とした事業を実施した。

調査報告書



昭和42年

昭和42年度の我が国の経済界は、一昨年来からの景気上昇期に中小企業の収益が好転したものの昨年秋の金融引締めによる景気調整ポンド切り下げ等の国際環境の変化により中小企業をとりまく内外の経済情勢が悪化し、過当競争・大企業の中小企業分野への進出、労働力不足などの原因により戦後最高の倒産を見るなど悪化への一途を辿ったが、当市経済界にはさしたる影響もなく推移した。

特に本年度は昨年結成された本町商店街振興組合を指導・アーケードの建設を見るなど会議所本来の使命達成を目的とした事業を実施した。

昭和43年

昭和43年度の我が国の経済は、国民総生産に於いて世界第3位の成長を示してはおるものの果してこの成長が長期安定型のものであるかは疑問である。資本の自由化による大中小の企業の大規模化が叫ばれ、中小企業にあっては大型資本の進出により危機が迫っている感がするのである。

特に労働力の不足の解決こそ今日の急務である。中小零細業者の大部分を会員とする当所としては施策の重点を小規模事業の対策におき、企業の近代化と労働力の充実労務の改善を計り商工業の振興のための各種事業と観光のための事業を実施する外、随時必要な意見を関係方面に具申開陳し、その実現を促し地域産業経済の啓発指導に寄与することが出来た。尚、本年度は念願の商工会議所会館の建設に着工し、地域商工業の発展の基盤を造成強化するなど会議所本来の使命達成を目的とした事業を実施した。

昭和44年

昭和44年度の我が国の経済界は引き続き好況に恵まれ、国際収支も大巾に改善され経済成長率は米国に次ぎ世界第2位の成長を遂げたもの



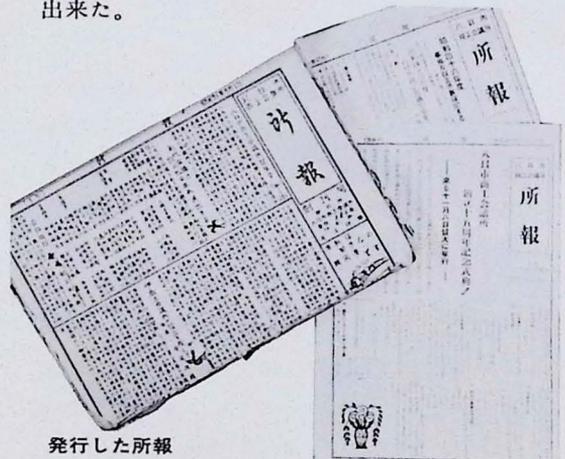
役員、職員親睦ボウリング大会

の、一方労働力の不足からする高賃金・高物価問題など一連のアンバランスをどのように是正するかの問題を残しつつ推移した。

尚、特に本年度は商工業発展の基盤ともいべき商工会議所会館も完成し会議所本来の使命達成を目的とした事業実施に踏み切ることが出来た。

昭和45年

昭和45年度の我が国の経済は超高度成長、超大型景気の時代から安定成長型に、量の成長政策から質の成長政策へと移りつつ、労働力の不足からする高賃金・高物価さらには公害、人間疎外など質的な不均衡の問題を残しつつ推移した。尚、本年度は八日市自動車(協)の設立指導、大企業の進出に伴う調査研究など、会議所本来の使命達成を目的とした事業実施をすることが出来た。



発行した所報

4 主要事項年表

八日市市	八日市商工会議所	一般政治経済・国際	風俗用語
昭和	昭和	昭和	昭和
31年 4月 高速道路反対運動 10月 第1回畜産共励会開く 12月 常備消防発足	31年 商工会議所の基礎確立と会議所事業の普及 八日市の観光と産業パンフレット観光 刊行 八日市観光協会設立	31年 5月 日比賠償協定マニラで正式調印 10月 英仏軍エジプト攻撃開始 12月 石橋内閣成立	31年 戦中派 太陽族 グレン隊 キングサイズ 一億総白痴化 書きますわよ 深夜喫茶
32年 2月 庁舎増築工事完成 3月 市議会、原水爆禁止を決議 御園小 体育館竣工 7月 新農村建設地域指定 8月 じんあい焼却場火入式	32年 役員議員の改選 八日市観光協会の設立 大阪チェンストアーの進出防止 延命山ドライブウェイ設定	32年 2月 第1次岸内閣成立 5千円券発行 ソ連 世界最初の人工衛星 打上げに成功	32年 神武景気 低姿勢 ゲタばき住 宅 老人ホーム よろめき 三 種の神器 ケセラセラ ハンカ チタクシ-
33年 2月 学校統合の基本計画なる 4月 都市計画街路網決定 6月 米作り日本一に栄冠 (畑忠三郎氏) 10月 商店街週休体制実施 11月 自動車試験場完成	33年 八日市卸売市場の設立 従業員退職金制度の創設 失業保険事務組合の創設 名物大鳳製作(7間×7.5間)と 飛場	33年 1月 日本、インドネシア平和条 約および賠償協定調印 6月 第2次岸内閣成立 12月 1万円券発行	33年 団地族 テレビ結婚 テレビっ 子 神風タクシー ハイティ ン ジュークボックス フラフ ーブ
34年 3月 市長選挙 8月 市議会議員選挙 10月 愛知川ダム起工式 11月 消防署設置	34年 納税協会支部の設立 新江州音頭普及宣伝 菊花大会と品評会開催	34年 1月 欧州共同市場(E E C)発足 4月 皇太子殿下 正田美智子さ んとご結婚 5月 日本南ベトナム賠償協定調 印 10月 社会党分裂	34年 カミナリ族 モーター トラン ジスターグラマー タフガイ イカス
35年 2月 名神高速道路測量始まる 3月 国民年金支給始まる	35年 役員議員の改選 小規模事業経営改善普及事業の	35年 7月 第1次池田内閣成立 10月 浅沼社会党委員長刺殺	35年 全学連 だっこちゃん ダンプ カー

7月 第1回市民体育大会開く
9月 清水会館竣工
12月 地財法による財政再建準用団体となる

36年2月 今代町大火(10戸焼失)
3月 八日市西部団体加入電話開通
6月 八日市会館竣工
12月 連絡所廃止

37年3月 村田製作所操業開始
4月 延命寺山観光道路竣工
6月 自動車教習所竣工
7月 全販連八日市種鶏場竣工

38年3月 公明選挙都市を宣言
公共職業安定所新庁舎竣工
4月 都市計画用途地域指定
4月 市長選挙
5月 京阪バス開通
7月 市内循環バス開通
8月 市議会議員選挙

39年3月 老人クラブ発足
4月 名神高速道路インターチェンジ開通
農協連八日市ふ化場竣工
6月 有線放送開通
住居表示制度実施
11月 市庁舎移転

40年3月 愛知川ダム定礎式
8月 市制10周年記念式典挙行

41年 財政再建(準用)団体解消

42年4月 八日市西小学校を設置
4月 西沢久兵衛氏市長に再任
スメリマ児童遊園地新設
玉緒小学校室内運動場建設

43年4月 小島隣保館新設
ひばり丘児童公園新設
大森団地建設
南小学校室内運動場新設

44年7月 八日市衛生公園完成
消防庁舎新築
玉中特別教室新築

45年7月 消防庁舎竣工
9月 中部地域市町村
園発足
11月 上水道事業工事に着手
(第一号取水井戸工事)

46年4月 第5代市長に武村正義氏就任
12月 延命公園の改造工事に着手
12月 八日市西小学校校舎竣工

指導強化のため経営改善普及
の設置
第10回えびす祭共催

36年 八日市織物工業(協)設立
八日市工業会結成
延命山植樹
阿賀神社千日煙火大会協賛

37年 商工婦人学級の開設
会員事業所の巡回簡易診断実施
延命山観光道路竣工式
太郎坊ドライブウェイ竣工式

38年 役員議員の改選
八日市遊園地の誘致
観光開発協議会
近鉄遊園地起工式

39年 労働福祉協議会の設立
八日市広域商業診断の実施
商工会館一部改造
八日市遊園地開園式

40年 中小企業労務集団の指定
観光地図作成配布
江州音頭普及指導

41年 役員議員の改選
八日市工業振興(協)設立
本町商店街(振) 設立
ミス・ピワコ審査会

42年 商工会議所会館建設準備
内外食品味くらべ
盆おどり大会

43年 商工会議所会館建設
びわこ祭盆おどり大会
千日花火大会

44年 役員議員の改選
誘致工場の設工
江州音頭発祥之地碑打合せ
三上、信楽自然公園竣工式

45年 自動車(協)設立
議員研修会の実施
第一回聖徳まつり開催
量販店対策のため調査研究
聖徳まつり総おどり大会

46年 会議所創立15周年記念式典
不況対策企業診断実施

12月 第2次池田内閣成立
経済協力開発機構
(OECD)憲章調印

36年1月 大蔵省株価高騰で警告
9月 政府 国際収支改善対策な
らびに貿易自由化促進計画
を決定
10月 東京、大阪、名古屋で第2
部証券取引発足

37年1月 IMF一般借入協定調印
3月 仏、アルジェリア停戦協定
調印
10月 ケネディ、キューバ海上封
鎖宣言

38年7月 中小企業基本法公布施行
11月 ケネディ米大統領暗殺
12月 第3次池田内閣成立

39年10月 東海道新幹線開業
東京オリンピック大会開始
11月 第1次佐藤内閣成立

40年2月 米、北ベトナム爆撃開始
6月 日韓基本条約調印
7月 政府不況打開緊急対策発表

41年3月 スカルノ、インドネシア大
統領政治権限委譲
6月 国民の祝日に関する法律の
一部改正、公布施行
8月 紅衛兵運動北京で起る

42年2月 第2次佐藤内閣成立
6月 アラブ連合 スエズ運河を
閉鎖
10月 反代々木系学生羽田で警官
隊と激突

43年1月 ジョンソン大統領ドル防
衛強化案を発表
5月 米、北ベトナム和平会談開
始(パリ)
中小企業金融制度の整備改
善のための相互銀行法、信
用金庫法案の一部を改正す
る法律成立

44年1月 反代々木系学生による東大
安田講堂の封鎖を解除
4月 中国 九全大会で手体制を
確立
仏・ドゴール大統領辞任
7月 米宇宙船アポロ11号月面に
着陸
9月 北ベトナム ホーチミン大
統領死去
11月 佐藤・ニクソン会談「72年
沖縄返還」決定
皇太子殿下万国博名誉総裁
大詰に近づいた会場建設情
況をご視察
12月 第32回衆議院総選挙の結果
自民党288議席を獲得
社会党200議席を割り大敗

45年3月 赤軍派ハイジャック事件
プラント 東方外交
6月 安保自動延長
10月 高まる中国の地位 カナダ
イタリアが相次いで中国承
認
11月 沖縄の国政参加 初の選挙
三島由起夫自衛隊乱入割腹

46年7月 両陛下のご訪欧
8月 通貨の危機
10月 中国の国連入り

36年 物価倍増 時差出勤 ドドンバ
六本木族

37年 ツイスト 産業スパイ 当たり
屋 無責任

38年 みゆき族 カギっ子 民泊
トップレス
三ちゃん農業 中学浪人 公害
かわいいちゃん

40年 赤いダイヤ 総長トバク
パニーガール ブルーフィルム

41年 9・6・4 サウナぶろ
黒い霧 マッチポンプ

42年 ヒッピー フーテン アングラ
マクルーハン

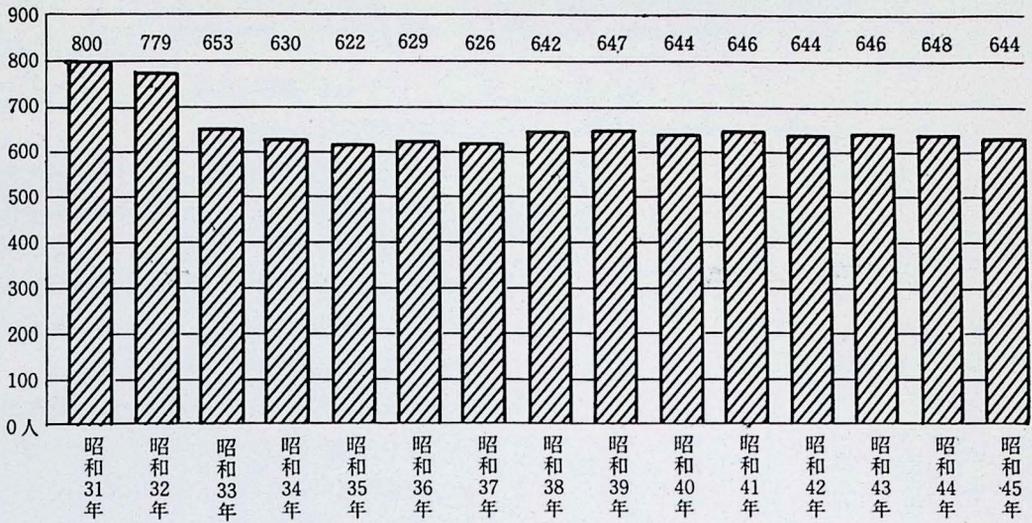
43年 サイケ 昭和元禄 ゲバ
タレント候補 ハレンチ 失神

44年 断絶 水平思考 モーレッツ
エコノミック・アニマル
ニャロメ

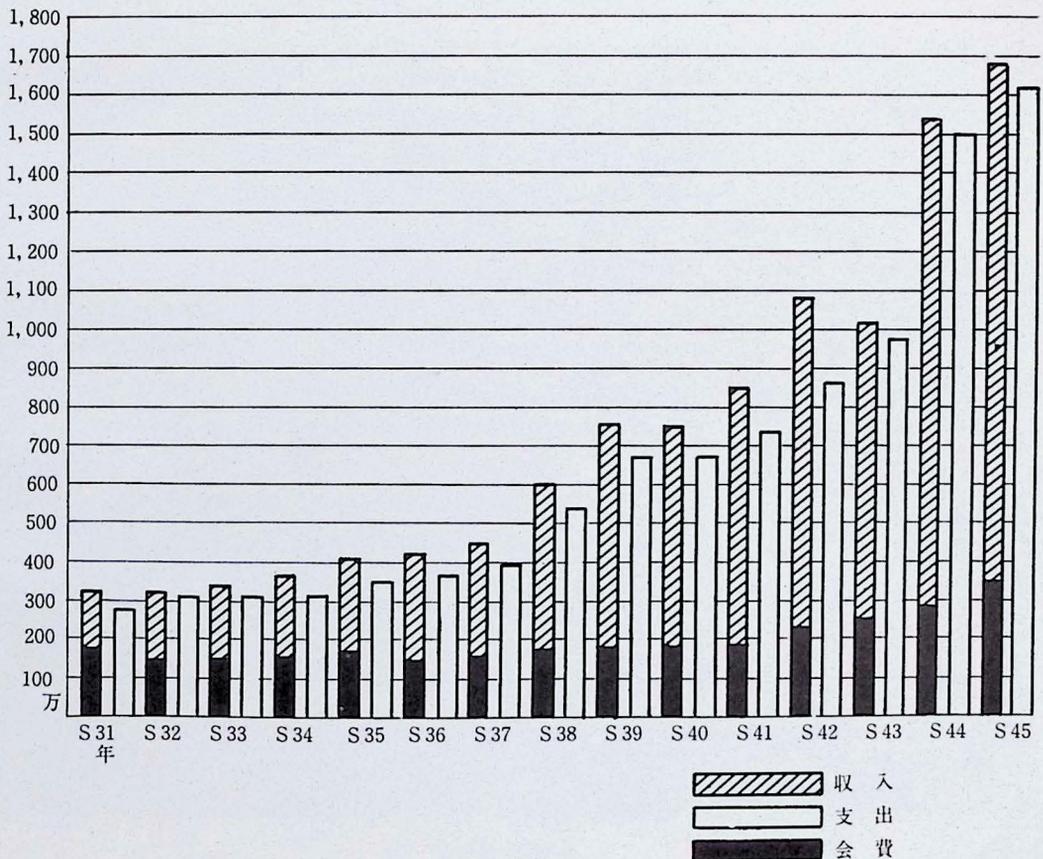
45年 ウーマンリブ ノーブラ
ヘドロ

46年 脱サラ バイオリズム 日本株
式会社 ドル・ショック
原点

5 会員数の推移図



6 財政規模の推移図



7 八日市商工会議所会館の建設

戦後町警の廃止により、当時の商工会が町より借り入れて使用していた建物を商工会議所設立後も引き続き使用してきたが、商工会議所の機構の拡大に伴い、昭和39年に1部増築を図ったが、その後の市の発展と大巾な機構拡充により種々運営に支障を来しつつあった。

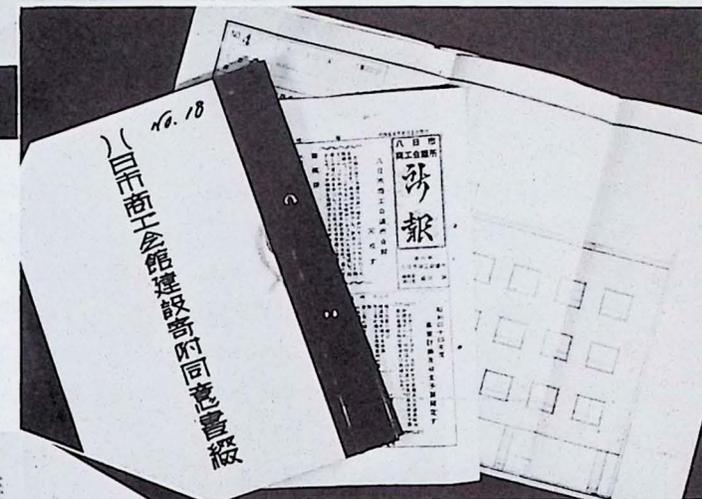
昭和42年始め隣接の土地が売りに出された機会に商工会館の建設を進めるべき機運が盛り上がり、議員総会の議を経て、ここに商工業界のセンターとしての会館建設が決定された。



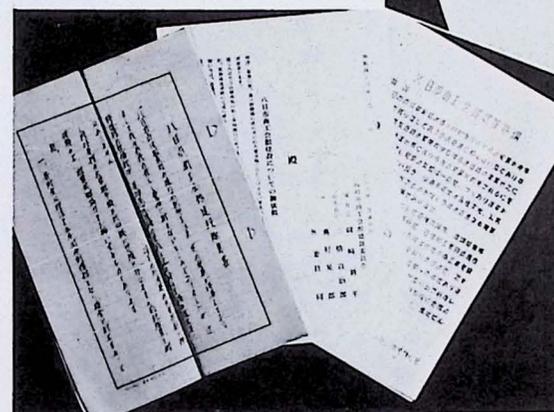
会館の雄姿



第1回の会館完成図

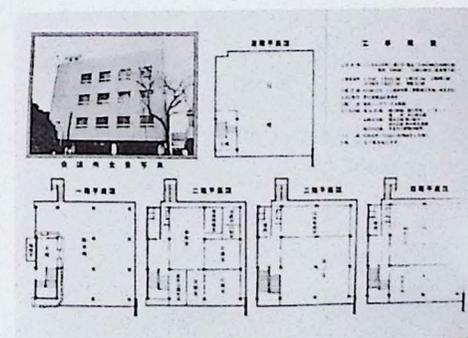


会館建設寄附同意書



会館建設についての依頼書

会館完成平面図



八日市商工会館建設要綱

1 趣旨

八日市市は御承知の通り市制施行以来其の発展が停滞致して居りまして我々市民憂慮に耐えない処でありましたが、近來道路の整備就中名神高速道路の完成や之に伴う工場の進出等により今後の発展が約束されるに至りました。然し発展の基盤は一応整いつつありますが都市化現象の強い現今、必須不可欠の各種文化、公共施設は殆んど見るべきものがなく今後の急速なる施策が要請されている次第であります。

特に商工業界のセンターとして各種会議場、催物開催場、物産陳列場、商工図書、資料室、各種商工業関係組合の事務所等を包容する建物の不備は今後の商工業発展に支障する処極めて大なるものが有りますので、之が整備は迅速を要する処と思慮されて参ったのであります。此の時、現商工会議所隣接の地が売られましてしたので此の好機を捉えて商工会議所とは別個に念願の商工会館を建設し商工業発展の基盤を造成、強化せんとするものであります。

2 要領

(1) 建設予定地及建設概要

現会議所に隣接する元小沢病院跡を買収し現建物に密接して重量鉄骨3階建の会館を総工費(土地代等を含む)約4200万円円で建設し現建物と共に使用せんとする。

(2) 土地の買収

- イ 会議所の隣接小沢病院跡現昭和不動産所有の土地94坪外若干を買収
- ロ これに要する資金

94坪分×坪65,000円=611万円

(3) 建物の建築

- イ 現在の建物に附着して重量鉄骨プレハ

ブ建築を行う。

7間×9間=63坪×3階=189坪

- ロ 将来の増築を見越し現建物を取りこわした後に増築し一体化し得るよう設計及施工を為す

- ハ 暖房は実施するが冷房は将来設備し得るよう設計を為し置く

ニ 建築に要する費用は、210坪×210坪×坪当り13万円=2730万円

(4) 備品の整備

- イ 机 椅子、暖房機械約500万円

(5) 駐車場

- イ 会館の表空地に短時間駐車場を設置する。

- ロ 会館の四周は自動車の通行し得るよう整備し裏空地に長時間駐車場を設置する

(6) 資金

土地買収費 611万円 会館建設費2730万円 備品整備費 500万円
外に設計監督費及雑費並に予備費 300万円

合計 4,141万円 大約 4,200万円

(7) 建設実施と資金の募集

- イ 資金は3カ年間の分割寄付とし、昭和43年度中に建設を為す。

- ロ 資金は市内外関係者の寄付を募集する
- ハ 寄付金は税法上5年分割償却となり損金計上を許される

ニ 市に対し3分の1の補助を要請する

3 措置

会議所に八日市商工会議所建設委員を組織し此の委員会に於いて万般を処理する。

会館建設委員の決定

- 委員長 岡崎耕平
- 副委員長 二橋貞治郎 奥村晃一郎
- 委員 山田隣之助 川村金一



会館竣工 会頭あいさつ



会館竣工祝賀式典

- 辻川敬一
- 仙波玄一 北岸幸太郎
- 川副 清 辻川敬一
- 喜多良三 笹井太一
- 西沢定雄 久保謹吾
- 多田富蔵 斉藤香苗
- 木村豊一 二橋貞雄
- 高木達也 中村 昇
- 市田隆三 内片陸郎
- 松吉郁郎 高村幸一
- 前川捨蔵 村田信一郎
- 中井作治郎 大洞巖
- 小沢国太郎 村田和平
- 池田峯次郎 志賀末男
- 小沢安蔵 小島外夫
- 図司松兵衛 山田平治
- 村田梅吉 堀井寅蔵
- 福井八右衛門

の諸氏に決り



新会館完成

小委員会のメンバーとして

委員長及副委員長の外、喜多良三、多田富造、高木達也、高村幸一、村田信一郎、山田平治、堀井寅蔵の10名を以て構成し建設のための具体的計画の立案に入った。

当初計画された会館の内容は現建物と密着して重量鉄骨3階建のもので約4200万円（土地買収費を含む）を計画したが、数回の委員会を開催し検討の結果変更することになり、第2次案として鉄筋コンクリート4階建、総工費約7400万円の会館とすることに決定、議員総会に提出可決された。

資金計画としては

- 県補助金 4,000,000円
- 市補助金 15,000,000円
- 分担金 55,000,000円

八日市商工会館建設についての御依頼書の作成及建設趣意書、同意書の配布

× 第2次案決定に伴い建設委員を中心として市内の事業所に配布すると共に同意書の署名に奔走され起工式を挙げるようになった。

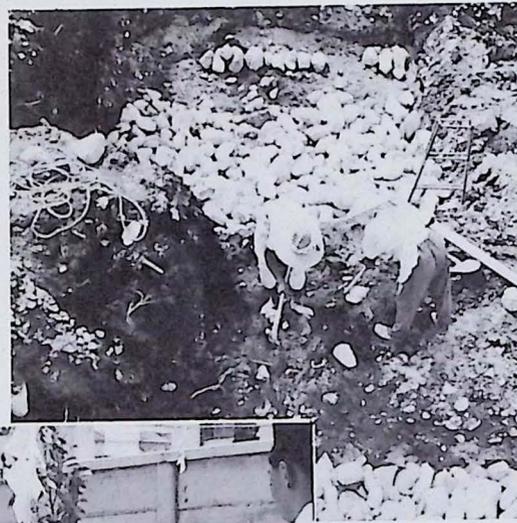
起行式の挙行

会館工事を請負う業者の決定は丸八建設㈱になり、ここに昭和43年7月17日午前10時より会館敷地に於て市長を始め多数の来賓のもとに司祭市神々社宮司により挙行された。

竣工式典の挙行

起行式が挙行されてから約9カ月の歳月を経て昭和44年4月22日午前9時より御祓の儀を行い午前10時より4階大ホールに於て滋賀県知事商工労働部長及市長等市内外より数百名の来賓を迎えて盛大に竣工の式典を挙行し、ここに八日市市商工業の殿堂として業務を開始することが出来た。

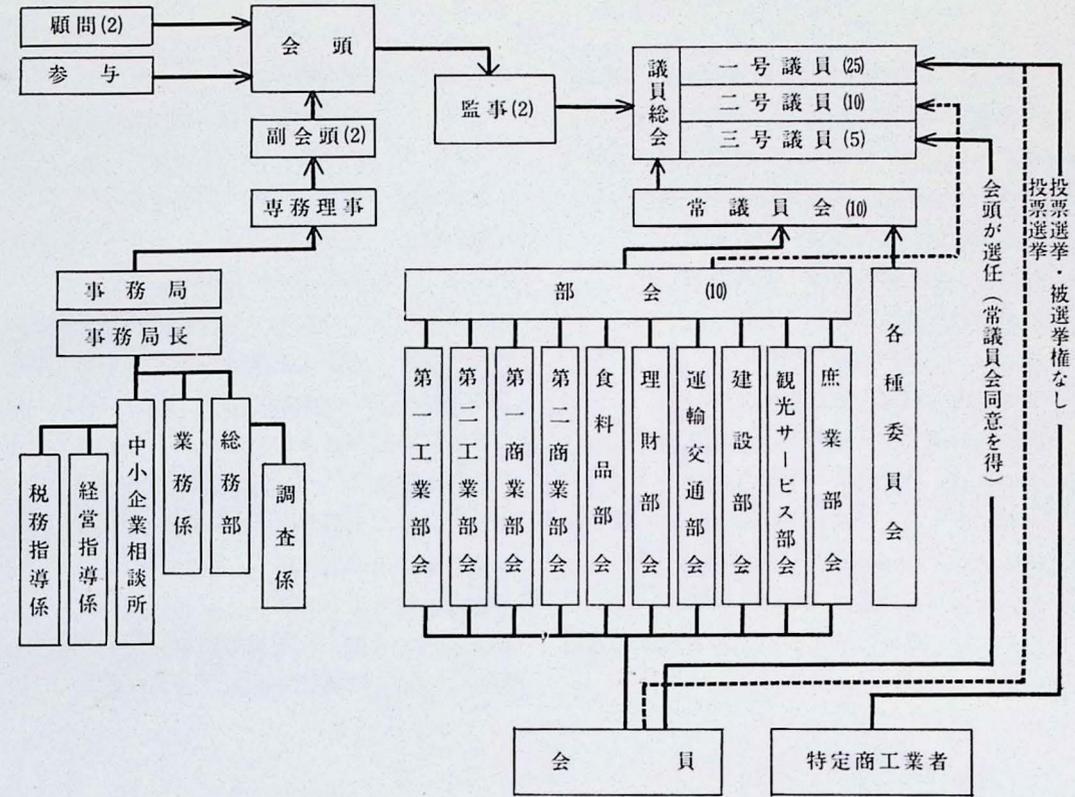
新商工会議所会館基礎工事



新商工会議所会館建設鉄入式



8 八日市商工会議所の機構図



創立当初の事務局



現在の事務局

9 八日市商工会議所15周年記念式典

昭和46年2月開催の議員総会に於て、創立15周年記念式典及記念事業として商工名鑑の発刊が可決され諸般の準備のため特別委員会を設置する事になり会頭より次の諸氏が委嘱された。

石戸慶次郎 長野重衛 堀井寅藏
村田信一郎 藤井幸雄 福原憲治
西田藤吉 西川平助 木村豊一
笹井太一 中村昇 大洞 巖
北岸正次 前川 恕 西沢定雄
山田晴一郎 小沢康二 渡辺福之助
松吉郁郎 仙波玄一 中井作治郎
志賀末男 辻 伝造 二橋貞雄
岡崎耕平 二橋貞治郎 奥村晃一郎
北村繁太郎 阿部秀二

互選の結果、委員長前川恕、副委員長福原憲治を選出。

尚、商工名鑑作成小委員として

笹井太一 長野重衛 石戸慶次郎 西川平助
中村 昇 山田晴一郎 小沢康二 松吉郁郎
二橋貞雄 奥村晃一郎 阿部秀二

互選の結果、委員長笹井太一、副委員長長野重衛を選出。式典会場設営のための委員長に西川平助を委嘱。以上のスタッフ以外に名鑑記載の広告スポンサー依頼は全議員が協力する事になり会議所挙げてこの事業に集中した。式典は、11月6日に決定され準備を進め、八日市商工会議所会館4階大ホールに於て、滋賀県知事代理外、来賓者多数と会員併せ260人を迎えて、当日のプログラムは次の通り盛大に挙行された。又15周年記念を祝って八日市ロータリークラブ会長久保謹吾氏より屋上に国旗掲揚ポールが寄贈され午前9時より除幕式が厳粛に行われた。

プログラム

式典 10.00~11.30

司会	専務理事	北村繁太郎
	副会頭	二橋貞治郎
開会のことば		
物故役職員追悼		
来賓紹介	専務理事	北村繁太郎
経過報告	委員長	前川 恕
挨拶	会頭	岡崎耕平
表彰状授与		
勤労者表彰		
功労者表彰		
永続企業表彰		
来賓祝辞		
	滋賀県知事	野崎欣一郎
	八日市市長	武村正義
	商工会議所連合会長	獄山貞治郎
	県会議員	小 嶋 外 夫
閉会のことば	副会頭	奥村晃一郎

祝 賀 12.00~14.00

司会 事務局長 阿部 秀二
副委員長 福原 憲治
初代会頭 関司 松兵衛

歓迎のことば
乾 杯

表彰者一覧表

勤続15年の役員、議員、職員

副会頭 二橋貞治郎
常議員 北岸幸太郎
" 向政太郎
議 員 池田峯次郎
" 山田隣之助
" 仙波玄一
事務局長 阿部秀二

前 議 員 志賀末男
" 梅原康三
" 小井八右衛門
" 平田謙之助
商店街連盟理事 中井作治郎

永年企業

株式会社 天王寺屋ヤナギヤ商店
扇屋商店 天満屋酒
有限会社 トラヘイ馬鳴屋
株式会社 荒松商店 豊重商店
八百善商店 谷松商店
山川本店 焼酎屋
板屋奥和商店
カネシメ陶器店 中川設備センター
銘茶ますきちマズリン
大垣屋自動車工業株式会社 合名会社 かし藤商店
大 市株式会社 木村鉄工所
種安商店 大松商店
合名会社 出目又商店 千切屋商店
ヤクアン薬局 有限会社 中沢商店
がらや商店 山田酒
志賀熊商店 灰谷平章堂
中 庄 有限会社 大里
海老長東 湯
山彦材木店 池田
◎ 珠玖商店 ひのや酒
有限会社 向菊商店 酒 弁
マツヨシ
有限会社 アラカツ
丸和産業株式会社
村栄食料品店
小菅印判所

勤続10年以上の役員、議員、職員

常議員 福原憲治
議 員 前田春吉
" 村田梅吉
" 西沢久治
" 藤井幸雄
職 員 村田良三

功 勞 者

前会頭 関司松兵衛
前副会頭 小梶三右衛門
" 山田平治
" 内片陸郎
" 藤田莊太郎
" 西田藤吉
前専務理事 森井 滯
前監事 重森文二
前常議員 西堀栄治郎
" 小島弘太郎
" 前川捨藏
前議員 三浦忠藏
" 松本政治郎
" 外村伊八

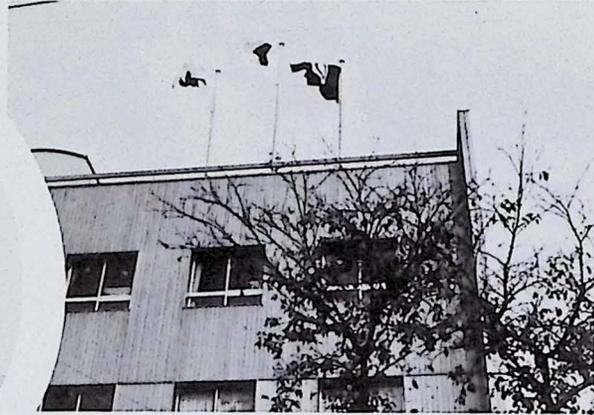


創立15周年記念式典会場

屋上にひるがえる日章旗



15周年記念式典会頭あいさつ



15周年記念式典全景

八日市市の概況



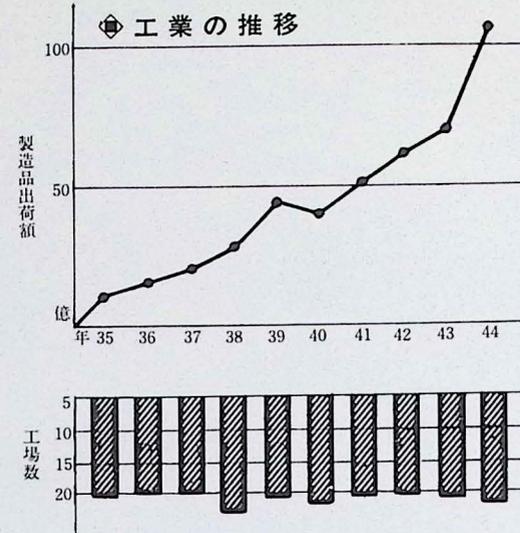
◆ 事業所

区 分	総 数		民 営						公 営	
	事業所数	従業者数	個 人 会 計				そ の 他		事業所数	従業者数
			事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数		
合 計	1,925	10,979	1,480	4,120	272	5,225	116	566	57	1,068
農 林 水 産 業	3	95	—	—	—	—	3	95	—	—
鉱 業	3	48	1	1	2	47	—	—	—	—
建 設 業	197	1,109	177	530	19	570	1	9	—	—
製 造 業	192	3,154	146	638	42	2,408	4	108	—	—
卸売業・小売業	1,003	3,464	858	2,167	141	1,274	4	23	—	—
金融保険料	23	280	11	16	9	204	3	60	—	—
不 動 産 業	15	30	8	8	6	18	—	—	1	4
運 輸 通 信 業	37	645	11	23	17	295	1	15	8	312
電 気 ガ ス 水 道 業	9	139	—	—	4	132	—	—	5	7
サ ー ビ ス 業	433	2,015	268	737	32	277	90	256	43	745

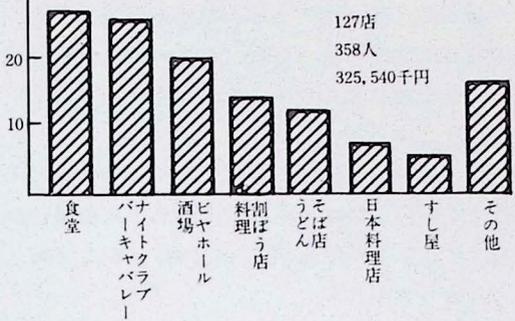
◆ 分類別商業状況

区 分	商店数	従業者数	商品年間販売額 (千円)	一店当り販売額 (千円)	従業者一人当り年間販売額 (千円)
昭 和 35 年	722	2,004	3,668,269	5,081	1,830
昭 和 37 年	711	2,104	5,062,350	7,120	2,407
昭 和 39 年	803	2,540	7,254,937	9,035	2,856
昭 和 41 年	798	2,651	9,177,060	11,500	3,462
昭 和 43 年	793	2,728	12,626,820	15,923	4,629
一 般 卸 売 業	91	576	5,598,050	61,517	9,719
特 殊 卸 売 業	—	—	—	—	—
各 種 商 品 小 売 業	—	—	—	—	—
織物・衣服・身まわり品小売業	120	415	1,342,900	11,191	3,236
飲 食 料 品 小 売 業	285	658	1,551,610	5,444	2,358
自 転 車 ・ 荷 車 小 売 業	54	193	644,890	11,942	3,341
家 具 ・ 建 具 ・ 什 器 小 売 業	83	290	917,780	11,058	3,165
そ の 他 の 小 売 業	160	596	2,571,590	16,072	4,315

◆ 工業の推移



◆ 飲食店数 (昭和43年)



◆ 飲食店数従業者数および商品販売額

区 分	商店数	従業者	年間商品販売額 (千円)	一店当りの年間販売額 (千円)
昭 和 35 年	97	248	84,281	869
昭 和 37 年	112	323	141,540	1,264
昭 和 39 年	116	312	154,830	1,335
昭 和 41 年	116	326	207,210	1,786
昭 和 43 年	127	358	325,540	2,563

◆ 工業状況

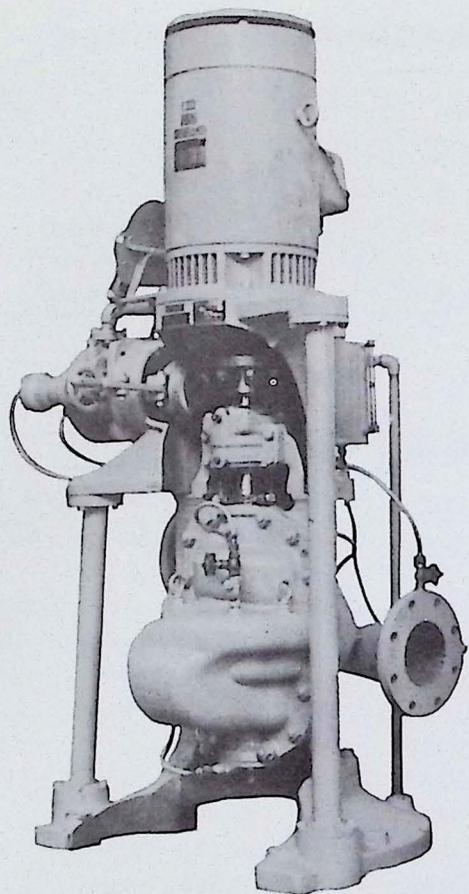
項 目	産業中分類	事業所数	従業者数	現金給与額 (万円)	原材料等使用額 (万円)	製造品出荷額 (万円)		
						計	製造品出荷額	加工賃
総 数		172	3,113	181,980	690,902	1,071,491	1,040,912	30,579
食 料 品 製 造 業		44	236	8,932	99,646	153,659	153,582	77
織 維 工 業		27	549	20,833	89,047	125,778	110,230	15,548
衣服・その他繊維製品製造業		16	310	10,003	19,028	36,708	26,667	10,041
木 材 ・ 木 製 品 製 造 業		22	97	2,826	29,471	5,462	36,740	368
家 具 装 備 品 製 造 業		11	38	829	3,417	5,462	5,410	52
パルプ・紙・紙加工品製造業		4	147	6,752	44,960	64,274	64,221	53
出版印刷・同関連産業		9	65	2,857	4,345	10,899	10,725	174
窯業・土石製品製造業		4	903	50,778	113,614	231,465	229,952	1,513
金 属 製 品 製 造 業		7	153	10,276	107,239	129,115	128,813	302
機 械 製 造 業		4	174	11,897	28,903	51,630	49,986	1,644
電 気 機 械 器 具 製 造 業		3	341	12,571	139,710	206,213	206,213	230
そ の 他 の 製 造 業		21	100	43,408	11,517	18,950	18,373	577

特産

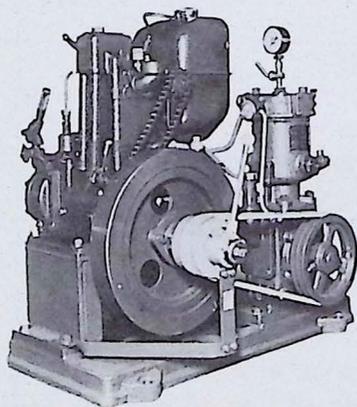
世に古く近江商人といわれるのは当市周辺の湖東地方出身の商人を指したもので、その足跡は日本全国に及んでいます。したがって商業活動はすこぶる盛んです。

近江肉牛、近江米、銘酒、葉たばこは立地条件を生かした特産であり手工芸品、高級織物は有名です。又地場産業と共に内陸工業も進展しつつあります。

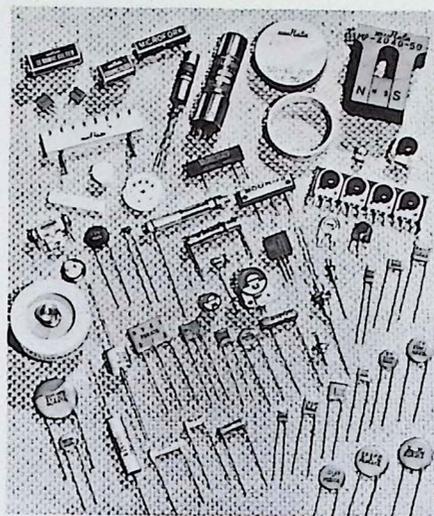
バルブ



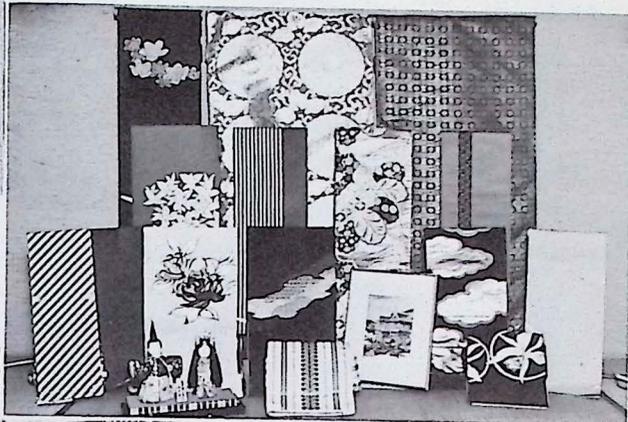
回転渦巻ポンプ



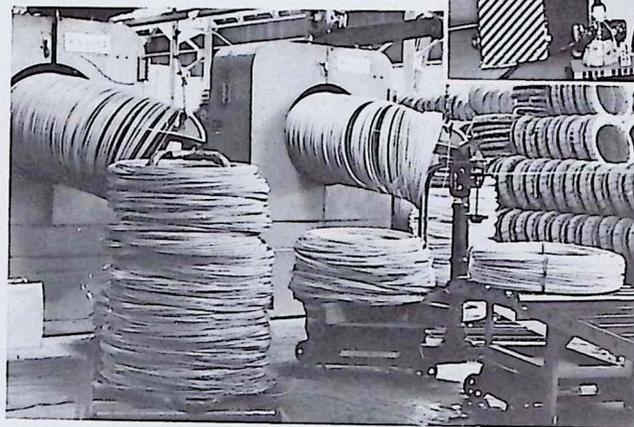
高圧空気圧縮機



電子部品



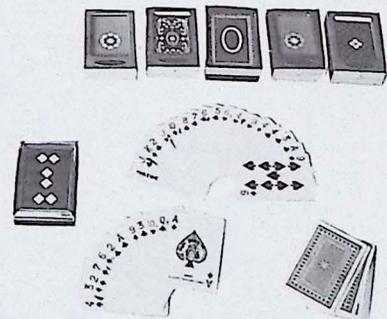
高級織物



ビニール被覆鉄線



銘酒

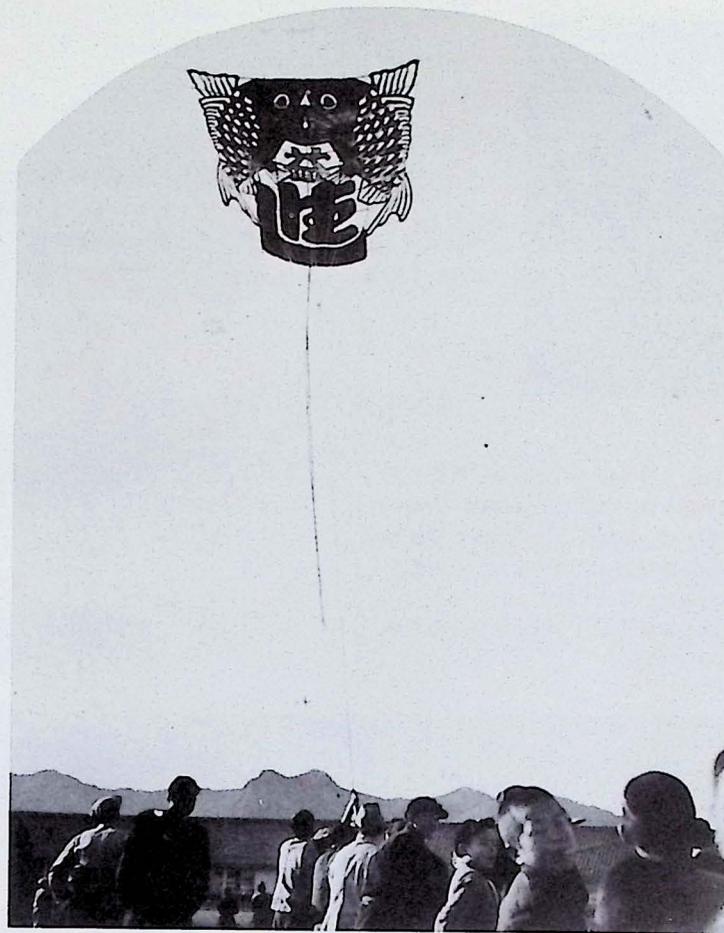
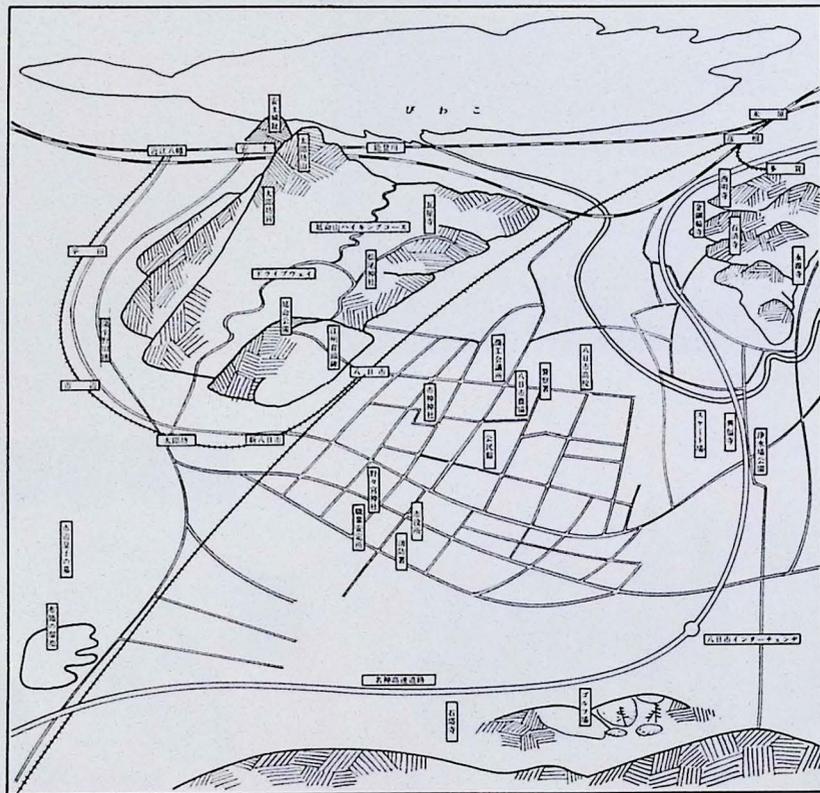


トランプ

観 光

観光年中行事

- 1 月 太郎坊初詣 市神社十日戎 市辺裸まつり
- 2 月 太郎坊節分祭
- 3 月 市辺神社開市祭 御河辺神社裸まつり
- 4 月 延命公園 瓦屋寺の桜 八日市まつり 大凧あげ 最上おどり
- 5 月 太郎坊御田植祭 布引イチゴ狩り
- 6 月 愛知川の鮎釣り ホタル狩り
- 7 月 太郎坊千日祭 花火大会 愛知川鮎釣り
- 8 月 江州音頭盆おどり 聖徳まつり 琵琶湖まつり
- 9 月 布引くり狩り
- 10 月 延命ハイキング 松茸狩り
- 11 月 瓦屋寺 永源寺 湖東三山の紅葉狩り えびす講 キジ猟解禁
- 12 月 太郎坊お火焚祭



大凧の飛揚

八日市名物“大凧”は日本一の大きさを誇り、昭和33年11月県の無形民俗資料に選択された。天保の昔から祝の行事、祈りの行事として作成し飛揚されていたが、戦前戦後の空白時代があったので、当所の尽力で復活、計画を立て昭和28年3月盛大に飛揚された。

名称 “公益を進む”

大きさ 縦11.7m

横10.8m

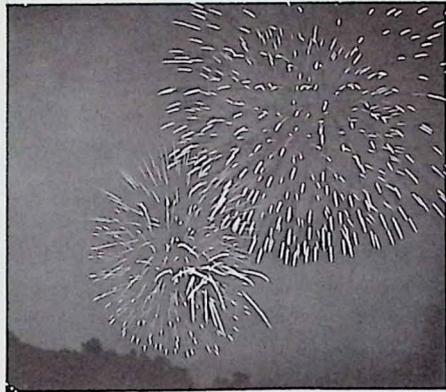
以来、大凧保存会を結成し7回の大凧を作成し飛揚している。

写真は昭和28年3月と昭和33年3月に飛揚したもの。

上は復活第一号“公益を進む”

下は“五穀豊穡”





煙火大会

夏の風物として市民に親しまれている煙火大会は古くから八日市の名物として実施されている。毎年7月23日夜、延命山を主会場として1000発余の煙火が夜空に打ち揚げられる。

聖徳まつり

例年商店街連盟が主催し、商工会議所、八日市市、観光協会が共催して実施していたえびす祭（商工祭）を昭和45年度から全市的な催物に改組し商工会議所、八日市市、観光協会が主催。商店街連盟、湖東地区工業会等が共催することになり、名称も当時開祖の聖徳太子にあやかり、その名も聖徳まつりとし、全市挙げてこの催しに参加することになった。本年は参加団体45となり、3,000名の人々によって江州音頭を会場一杯に踊り続けられた。



びわ湖まつり盆踊り大会

母なる湖びわこに感謝する意味で、例年実施されているびわこまつりの統一行事として、八日市市で盆踊大会が8月実施され、万余の人々で夜のひととき盆踊に興じている。



布施の溜

布施の溜





湖東三山 西明寺



安土城跡

湖東三山 金剛輪寺



湖東三山 百濟寺



夢の将来

1 運河とハイウェイ

西暦2001年——。

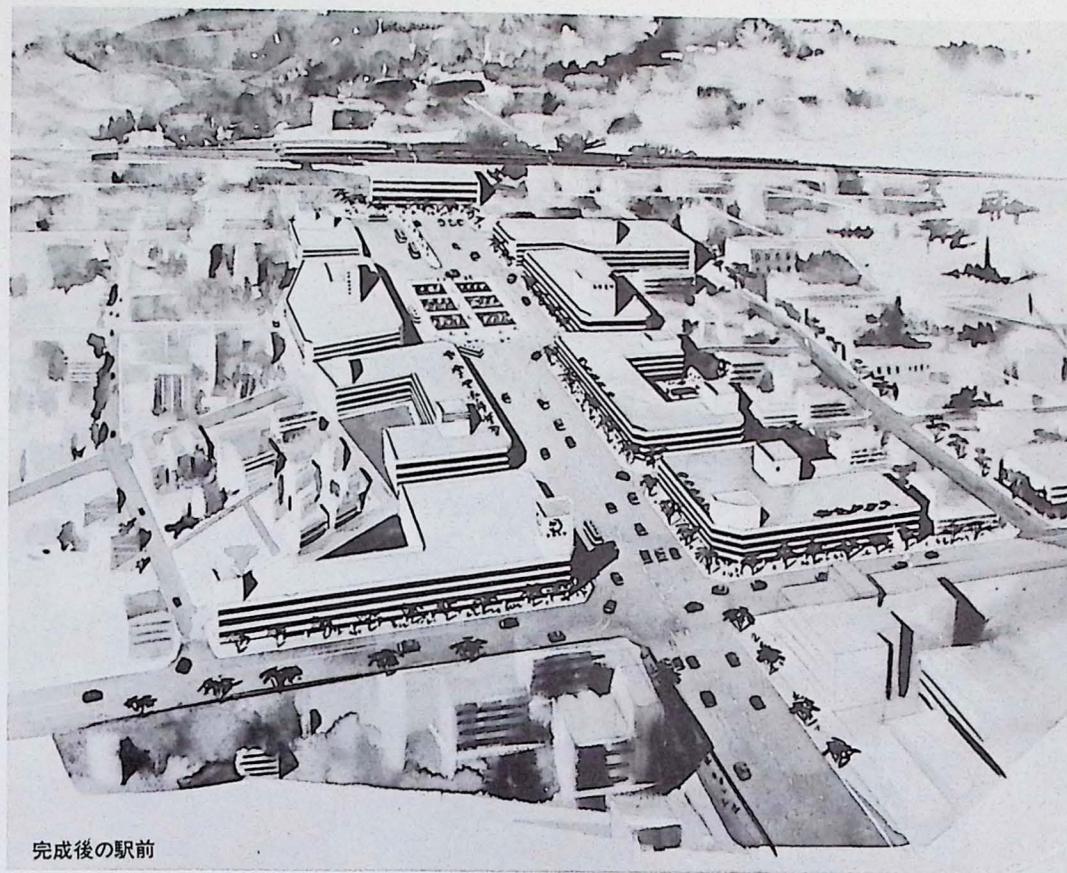
八日市の名前は日本全国だけでなく、アメリカやヨーロッパにまで知られることになった。それは若狭湾と琵琶湖そして伊勢湾をつなぐ日本横断運河と、北海道から九州までをつらぬく日本縦断ハイウェイのちょうど接点に八日市が位置しているからである。未来の八日市の紹介はまずこの運河とハイウェイの話からはじめなければならぬ。

日本海と太平洋を運河でつなごうという案は早くからたてられていた。この日本横断運河は最終的に敦賀港と四日市港をむすぶのが効果的であると判断され愛知川ぞいに八風峠をへて四日市に達するコースが実現した。大型汽船の通過は困難であるが、観光船やモーターボートがゆききし、フェリーボートで物資の運搬もおこなわれるようになった。いっぽう、名神・東名ハイウェイをはじめ北海道・東北・中国・九州の高速自動車道が日本をつらぬき、おまけに交通量の増加からベア（現在のハイウェイを上り専用とし、下り専用のハイウェイをもう一線つくる）として建設された。この日本横断運河・縦貫ハイウェイのまじわる地点が、八日市インターチェンジとなったのである。当然八日市は全国的な交通の要衝地として脚光をあびることになった。さらに北陸縦貫自動車道、山陰自動車道なども滋賀県、それも八日市インターチェンジをとりまくように接続されたので、観光・物流流通両面の中心基地として八日市は発展した。青い空をうつした運河と、巨大な自動車道の交差する超近代的な風景は、大きなポスターや雑誌のグラビアで紹介された。八日市インターチェンジまで自動車できてこんどは運河をモータ

ーボートで伊勢湾や若狭湾にむけ走ってゆくといったレジャーが流行するようになった。もちろん物流流通と分配の基地としての一大トラック・ターミナルも建設された。沖野が原全体が大規模物流流通センターに変貌したのである。はじめ、この案が発表されたときには騒音とか排気ガスを理由に反対する人達もあった。だが無公害の電気エンジンが大型トラックに搭載されてその心配はなくなり、トラック・ターミナルそのものも積極的にみどりを取り入れた整然とした設備にととのえられているので、美しい風景をそこなうということもない。このターミナルに働くひとびとあるいは八日市の便利さに居を移したひとびとで八日市市の人口は急激にふくれあがることになった。

2 ニュータウン

いうまでもなく、いくつかの住宅ニュータウンが出現した。このニュータウンをつないでひろびろとした環状道路が建設された。環状道路は中央に大きなグリーンベルトがあり、そこには四季の花がいっぱいに咲いている。要所要所に噴水もあって、道路というより公園の感じである。そして環状道路は太郎坊から瓦屋寺までトンネルでぬけている。住宅ニュータウンの中で目新しいのは、箕作山ニュータウンだろう。箕作山の南面、蒲生野にむかいあった傾斜地全体に町がつくられたのである。山麓から頂上にかけて松林のあいだに白い住宅が点々とちらばっている。どの家も南に面してガラス窓がとても大きくとっている。太陽の光がふんだんに入るうえに大きな魅力は眺望のすばらしさだ。部屋のソファにもたれて外をみると、整然とした市街地、みどりのカーベットのような田園、帯



完成後の駅前

になって伸びる運河やハイウェイさらに水色にかすんだ鈴鹿山系——とまさに一巾の絵画である。高い位置ほど眺めがすばらしいから、山頂にちかくなるほど人気がある。箕作山ニュータウンには山麓から頂上にむけて数本の「動く歩道」がとりつけられてあり、ひとびとはこの歩道を利用して上り下りをしている。

3 ショッピング公園

八日市の中心部は大きなステーションビルと駅前公園である。八日市駅を走っている鉄道は「第二新幹線」とよばれている。米原・八日市・貴生川・信楽を通過して京都へ出さらに関西線を利用して大阪に達するコースが完成されたのである。すでにモノレール化が叫ばれてそれへの計画が着々と練られている。長距離交通にはやはり自動車より鉄道の方が便利で早い、という

評判になっているのだ。八日市ステーションの前は公園である。大きな噴水が中央にあって虹色にかがやきその水が街路の中心をまっすぐ美しく流れている。流れのほとりを恋人たちが手をとりあって散策している。広い街路の両側にはショッピング街がつづいている。ショッピング街の特色は自動車が一台も姿を見せないことである。街路のまんなかでボール遊びをしている子どもたちの姿も見えるがまったく心配がいらぬ。というのも環状線の内側は、自動車道路がすべて地下にもぐり込み駐車場も地下にあって市街地に車を乗り入れることが禁止されているのだ。だから環状線の内部が一つのショッピング公園を形づくっているのである。公園と商店が渾然一体のものとなり、池や小川やベンチ、そして小さな林などが美しい商店街と交互につづいている。買い物——ショッピングは

レジャーの一つになって人々は時間をかけて買い物「愉しむ」ようになったからである。町の眺めの中でもう一つ気がつくことは延命公園の大きな花時計である。チューリップやパンジーといった草花でなく桜やつつじなど花木を利用した直径 100メートルにも及ぶ巨大な花時計。ハイウェイや運河からはもちろんのこと航空機のうえからもこの大きな花時計が見えるというのでとても評判になっている。

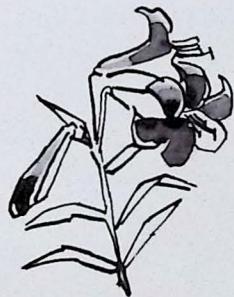
4 文化と産業

長谷野丘陵はレジャーランドとして開発された。野球場、陸上競技場、又プール、スケートリンク、大ボウリング場といったスポーツ施設が集まっている。「見るスポーツ」から「参加するスポーツ」に変わり、ひとびとは週休三日制による余暇を自分の好みのスポーツを行うことで健康的にすごすようになった。もちろんゴルフのパブリックコースもいくつかつくられて、家族づれでゴルフに興じる人々の姿も珍しくなくなった。布引丘陵の一角に白亜のビルディングが散見できる。これは、研究所、国際会議場、学生会館（宿舎兼用）などをふくめた総合大学である。一万数千名の若い学究がここで学びあるいは研究をつづけている。国際会議場はこれまでも国際級の学術研究会議が催された。とくに布引丘陵の総合大学が最近有名になったのは、太陽光線をエネルギー源として活用する技術を開発したことである。これまで工場公害としてさわがれた種々のエネルギーと異り、太陽エネルギーにはなに一つ公害がない。しかも一度施設をつくれれば資源は無限であり非常に安価で高い力が得られる。八日市市の各企業は、開発されたばかりの新技术をただちにそれぞれの産業に導入した。こうして八日市の産業は従来と比較にならないくらいの利益を得ることになった。

5 おわりに

もう30年もしないうちに私たちは21世紀をむかえる。だがこの30年間は、これまでの30年間とはさらに比較にならないくらいめまぐるしく変化し発展していくことだろう。いまどうてい不可能だと考えていることでも、30年先には簡単に実現していることもあるだろう。

だから21世紀の八日市はあるいはこゝに想像した以上にすばらしい姿となっているかもしれない。そして、そうなるように努力しなければならない。私たち全市民が英知をあつめ力をあわせれば、けっして夢の実現は不可能でないということをつけくわえて未来の八日市についての稿をおわろう。



八日市商工業の今昔

1. 上代の八日市

八日市とその周辺を眺めて、最も古い歴史的遺跡を探すならば、延命寺山麓や日吉の溜などをつぶさに調査しなければならないが、このあたりは愛知川の洪水によってできた洪積層であると考えられる。そこに人が住み、文化が生れたわけだが、爪生津、鯉江、上岸本、三津屋、浜野などの地名から、古くは琵琶湖が入りこんで、湖畔ではなかったかという説もある。延命山の上から、湖東平野を見ると、たしかに愛知川が、この附近の形成に大きな影響を与えたことがはっきりする。さて、上代の遺跡探訪ということになるが、ほとんど伝承の域を脱しないけれど、延命山古墳、瓦屋寺古墳、布施の溜、蒲生野、太郎坊山麓の金桂宮跡、市辺皇子墓な

どを見て歩くとおぼろげながら古代の八日市が浮んでくる。

すこし遠いけれど、蒲生野の全地域に目を注ごう。大中之湖南遺跡、安土瓢箪山古墳、石塔寺三重石塔、鬼室集墓などがあり、古代帰化人の文化が目につく。大陸文化とのつながりもあきらかに存在したと認められる。たとえば竜王町の天日槍の従者陶人の窯跡などによって、かなり高い文化の人々が想像される。

このように八日市とその周辺の古代の文化を連想させる遺跡から、狩猟生活が農耕生活に発達し、さらに商品の流通が盛んとなり、市場が発生してくる過程を想像してみよう。その古き時代の八日市の商工業的匂いのする伝承といえは金桂宮跡にまつわる狼の長者の伝説ぐらいである。金桂宮がどのようなものであったかを知る文献は皆無である。ただ『梁塵秘抄』という平安時代の文学作品に「近江のおかしき歌枕老蘇蘇、蒲生野布施の溜、安吉橋や伊香具野、余呉の湖の浦に新羅が建てたりし持仏堂の金の柱」とある。この金柱については『山槐記』の「注進風土記」に「金桂古麻長者持仏也」とある。これらによって実在したことはたしかだが、いつごろからあってどのような内容だったか、すべてわからない。けれども、今里青蓮寺の村落の約400m西方に段丘状の一角があり、そこに「金桂宮之跡」の碑があり、明治の神仏分離の影響で阿賀神社に合祀されるまで、金桂宮の社殿があった。こゝにでてくる狼の長者はこの地方を開発した帰化人である。

狼長者の伝説については、今里来迎院の境内に「かまど石」があり、青蓮寺裏山に長者の手水鉢があったし、平木に長者の石臼などが残っていて、船岡山が長者の庭園であったとか、八



金桂宮之社

八日市の中央を流れる筏川を古くは狼の井とも
 いったらしく、狼の伝説を伝え農業の発達にも
 貢献したという。金桂が何を意味するかよくわ
 からないが、狼の長者の一族が、蒲生野に勢力
 をもっていたことはたしかのようである。狼の
 長者と御園の高麗寺（神田町駒寺）、金勝山の
 狼坂寺、その他、県内各地の帰化人との関係が
 どんだったかは不明ながら、爪生津の慈眼寺
 の金銅聖観音像が狼の長者の持仏だという『近
 江蒲生郡志』の説もあながちでたらめではなか
 ろう。さすれば、八日市周辺に金桂宮にまつわ
 る帰化人開拓の太古をふりかえると、このあた
 りから市場の起源をさぐらねばと思われる。金
 桂を金の延べ棒だと考えたり、黄金などと現代
 字義的に考えると誤りをおかすのであろう。金
 桂を帰化人の祭具と考える民俗学的解説もある。
 『梁塵秘抄』の「持仏堂の金の柱」をそのまま
 解釈して、持仏堂つまり小さな厨子の柱が黄金
 であったと解釈しておいてはどうだろうか。慈
 眼寺の金銅仏は高さ30センチ。その厨子の柱が
 金であったというのだが、それが歌枕に数えら
 れたと考えるのはすこしお、げさなようでなか
 ろうか。狼の長者の持仏堂が五個荘町や日野町
 の近江商人の旧家の仏壇と同程度であったと考
 えれば納得できないこともない。とにかく八日
 市の起源をこのあたりにおきたいのである。

聖徳太子の開市

八日市の市場がどのように発生したかについ
 て、従来いろいろの説がある。もっとも一般に
 知れわたっているのは「八日市市神之本記」に
 誌された聖徳太子開市説である。まず、市神之
 略本記を全文引用しよう。



聖徳太子像

抑此江州神崎郡八日市場に市神と崇奉るは推
 古天皇元年聖徳太子四天王寺を造営し給ふ時
 同郡白鹿山の東の麓において筏千万の瓦を造
 らせ難波津に運ばせたまふ 然に 太子かの
 山に渡らせられ新に瓦屋寺を営し手づから大
 悲の像を彫み本尊に安置し給ふ 且桴川の北
 に民室数百戸を置 事代主命の神像を刻し一
 祠壇に納め 同九年三月八日始めて市店を開
 き士農工商の別なく交易する事を教給ふ 其

八日市場市神之本記
 抑此江州神崎郡八日市場に市神と崇奉るは推古天皇元年聖徳太子四天王寺を造営し給ふ時同郡白鹿山の東の麓において筏千万の瓦を造らせ難波津に運ばせたまふ 然に 太子かの山に渡らせられ新に瓦屋寺を営し手づから大悲の像を彫み本尊に安置し給ふ 且桴川の北に民室数百戸を置 事代主命の神像を刻し一祠壇に納め 同九年三月八日始めて市店を開き士農工商の別なく交易する事を教給ふ 其

八日市場市神之本記

後正暦の頃安倍晴明白鹿山に詣て此神像を拜し 太子の真意を継ぎ市庭鎮護の行を奉り正月十二日を初市と定七月十日讞日廿六日を間の市とせんいふことを初む 夫よりして八日市とは唱へ待りぬ それ 本朝市の初とは三輪の市候此市にこそあるなれ猶委事は延喜式に見へたり 且源平盛衰記にも此市の事を記せり 是の書によりつつも其古き事おもひ合へり又 天正の頃 右府信長公安土山に城郭を築き市街を置るに 此神像を安置すれば 人は是を惜み山王の神を偽り送りけるさるにてや安土に市人の集るなく本の如く其地につどひ交易したり 是市神の勝れ給ふ験にやとて其頃の士俗添ふも恵比須といひあえり具こと今の世諺に残れりされば此市の始より千餘年を経とも暫も絶ることなく猶筏万代の末までも此里の栄えて度勝たりとまつらめやと

慶長十五年庚戌五月八日

北野々宮神主大江基房謹上再拜敬白

推古九年ヨリ寛政十二年マデ千二百年也

八日市市神社蔵板

この文献の史料的価値は学問的に高くないけれど、とにかく伝承がこのような形で残っていると見ると、長いあいだ聖徳太子が市を開かれたと信じてきたのである。だから、開市記念日も三月八日とし、「開市記念祭の歌」にも「千有餘年のそのむかし、聖徳太子の開きてし、歴史は古き我が町の、その名なつかし八日市」とうたわれ、聖徳中学校、聖徳まつりなど聖徳太子ゆかりの何々が町のあちこちにある。ところで、聖徳太子と市場に関する文献は、『和漢三才図会』に「推古天皇九年に聖徳太子市を始む」とあり、蛭子神をまつりて商業の神としたとあり、『庭訓往来抄』にも、「就中、市場に夷を祝うこと子細あり。聖徳太子と西ノ宮の御前と御約束なり、末世の衆生、放逸邪見を宗とすべし。国々の者集り雑言し酒に酔ひな



市神社



市神社御神体

ば、喧く刀傷出来べし。市猥しく可成」などがある。いずれもどこまで信じてよいかかわらないが、聖徳太子が市場と深い関係にあり、それをもとに八日市の開市を結びつけて説話的に伝承したものらしい。市神社には聖徳太子の像を祭祀している。ところで、八日市の周辺を歩くと、聖徳太子を開基とする有名寺院が多く、石塔寺、石馬寺、観音正寺をはじめ、近江に48カ寺を建立されたと伝える。近江の国の開発に聖徳太子は深いかかわりがあるようだ。推古天皇の御代に近江と朝廷が結びついたらしい史実は滋賀郡小野の小野妹子が遣隋大使になっていることである。それ以前のことになると神話的になるが、景行天皇の高穴穂宮、仲哀天皇と坂田郡息長氏出身の神功皇后、市辺押磐皇子と顕宗天皇、仁賢天皇などのことが連想される。これらの伝承が聖徳太子開市と強く結びついたのである。しかし、これは恐らく史実でなく、もっと別な立場から開市の由来を考える必要があらう。

帰化人の開市

菅野和太郎氏の『近江商人の研究』によると八日市の市庭がどのように発生したかの考察において、かなり帰化人説を重視している。聖徳太子の時代からはすこしくだるが、『日本書紀』を見ると、天智天皇の四年(665)春二月に「百濟国の官位の階級を勘校ふ。仍、佐平福信の功を以て、鬼室集斯に小錦下を授く。復、百濟の

百姓男女四百餘人を以て、近江国の神崎郡に居く」とあり、さらに、同じ天智天皇の八年(669)に「佐平餘自信・佐平鬼室集斯等、男女七百餘人を以て、近江国の蒲生郡に遷し居く」とある。これらによって、八日市周辺に多くの帰化人が住んだことはたしかのようである。狛の長者の伝説もこれらと何らかの関係がありそうである。蒲生野の開拓をしたこれら帰化人が市を開いたと考えるのは聖徳太子開市説よりずっと真实性がある。ところで帰化人が開市したということを書きとめた記録に『市大明神社記』がある。

大淡海洲神前郡柿園園莊高屋郷大脇市一称八日市……(略)……抑勸請者人皇三十九代天智天皇御代四乙丑歳卯月大脇市創立……(略)

これによると、当時近江国には八大市と称されて、栗津市、大脇市、牧市、息長市、平賀市、栗田市、伊香市、真野市とあったらしい。聖徳太子が四天王寺の瓦を製造して瓦屋寺を建て、筏川のほとりに人夫を住まわせて市を開いたというが、その瓦は帰化人によって製造されたとも考えられる。愛知郡の愛知奈氏も帰化人である。あれやこれや考えあわせると八日市の起源は帰化人の力によったと考えてもよいであらう。

上代朝廷と蒲生野

朝廷と地方の結びつきが、開発と発展に大きな意味をもつことは言をまたないが、八日市とその周辺が朝廷とどのような交渉をもったかを

東大寺権御領近江國卷自所
大脇市新末書録降乃者各
天命開創天皇御領四乙丑年
春二月に百濟國の官位を勘校す
佐平福信の功を以て鬼室集斯に
小錦下を授け復百濟の百姓男女
四百餘人を以て近江國の神崎郡
に遷し居り又八年に佐平餘自信
佐平鬼室集斯等男女七百餘人を
以て近江國の蒲生郡に遷し居り
此の由りて蒲生野に市を開き
大脇市と稱す

しらべると、顕宗天皇が市辺押磐皇子墓を築いたのはじめ、天智天皇が蒲生野に遊獵されて大海人皇子と額田王が相聞歌を詠まれたことなどが有名である。桓武天皇も蒲生野へ行幸された。また、聖武天皇も蒲生野に宿泊されている天平神護元年(765)10月の記録にも、称徳天皇が紀州で市場を開いたとあるから、朝廷から地方にでたとき、市の発生を促進したかに思われる。この考えは『八日市郷土誌稿』(堀川辰之助著)に詳しく書いてある。

開市説余聞

八日市がいつどうしてできたのかを研究するのはたいへん興味ぶかい。聖徳太子や帰化人が開いたというだけでは少々不満なので、なぜ八日市の八日ができたかを考えてみよう。八日は薬師如来の縁日である。この附近は天台宗延暦寺が開発に大きな力を与えたので、太郎坊山の成願寺や清水町の薬師寺はいずれも延暦寺の根本中堂の本尊と同じ、薬師如来をまつているため、八日市に何らかのつながりがあるという説がある。とくに成願寺は近くに佐々木の館



蛭子神社宮跡

跡があり、宿には蛭子神社跡があり、八日市がはじめて文献にでてくる『源平盛衰記』には「小脇の八日市」とでていことなどを考えると、佐々木氏と市場、薬師如来と八日などが関係深いものに思われる。堀川氏は(佐々木氏は市場の発生に尽したのでなく発展させた)というが、八日市が室町時代以前の文献にでてこないことを考えると、旧八日市町は、小脇にあった八日市場が、移動の市場から固定的市場に発達したものであるともいえるのではなからうか。

2. 平安時代の八日市



安土街道

奈良・平安時代の八日市付近がどんなであったかを語る具体的な史料がまことに少ない。しかし、奈良の都が建設される前に、甲賀に紫香樂宮が造営されようとしたが、火事が多くて止された。その時関佐々貴山君が応援に行き、不審火を消して功績をたてたとある。佐々貴山君は佐々木氏の先祖だという説もあり、関係ないという説もあるから、結局のところ不明であるが、きわめてだいたんにいうならば、近畿地方でも注目すべき、安土の瓢箪山古墳がこの佐々貴一族のものでないかと思われる。元明天皇の

和銅年間には近江国で銅銭を鑄造しており、愛知郡では織物、養蚕の術も行なわれているようである。天武天皇の勅願で建った安土の桑実寺は中国から桑の実を伝えて養蚕を広めた寺という。このような時代背景の中で、もし八日市の室町以前の市場があったとすれば、どのような商品が扱われていたのだろうか。「延喜式」にある近江から献上したものを抜き出してみよう。

稲 絹 燈油 醬 雉 里葛 白米 糯
胡麻子 曝皮(牛馬) 蒟安草 大豆 樽
醬大豆 紙 阿米多鮎 者一塩年魚 燼瓮
極 郁子 氷魚 鮒 マス 薬草 香木

農具

近江は平安京の市場に店をもっていたため、他国との取引もあったようだが、上記の品物のうち、いくつかは八日市付近でも取扱っていたのではないと思われる。この当時の市場はどんなであったかというに、平安京の東西両市には市姫神社をまつり、地方別に一屋が与えられ、丸木の柱に板葺屋根で床をはらない粗末なものだった。従って、地方の市場もまったく粗末なものであったにちがいない。

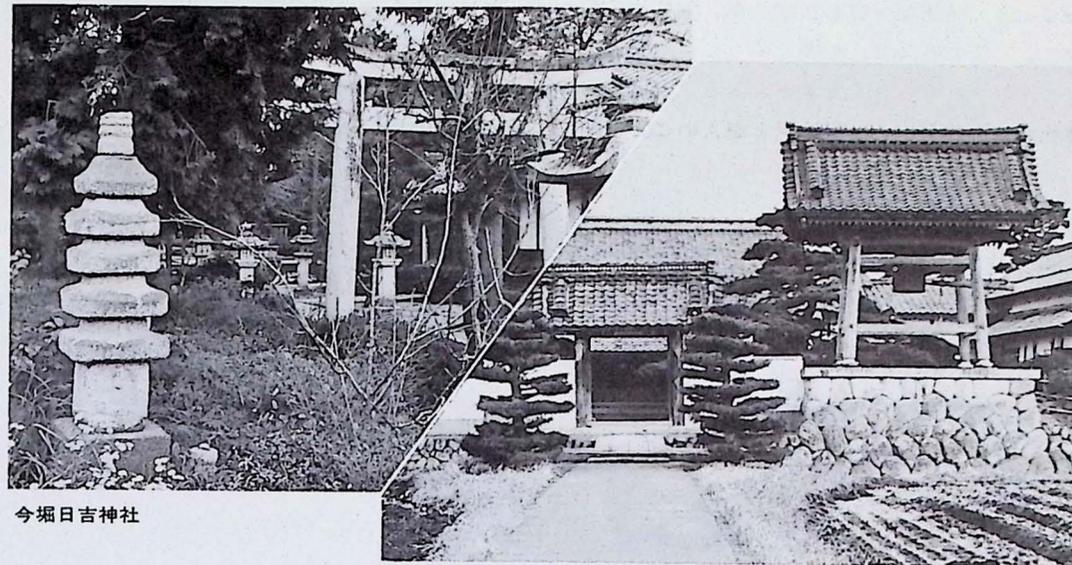
近江からは米、工作品が平安京に入った。そして、海の産物と交換したのであろう。その通路は陸路で、京都から志賀山越えて近江へ入り草津から甲賀を経て伊賀に出る道が早くから開けていた。また、塩は三重県からだけでなく、福井県敦賀方面からも入ったようである。また紙が岐阜県から入ったことも確証がある。そして、それらの物品は東海道だけでなく、中仙道からも、八日市に運ばれたようである。伊勢への道、美濃への道、それに信楽から奈良への道もかなり繁く通行されていたようだ。平安時代になると、御代参街道、八風街道もすでに多くの人が通っている。湖上交通はよくわからないが、天智天皇の大津京から、船で近江八幡に入り長命寺のあたりから上陸して、蒲生野へこられたと、万葉学者の松田好夫氏らが主張しておられ、蒲生野に軍団があったという意見もあつ

て、交通はかなりさかんであった。

平安時代の八日市の歴史で現存するのは太郎坊山麓の成願寺で平安仏教の形態を伝えている。「赤神山成願寺太郎坊尊縁起」によると、伝教大師の開基で、本尊薬師如来をまつり、行万坊石垣坊が現存し、明らかに平安天台教の寺院形態を残している。山を赤神山といい、太郎坊阿賀神社をまつるのは修験道の信仰が発達したものである。太郎坊山の信仰は岩座があり、中津岩座、辺津岩座をもつ原始古代の信仰の典型的なもので、かなり古くから人々の集まったところである。太郎坊阿賀神社と成願寺は神仏習合であり、直接市場の発展につながるけれども、延暦寺の勢力が、市場に間接的な影響を与えたことはたしかである。とくに中世に至って得珍保の商業史の上で果たした重要な役割を思うと、無視できない。いまは太郎坊宮に合祀されているが、宿にあった蛭子神社は市神であって、その付近に市が開かれ、その繁栄を願う人々に信仰されたことをわずかにしのばせる。

3. 中世の八日市の市場

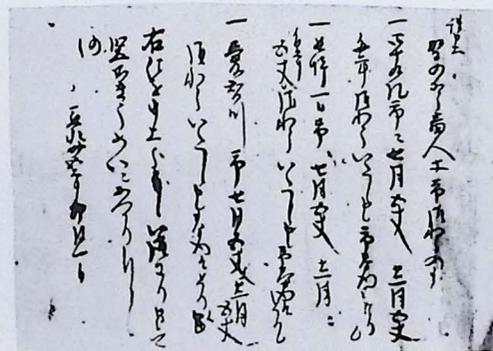
得 珍 保 内



今堀日吉神社

妙応寺(尻無)

平安時代の八日市が延暦寺と深い関係におかれたのは莊園だったからである。その範囲は中野の今堀、今崎、中野、小今をはじめ、市辺の蛇溝、破塚、三津屋、玉緒の芝原、南柴原、下二俣、尻無、下大森、上大森、それに金屋が東塔院の所領であった。くわしいことはわからないが、延暦寺の得珍なるものが開拓し、その功により得珍保内をまとめて賞賜され、保内郷といったという。そして、今堀の日吉神社は古く十禅師社で、比叡山東坂本の日吉神社系に属している。同社に現存するおびただしい中世文書が、滋賀大学経済学部史料館に保存されている。すなわち今堀神社文書は学界で貴重なものである。中世商業史を知るために欠くことのできない史料である。いかに、この地方が高い経済生



今堀日吉神社文書

活をしていたかがよくわかる。保内郷は大部分が蒲生郡であった。水利が悪く、愛知川の流れがつかねに洪水となって荒れたようだ。それを帰化人が移住するに及んで開墾がすすめられ、田畑も多く、農産物に豊かになったから、単なる農業だけでなく、商業にも興味を示し、市場を盛んにした。保内商人という語も伝えられているように、近江商人の歴史の中で一つの力を占めている。呉服座を有し、紙、塩、相物(乾魚のこと)等を商った。行商もやって他地方とも取引をした。たいへんたくさんある「今堀日吉神社文書」の中から、得珍保と商人のことに关するものを二つ三つ引用しておこう。

山門本院東谷領 近江国得珍保御服商人等役事 依₂ 失度横関訴訟、為₂ 新儀₁ 者 可₂ 停止₁ 之旨 雖被₂ 成₂ 奉書₁ 任₂ 院宣以下支證₁ 有₂ 根本其役₁ 之処 號₂ 新儀₁ 及₂ 押妨₁ 云々 造意之至 太招₂ 其咎 歟 所詮如₂ 先規 可₂ 被₂ 下知₁ 之由 被₂ 仰出₁ 候也。仍執達如₂ 件

寛正五 貞基 花押(布施氏)
十一月十二日之種 花押(飯尾氏)
当谷稚掌

この文書は寛正文亀の頃に、比叡山東塔の根本中堂の所領だった横関商人が、保内商人と抗争した記録で、院宣以下の支證によって勝訴したとある。

就 当所興横関御服座相輪之儀、被₂ 遂₂ 御礼明、処 帶₂ 院宣以下支證、 任₂ 理運、旨 被₂ 成、御成敗、候上者 如₂ 先々 在々所々 市町商売事 不 可、有₂ 相違₁ 候。可、被₂ 成、其御意得、候 恐々謹言
文亀貳 九里 員秀 花押

保内商人中

これも横関商人との争いの文書である。また、つぎに示すものは保内塩商人についてのものである。

つれうの事 如、本毎年兩度 可、有₂ 沙汰候也。又雖、無₂ 市座₁ 自、昔買売無₂、其煩 候間 不、能₂ 子細₁ 候。仍所 申沙汰、之状如、件。

貞和元年3月20日

長野市奉行 花押
甲良市奉行 花押
平方市奉行 花押

また、保内には伯樂座があり、牛肉を売買したようである。

保内伯樂座人事 申旨得₂ 其意、候 就、其干疋到来候 謹言
十二月十八日

義 賢 花押

布施甚左衛門殿

これらの史料は直接八日市市庭で取引した商

人であると断定できないが、八日市周辺の商人の活躍ぶりを示したものである。そこでこれらの商人の市場の費用の負担について述べてみよう。

市場税

八日市へ来た他地方の商人から費用をとりたてた記録がある

野のこう商人等市御わしの事

1 四十九院市に七月六十文、十二月五十文 毎年おわしだいし申候。市奉行殿御とり候

1 長野一日市に七月五十文、十二月五十文 御わしだいし申候。奉行御とり候。

1 愛知川市七月五十文、十二月五十文御わしだいし申候。奉行御とり候。

右注進申上分、もし偽り申候はば、堅御きうめいにあずかり可 申候。仍如 件。

応永二十五年卯月一日

この文書によると、野々川商人が長野四十九院の市にでて七月と十二月に市場税を納めていたことを示している。

請取八日市庭沙汰用途事

合陸貫文者

右且所請取如件

応安七年六月二日

二領 花押

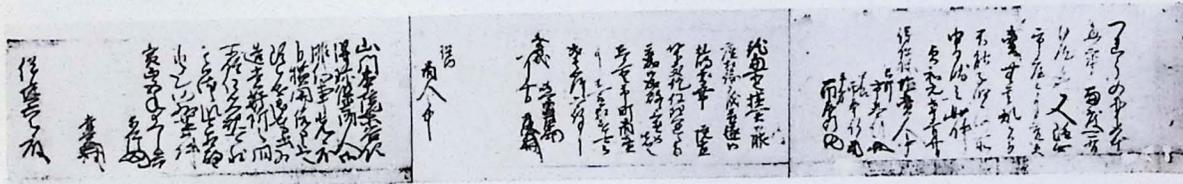
これも直接税に関する記録である。繁田氏文書によると、東大寺へ八日市市場から冥加銭を納めていたらしい。このことは瓦屋寺が「聖徳太子草創、本尊観世音、寛平三年再建、東大寺源に僧都也」とあることから、東大寺の末寺であったかららしい。従って、八日市の市場が延暦寺関係のものだけと見るのは軽卒である。しかし、得珍保内は延暦寺の力で発展したのであって、八日市市場の全盛期を鎌倉時代と見てもよいであろう。

そこで、得珍とは何ものとしらべてみたが文献にその名をとどめていない。恐らく、民僧といった人ではなかったろうか。伝承の域を脱しない得珍だが、尻無の妙応寺は得珍の開基と伝え、毎年法要を営んでいる。高井川を造ったという伝説も広く知られている。高井川は池田の地で愛知川から水を引き、今田居、大森、尻無、下二俣、柴原、今堀、蛇溝、市辺の諸地域を流れる灌漑用水である。

得珍の開いたという保内郷から保内商人が誕生し日本の商業史で活躍しているが、直接八日市の市場に関係ないのだけれど、「今堀日吉神社文書」の商業史料の価値を高く認めたいため紹介しておきたい。

佐々木氏と市場

得珍が延暦寺の僧であったという理由だけでなく、延暦寺の荘園として発展したこの地方が延暦寺の勢力のもとに、発達し、市場の発展に深いかかわりのあったことはいうまでもないが中世の近江の守護として400年も君臨した佐々木氏も、八日市の市場の発展に大きな力をもったのは当然である。八日市市場の全盛時代と思われる中世において、延暦寺と佐々木氏の影響を無視することはできない。じつは現在の八日市の始源が佐々木氏によって固まったと歴史的にいえるのでないだろうか。それまでは、八日市の前身であって、八日市誕生の周辺情勢の素地というのが正しいようである。佐々木君が、佐々木氏の先祖であるかどうか明確にしにくいのであるが、宇多源氏佐々木氏がはじめて佐々木庄に住んだのが小脇館といわれる。太郎坊山の西麓今里からまっすぐ北の山麓に遺跡と思われる石垣がある。宇地造成の開発によって、館跡と称する石垣が壊され、もはやその旧地の名残りをとどめないが、『源平盛衰記』に「小脇の八日市」とあるから、よほど小脇の佐々木館が有力なものであったと知られる。「高綱和殿



今堀日吉神社文書

は何処の人ぞ 何へ渡るぞと問へば、是は栗田の者にて候が蒲生郡小脇の八日市へ行く者也と答ふ」とあることからして、栗太郡との交流もあり、市場で馬に荷物をおわせるほどの買物をしていることもわかるのである。八日市が文献にでてくる初具を「源平盛衰記」とすることも意味のあることだが、佐々木定綱が小脇に来てますます市場を奨励保護したと考えられる。市場奨励の意義は武力の増大のために兵を集めたことや、居館を賑やかにする目的で、多くの人が集められたのはたしかであろう。



佐々木城跡 落

建久元年(1190)に源頼朝が上洛の帰り道に小脇の館に宿泊したことや、嘉禎四年(1238)に源頼朝が京都から鎌倉に帰るときに、佐々木定綱の子の信綱が、御所を新造して迎えた記録も残っている。この御所の名がりが大門その他の地番の名として現存する。このころ、中仙道の愛知川から、八日市へでて小脇の宿に泊り武佐にでるコースを盛んに使ったという。これは南北朝の戦乱がすんで、佐々木氏が中仙道を監視する必要から、観音寺城に移ったため、小脇館や蒲生野の駅舎は衰えてしまった。

『実暁記』という古書によると、建武二年(1335)七年の条に、守山から鏡、武佐、蒲生野愛知川に出た里程が書いてある。『経覚記』鏡、武佐、愛知川となって、小脇が省略されているので、応仁二年(1468)には蒲生野の宿がなくなったのであろう。観音寺城によった佐々木氏

は宇治川の先陣で活躍した佐々木四郎高綱その他の功績で、鎌倉幕府の認めるところとなり、近江国の守護国となった。然るに、建久二年(1192)に延暦寺の供給所の年貢米について日吉神社の社僧が小脇の佐々木館へ乱入したため定綱の二男の定重が社僧一人を斬ったので、延暦寺にいらまれた。広綱になると、京都に六角東洞院の邸を賜った。泰綱の子の氏信は京極に邸を賜った。この時から佐々木氏は六角氏と京極氏にわかれたのである。泰綱の三男頼綱が六角氏を継ぎ、小脇から金田に邸を移した。元弘三年(1333)に京都の六波羅探題がほろんだとき、光厳天皇と後伏見、花園二上皇が近江へ逃げられたとき護衛をし、観音正寺に一夜宿泊された記録もある。京極道誉もまた、婆沙羅大名と称されるほどすぐれた人物で幕府のため尽力をしている。氏頼も足利将軍の避難にあたりしばしば援助している。また、氏頼は寂室を招いて永源寺を創設したことでも忘れがたい。かくて佐々木は定頼、義賢、義治に至って、織田信長のため滅亡した。八日市もそのため新しい政治の下に生れ変らねばならなかった。

中世の市場史料

佐々木氏の援助をはなれて、小脇付近にあった八日市は交通の要路、八風街道と御代参街道との交叉点、現在の八日市町に移ったようだ。この頃、八日に加え、二の日と五の日が加わったとする説もあり、このころ市神社が創立されたのではないかといわれる。小脇の宿にあった蛭子神社は近代になって阿賀神社に合祀されたが、まだ社地が残っている。この頃の八日市場に関する史料を紹介し、その活動の様子を推察することにしたい。

先に示した応安七年(1374)の文書に「請取八日市庭之沙汰用途事」とあったが、永和四年(1378)の古文書にも八日市庭の文字があり、蒲生郡馬淵の岩倉の諏訪社の応永年間の棟札に

も「八日市庭」と書いてある。その銘文を引用しよう。

応永九年 二十七日てふの立、同十一年柱立
時両大工 八日市新八時両大工
御願 仏眼八日市庭造営料足半分領主奉加
(以下略)

また文亀二年(1502)の次の文書にも「八日市庭」のことがでてくる。

保内興、横関、愛知川御服座争論之事 八日市庭者、從、往古、不 紛子細候之間
両方如、先々、末代無、相違、可被、立合、者仍折紙如件

建部政所 直秀花押

文亀二年五月十一日

建部政所がでてくる文書であるから、市庭が保内郷から建部に入りこみ、小幡商人と保内商人の争いが長く続く。このことから、商いの範囲が大きくなったことが連想される。この当時八日市場で扱っていた商品名をあげると次のようである。

呉服 油 相物 塩 海藻 海苔 土器 ワゲモノ 麻苧 農具 金物 綿 紙 伊勢布 農産物 農産品

このほか、得珍保内に博労座があるので、牛肉も扱ったようである。つぎに野矢氏文書を紹介しよう。

八日市庭法阿弥夏衆へ売状如此売渡進島地事

合大者十(北ヨリテ有是南内地るい也)但直銭 売貫六百文請取畢

四至限東海性作 限南地ルイ

限北神田島 限西大道

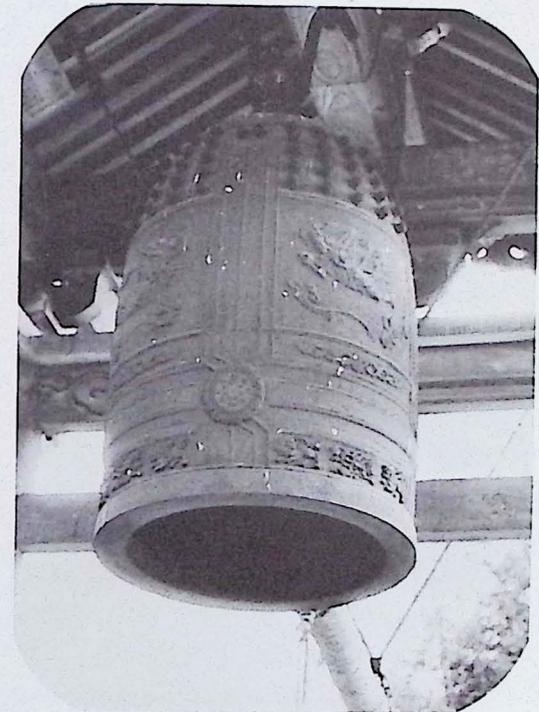
右件白地者法阿弥相伝え私領地 雖然 依有真要用、 八日市庭南方野社之夏衆々御中

限、永代、売渡所在地明白也。雖 後々代々経、更に不可有、他妨 者也
但万一請返之思候時者 以、本物、可、請返者也。依、後日沙汰、売券状如件
永和四年午九月廿四日

法阿弥 花押
嫡子 介太郎 花押

この文書もまた「八日市庭」のでてくる貴重なものである。この当時の商座で愛知川町の沓掛五個荘町の小幡、八日市市の野々川、蒲生町の石塔を四本商人と称した。主として塩、相物、木ワタ、ワゲモノ、麻の苧なども扱っていた。建部商人は油、保内商人は呉服を主として扱った。この近くに枝村商人、五個商人、愛知川商人、横関商人、馬淵商人、日野商人などが勢力をもっていたようである。これらの史料によって、中世の八日市場がずいぶん盛況だったことがわかる。

金屋の鋳物師



金屋鋳物師の作品

金屋はその昔、鋳物師が住んでいたから町名となったが、この鋳型を捨てたので筏川という名称ができたという説もある。金屋にどうして鋳物師が住んだかを調べると、帰化人の移住がその技術を伝えたのではないと思われる。文武天皇の御代に、「賜₂ 四品志紀親王近江国鉄穴、とか、元明天皇の御代に「令₂ 命₂ 近江国、鋳中銅錢」などとあって、近江に鋳物師の発生する遠因があったらしいが、「延喜式」によると、「土木寮式 鍛治戸 近江国四十四烟」とか、「兵部省式 諸国器仗 近江国甲六領横刀二十口、弓四十張 征箭四十具 胡籛四十具」とか「兵庫寮式 雜工戸 近江国 十八烟」などあり、これらの近江の鋳工生産が八日市の金屋鋳物師に関係がある。

金屋の野々宮神社に天福年間の銘のある釣燈爐といっしょに、天福年間の薄墨御倫旨があるので紹介したい。これはいわゆる蔵人所牒であって、一種の特権を与えられた書付と考えてよいであろう。

蔵人所 牒₂ 燈爐御作オチ鋳物師等所₁ 応令早任₂ 代々御牒狂將軍家下文関東下知書等₁ 停₂ 止諸国諸莊園 守護地頭 頂所沙汰人諸社神人以下 諸市津関渡 山河海泊津料 市手山手 率分例物以下煩 就中淀河所々関々 大津関等所煩₁、金₂ 鉄器物売買業₁、可₂ 勤₂ 位燈爐以下鉄器勅役、間事、使御蔵民部大丞記遠弘

右如斯勅役所 被₂ 仰出₁ 也。諸国鋳物師全₂ 売買業₁ 可₂ 令₂ 御公用勤任₁、諸国諸莊園 守護 地頭頂所沙汰人 神社神人以下 諸市津関渡 山河海泊津料 関料市手山手率分例物以下煩 次東西南北入相諸売買 不可有₂ 違乱妨。兼又海道辺鞭打三尺貳寸者、可₂ 為₂ 馬吻料₁。若依₂ 悪路₁、馬荷物落事 在之為₂ 地頭政所₁、可₂ 被₂ 負送₁、猶於₂ 鋳物師中₁ 興₂ 自国他国₁ 相論者在之者 没₂ 取所帯₁、一門可₂ 被₂ 行₂ 死罪₁、宣承知勿₂ 違失₁。牒到准。状如₂ 件

時天福元年十一月吉日

出納前加賀守安倍朝臣

別当 蔵人中務丞左近衛将監源

勘解由次官藤原朝臣

右衛門佐 藤原朝臣

この文書は真偽の疑いがある。当時全国的に偽文書があった。これをもっていると特権を与えられたからである。「野矢氏文書」に金屋の御倫旨の由来が書いてある。「御りんしは興兵衛家をこぼち候へば、やなむねにくくり候て、今日堤善佐衛門と申人、これはけっこうなる物にて候と見うけ、御上へ申上、ねぎ殿へ見せ、あらため候云々」と書かれ、用紙は薄墨紙である。このほか、「日吉神社文書」にも「かちの事云々」とあり、近江八幡市の長命寺の「結解記」にも「八日市之鋳師本堂ワニグチの事三人来る」とあり、河桁御河辺神社の鐘銘にも「大永2年12月12日八日市新兵衛」などとある。新兵衛は金屋鋳物師である。天文23年(1554)9月27日の「野々宮神社文書」にも、「鋳物師七郎左衛門」とある。さかんであった様子が伺われる。とくに京都方広寺の鋳鐘のとき金屋鋳物師も召されたりしく、片桐且元の文書が残っている。その時の白木綿の銘旗が現存している。金屋鋳物師は蒲生郡鋳物師の統領職であり、金屋鋳匠を刻する特権ももっていたようである。近世になると井伊家の保護をうけ大砲も製造したらしい。鋳鐘もずいぶん多く『近江神崎郡志稿』にくわしく掲載されているので、近世の頃にまとめて紹介する。

延命屋敷の中国古銭

鎌倉時代から室町時代にかけての八日市の経済事情がどのようなであったはくわしくわからないけれど、金融関係において、大正12年9月に延命山麓、通称寺山と称する福2328の3に当時町営住宅を建設するため基礎工事をした際、素焼の壺を発掘し、中より中国古銭40枚を発見

した。つまり、八日市の金融機関が延命寺の坊にあったと想像される。中世の寺院が、財力をもって、全盛となったことはいろいろの史料で明らかだが、市座、商座をもつだけでなく、金屋野々宮神社の行事表にあるように、地蔵講、頼母子講、無尽講などがあって、特殊の金融組織があり、質屋もあったようだ。珍保保内の発達は延暦寺の保護で金融方面にも大きな影響を与えたわけである。延命山麓からでた中国古銭の種類はつぎのようである。

開通元宝 乾元重宝 大平通宝 景德元宝
天禧通宝 天聖元宝 皇宗通宝 喜祐元宝
唐国通宝 熙寧元宝 至和通宝 治平通宝
元豊通宝 大観通宝 宣和通宝 建炎元宝
洪武通宝 永樂通宝 紹聖元宝 祥符元宝
乾鎖元宝

これらの中国古銭は開通元宝や乾元重宝のように平安朝末期から入り来り、鎌倉時代から室町時代に至って中国古銭が市場でさかんに通用したのであろう。

ところで、金融を語るとき忘れてならないのが永仁五年(1297)に実施された徳政令である。徳政とは経済上のゆきづまりを打解するために一切の貸借関係を消滅し、すべての債券と売買の土地を本主に返させたことである。この徳政を示した木札が近江八幡市の奥鳴神社にあるから引用しよう。

奥島北津田庄

徳政条々の事

1 質物は可請 十二分の一

1 出拳借錢は只可取

1 年期只可取

1 講憑子破云々

1 長地十五年内半分 当毛作半分可付

1 三社之物は不可取

右之条々定上者於 後日 不可有 違乱煩

者也

仍定之処之状如件

嘉吉元年癸八月日

この徳政令は長祿元年(1457)称光天皇の崩御の後1年目にも行なわれ、享祿4年(1531)にも、佐々木定頼が近江国一円に徳政を施行しており、また、天文7年(1538)にも行なわれた。徳政があるときにはまず、鐘をならし貝を吹き、辻々に徳政のでたことを呼号し、市民は質屋の門前にならぶ情景が一般的であった。しかし、徳政は社寺の講銭、寄進地、祠堂、永領地には及んでいない。また、徳政がしばしば行なわれたので、民間の貸借証文には徳政があっても返却するものという文字の入った証書を残した。「今堀日吉神社文書」につぎのようなものがある。

1 定橋本武久たのもしのきたむる以国合応永貳年(きのといのしし)十一月八日たとゑいかなる天下一同の御徳政があるといふとも講憑子をやぶる事あらんものはさもはらうへき物也如件

道教房(花押) 道心房(花押)

道寂房(花押)

うのとしのをとなたちの定なり

1 売渡進菜畠私領新放券之事
合堂所数十八畔者主銭拾貳貫文請取畢
(中略)

在蒲生郡得珍保内八日市南在出右件菜畠之者盛珍相付立私領地雖、然依、有₂ 主要用₁、永代蔵林坊に賣渡進処在也明白実正也但本証文可₂ 進副₁、候処見失候間不₂ 副進₁、候若出帶輩者商人可₂、為者也万一天下一同御徳政雖、有於₂ 此畠₁、者不可₂ 有₂ 違乱煩₁、也仍為₂ 後証₁、新放券文状如件

永享拾年十月三日 盛珍(花押)

これらによって徳政が大きな経済問題だったことが想像される。

八日市の大工



岩倉諏訪神社



老蘇奥石神社

瓦屋寺の富田太郎兵衛などの名もある。五個荘町金堂の文書を見ると、「御達書御請印長 神崎組大工仲間中」などがあって、勝手に大工は営業できなかった。応永二年(1395)の八日市免定によると、「銀三刃五分大工職冥加」とあり、わずかながら歴史に名をとどめる大工のいたことを物語っている。

また、近世の大工高記録によると、「六十五石二斗五升九合六勺最上左京」とあり、これは大森陣屋に属する記録である。文化12年(1815)に井伊家から鑑札用の証明書が渡されているが、「小脇辻村、三株四十五石」とある。これによれば、三株とあるから3人の大工がいたということである。

建部油座

八日市町の「福原氏文書」につぎのものがあ

当国油座事 任₂ 先規之旨₁ 座人外売買之儀 堅令₂ 停止₁ 弓。聯不可₁ 相違₁ 候也

天正四年七月廿七日

朱印(天下布武)

江州建部油座中

当国中油座事 近来新儀之族有之由 曲事所 詮向後、雖₂ 誰々家来₁ 於₂ 隈之輩₁ 者 可₁ 加₂ 成敗₁ 次諸公事被₂ 免許₁ 訖。仍重

近江八幡市岩倉の諏訪神社の棟札に、「応永九壬子年 廿七日テウノ立、同十一月十九日柱立時両大工浅 八日市新六」とある。また、同社の神輿の天井に「明応二癸丑稔十一月十三日新始、同十二月廿日作始め、大工八日市衛門四十六武佐弥二郎三十三時ノ手伝ハ八日市彦七同彦太郎、別所七郎左衛門六十三」とある。さらに安土町老蘇の奥石神社兼宮の棟札に、「江州佐々木庄内老蘇村御社建、天正九年正月廿六日願主者柴田新佐衛門尉家久美州西方池尻住人也」とあって「大工西之庄左衛門三郎、八日市藤左エ門内口七是也」とある。これらの史料により、応永年間から天正年間にかけて、新六、彦七、彦太郎、七郎左衛門、藤左エ門といった大工が八日市に住んでいたことを物語っている。また、神田の藤原市兵衛、建部南の藤原空兵衛

而被₂ 成₂ 御朱印、候也
天正七年十月十四日
建部油座中

これら二重の古文書から、油座のあったことが知られる。そして、建部郷の上郷だった八日市に油座商人のいたことを知るのである。油は古くから石清水八幡宮の専売物であった。油商人は同社の許可をうけ、その証印をもっていな



油座商人の旧家

くては販売することができなかった。その原料の荏胡麻の運送にあたって、関所で通行税をとられない特権を八幡宮は与えていた。そこで、山本、平坂、石塚、堺に八幡宮があり、伊野部、専村、下野、上日吉等にも境内社として八幡宮があるのは油座の関係である。神社の境内社は単なる信仰上の神でなく、単に商業上の神でもなく、このように神徳のあついであったことを、ほとんど現代人は忘れていて。山城の離宮八幡神社の文書を見ると、応永4年(1397)五月廿六日付の幕府の下知状に摂津および江州小秋に油座が散在すると書かれている。非神人がみだりに荏胡麻を売買しているから油器を破壊せよという記録もある。また、『信長公記』を見ると、天正4年(1576)に安土築城がはじまったが、信長はこのとき、建部油座に対し安堵状を出している。しかし、これははじめに出した文書によって、天正七年(1579)十月に再び禁止の朱印状が出たことになる。

4. 近世の八日市

安土城下の楽市

安土に織田信長が城を築き、城下に楽市を開き、町の繁栄を計った。それが八日市に影響を与えた。慶長十五年(1610)に「市神之略本記」が書かれて市神社が発展したことはこのためであった。行商でなく座商としてこの地方の物資の需用に供したのである。中世の商業は莊園領主から保護をうけた一定の商人によって、独占的に営業されたが、信長につぎ秀吉も、旧来の特権を否定し、新しい市をおこして、そこで自由に商売ができるように地子を免除するなどの保護を加えた。

楽市、楽座の令の一例をつぎに書くことにする。

定 安土山下町中

- 1 当所中楽市として仰せ付けらるるの上は諸座、諸役、諸公事等悉く免許の事
- 1 往還の商人は上海道にこれを相留め、上り下り共当町に至り寄宿すべし
但し荷物以下の付下においては、荷主次第の事(中略)
- 1 分国中徳政これを行うといえども、当所中免除の事
- 1 他国他所の族当所に罷越し有付候はば、先々より居住の者同前、誰々の家来たりといえども異議あるべからず、若し給人と号

し臨時の課役以下一切停止の事

- 1 喧嘩口論並びに国質・所質・押買押売、宿の押借以下一切停止の事（中略）
- 1 博勞の儀 國中馬売買悉し当所において仕るべきの事。

この文書は「八幡町共有文書」で、これほどでも楽市が許されたのではなく、特定の城下町にのみ、商人を集める目的で行なわれ、一般農村は商業を禁じた。その史料が「今堀日吉神社文書」の中にあり商人の強制移住の例として紹介しておきたい。

石寺において保内町仰せ付けらるるにつき、保内の商人は保内町において売買いたすべし万一この旨相違の輩これあらば、衆中にて罪科に処すべき者也

これらのことが八日市の近世の市場に大きな影響を与えていることは言うまでもなからう。

ところで、近世の市場として注目すべきことは、延宝6年(1678)に八日市が御代参街道の宿駅となり、問屋ができ、行旅荷物および宿舎を管理している。問屋には各帳簿をそなえ皇族公卿、大名などの宿場の印鑑をうけ各荷物を次駅に廻送した。しかし、貞享4年(1687)の大火で史料をすべて焼失し、くわしいことは何もわからない。その後、寛政11年(1799)に彦根藩国産取立の趣旨により小幡に市場を許し、八日市と衝突せずに行なうためこちらは毎月五、十の日の六回市を開き、冥加三貫匁納入を条件にしている。そこで八日市は二八の六回であったことがわかる。当時、彦根藩の下に八日市は市場高八石で夫米等の諸役が免ぜられたが、その代り冥加銭を上納していた。寛政11年(1799)の浜野、八日市、上日吉の3カ村の勘定書を見るとつぎのようである。

貳貫文 八日市村津銭
壹貫五百文浜野村津銭

三貫五百文 代銀二十八匁三分六厘

近世末期になって、慶応2年(1866)の「八日市共有文書」によると、市場高上納金は「四貫百六十四文」とある。これらは各座の商人の負担であった。

金屋鋳物師の作品

近世の金屋鋳物師がどのような業績をあげていたかを知るために、「松吉氏文書」を紹介する。

御蔵中御渡書

- 1 任₂ 累代之先規₁ 致₂ 上京之條神妙也
先代之下知不可₁ 有相違状如件
寛文九年六月十七日
御蔵宮内丞 玄弘判

御蔵達書

- 1 近江国蒲生郡八日市鋳物師
天福之御牒頂戴所持上者、神社仏閣鐘鋳之
砌 從₂ 他所、相勤候共、銘文出座之儀者
先規之通、金屋村者共可₁ 仕也
不可₁ 有₂ 相違₁ 仍執達如件
享保三年十一月 日
御蔵刑部少輔珍弘利
近江国蒲生郡八日市金屋村鋳物師惣中

このほか「野々宮文書」にも鋳物師の活躍を知らせる記録がある。その中で享保五年(1720)の鋳鐘の値段を書いた文書があるから紹介しよう。

請取申釣鐘之事

- 1 二尺七寸 鐘一本
貫目 百七十貫目
此代金乾金六十五両、両替新銀廿四匁極内
乾金貳両髓に請取申候
右之釣鐘来二月迄に鋳立進可申候 為、念

請取証文仍如件

享保五年子十二月十二日

金屋村 堤善左衛門

誓安寺様

惣旦那衆中様

右之鐘貫目相改相渡可申極也

このほか、鐘の原料を示した請負証書などもあるが、鋳工業者は田中、堤、野崎、松吉、小沢、四井類などである。鋳工品一覧が『近江神崎郡志稿』にあるから、その全部を引用し、いかに多く製作されたかを見ることにしよう。



瓦屋寺のツリガネ

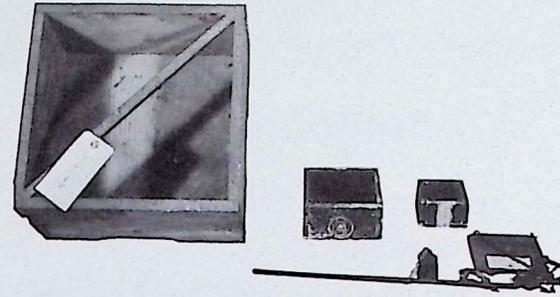
八日市市神田	河桁御河辺神社鐘銘	大永2年(1522)12月12日	八日市 新兵衛
八日市市今堀	日吉神社推鐘銘記	文明16年(1484)10月28日	八日市 五郎兵衛 兵衛太郎
近江八幡市奥島	長命寺 鐔口銘	天文5年(1536)7月2日	八日市 太兵衛 新左衛門
八日市市金屋	野々宮神社	天文23年(1554)9月21日	八日市 七郎左衛門
蒲生町 石塔	日吉神社 撞鐘銘	文祿5年(1596)3月	八日市 新左衛門
近江八幡市八幡	比牟礼八幡神社	鐘銘慶長16年(1611)9月24日	八日市 市右衛門 三郎左衛門
八日市市金屋	野々宮神社 所藏鐵	慶長19年(1614)3月	八日市金屋 田中伝左衛門 藤原家次
八日市市小幡	成願寺 鐘銘	寛永17年(1640)仲春	金屋 理左衛門尉 藤原勝家
八日市市布施	布施神社 鐔口銘	寛永21年(1644)9月	金屋 仁右衛門
八日市市瓦屋寺	瓦屋寺 鐘銘	正保4年(1647)	金屋 藤原仁右衛門勝家
八日市市布施	布施神社 鐔口銘	正保4年(1647)4月	金屋 仁右衛門
八日市市上二俣	白鳥神社 鐔口銘	明暦1年 2月	金屋 堤藤兵衛尉
五個荘町金堂	弘誓寺 鐘銘	明暦3年(1657)12月	金屋 善左衛門藤原勝家
安土町石寺	観音正寺鐘銘	寛文元年(1661)8月17日	金屋 善左衛門藤原勝家
安土町	浄蔵院 鐘銘	延宝元年(1673)正月16日	金屋 堤善左衛門勝家
甲良町池寺	西明寺 鐘銘	貞享3年(1686)閏3月7日	金屋 堤利右助門藤原定次
日野町	信楽院 鐘銘	貞享3年(1686)10月15日	金屋 堤善左衛門藤原勝家
八日市市下野	弘誓寺 鐘銘	元禄6年(1693)8月	金屋 堤善左衛門尉藤原勝家 堤仁兵衛尉 堤興左衛門尉 堤瀬兵衛尉
竜王町弓削	善休寺 鐘銘	元禄8年(1695)正月	八日市金屋 堤善左衛門
八日市市舟木	香梅寺 鐘銘	元禄12年(1699)仏成道日	八日市金屋 堤 直勝

日野町西大路	西明寺 鐘銘	寛永元年(1624)仲秋	金屋 田中瀬兵衛
蒲生町横山	永福寺 鐘銘	寛永元年(1624)季春	金屋 田中源 尉藤原正次
蒲生町岡本	円通寺 鐘銘	寛永6年(1629)初冬	金屋 田中氏藤政次
八日市市市辺	大蓮寺 鐘銘	正徳元年(1711)孟秋	金屋 堤利左衛門家次
蒲生町川守	西光寺 喚鐘銘	正徳4年(1714)2月20日	金屋 奥村三郎左衛門
竜王町中山	隆讃寺 鐘銘	正徳4年(1714)8月28日	金屋 堤善左衛門尉藤原直次
蒲生町宮川	専修寺 喚鐘銘	享保元年(1716)10月	金屋 五郎兵衛
五個荘町木流	苗村神社天神宮鐸口銘	享保3年(1718)12月	金屋 定次
八日市市金屋	野々宮神社 鐘銘	享保15年(1730)	金屋 堤理左衛門尉藤原字長 同善左衛門尉藤原直次 同善兵衛尉藤原直家 同仁兵衛尉藤原吉次 田中瀬兵衛尉藤原家春 野崎四郎兵衛尉藤原家広 野崎五郎兵衛尉藤原宗次
日野町木津	即住寺 喚鐘銘	享保16年(1731)2月	金屋 堤家長
近江八幡市長福寺	妙経寺 鐘銘	享保20年(1735)3月	八日市金屋 堤善左衛門藤原直次
竜王町宮川	慶岸寺 喚鐘銘	元文3年(1738)2月	金屋 野崎五兵衛
日野町深山口	霊松寺 鐘銘	元文3年(1738)8月	金屋 堤善左衛門尉藤原喜直
蒲生町下麻生	赤人寺 喚鐘銘	元文3年(1738)11月8日	金屋 同
八日市市尻無	妙応寺 鐘銘	寛保元年(1741)11月8日	金屋 堤利左衛門藤原好家 同善左衛門藤原喜直
永源寺町上二俣	掃命寺 鐘銘	寛延3年(1750)11月3日	金屋 田中瀬兵衛藤原家春
安土町下豊浦	新宮神社叩鐘銘	明和8年(1771)2月	金屋 堤仁兵衛
日野町日野	養福寺 鐘銘	宝暦11年(1761)6月	金屋 田中伝六 藤原家春
近江八幡市長福寺	妙経寺 喚鐘銘	明和9年(1772)3月14日	金屋 田中伝六
八日市市柴原	安楽寺 鐘銘	明和9年(1772)9月15日	田中瀬兵衛尉藤原家勝 堤仁兵衛尉 藤原助光 小沢長九郎尉藤原家忠
安土町常楽寺	法福寺 鐘銘	享和元年(1801)3月	金屋 田中武助藤原家勝
八日市市尻無	妙応寺 喚鐘銘	文化13年(1816)春彼岸	金屋 堤仁右衛門尉家広
五個荘町金堂	天満宮 鐘鉦銘	文化13年(1816)春	金屋 田中武助藤原家勝
日野町日野	即応寺 鐘銘	文化14年(1817)2月25日	金屋 松吉佐兵衛尉藤原春之
八日市市上羽田	徳昌寺 鐘銘	文政4年(1821)仲春	金屋 松吉佐兵衛尉
上田井	極楽寺 喚鐘銘	文政4年(1821)孟夏	金屋 田中武助藤原家次
八日市市今崎	引接寺 鐘銘	文政5年(1822)春	金屋 松吉佐兵衛藤原春元
日野町小御門	金剛寺 喚鐘銘	文政11年(1828)7月	金屋 田中氏 家次
日野町鎌掛	誓敬寺 鐘銘	文政12年(1829)4月	金屋 松吉佐兵衛尉
八日市市浜野	西照寺 鐘銘	天保7年(1836)3月	金屋 田中武助 藤原家次

五個荘町金堂	天満宮 鐘鉦銘	天保13年(1842)2月朔	金屋 田中武助
八日市市土器	攝待寺 喚鐘銘	天保13年(1842)3月	金屋 堤直玄
八日市市神田	河桁御河辺神社 喚鐘銘	慶応元年(1866)9月21日改鑄	金屋 松吉佐兵衛尉藤原春之

八日市枴

八日市付近の枴は約20種くらいあったが、佐々木枴と武佐枴が標準で、8合2勺を1升とした。この付近のものをしらべると次のものがある。



八日市マス

八合升定	永徳4年(1384)正月 今堀日吉神社文書
小升(古升)	永正7年(1510)10月 今堀日吉神社文書
庄升	弘治3年(1557)11月 今堀日吉神社文書 山門升
柴原升	永徳元年(1381)12月 今堀日吉神社文書
武佐升	明徳8年(1449)4月 大徳寺文書

八日市枴がいつごろできたのかわしいことがわからないけれども、その古枴が八日市町の福原氏に所蔵され、享保15年(1730)7月の心学者沢村琴所の「八日市枴之記」がある。

八日市枴之記
江南八日市邑有福原政賢者蓋郷曲之豪也項開

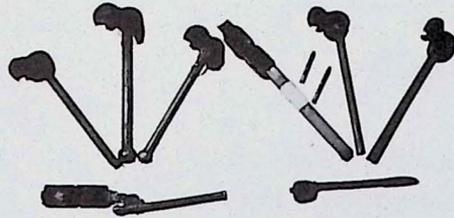
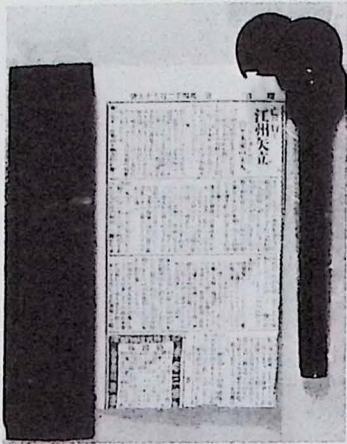
倉取穀糶一升印以政学者於其依底^{依字文献}見子通考^{見子通考}乃佳歳所取此地之糶而升則北人之所謂入者云福氏欣然招其家人日、昔在職田右府為政於天下世。賜先祖某翁一升日凡江南諸郡之升宣取正於茲至今伝為家宝称八日市枴是也今春以来吾口幾千万石是其餘儀為隲₂之於此₁矣。不亦奇平。且政学家世所加其名今印以此恐又非偶然也。於是招聚親奮相興燕喜既而又因秋篠美請予記之夫穀也者人之所以資生馬然非升以量之則斯生争矣。是故齊量衡大舜之所₂以布法謹權量武王之所以得民而孝存之破摧之者特有所激云々

要非通論也由此觀之則升之為物真生民之要器哉。然升為量設升而木量何呷升為警論富人之吝 財物所以濟物 財而不濟亦何以富為予聞之於秋生福氏懌慨好義富而能施夫天道福善則向之一事雖以₁出₂千偶然₁豈非佳瑞乎詩云 永錫₂爾極₁ 時万時億 其在斯人欺 其在斯人欺 享保庚戌孟秋目 彦根鎮人琴所論 維明書千松寺草堂

これによると、織田信長が一つの升を渡して、近江の江南の諸郡でこの升を標準にしたいというのである。

枴は方四寸四分、深さ二寸四分という。だから約8.17合である。だいたい武佐枴と同じである。なぜ八合枴を一升到したかという、佐々木氏が80万石を100万石と公称したかったし秀次も100万石としようと考えたからである。しかし、実際は受け枴と払い枴とがあり、領主が、年貢をとるときは大きい枴で1升と数え、支払のときには小さな枴で1升と数えたという言い伝えがあってもさもありなんとと思われる。そのような不正を正すために標準の枴が必要だったことは当然である。

八日市矢立



八日市矢立

て記憶にとどめておきたい。

八日市通用切手

江戸時代に貨幣が不足して、藩単位の経済的事情が藩札の発行となった。藩札は引換えの金額と引換場所を示した小切手で、藩内だけでなく他藩にも流通し、補助貨幣としてさかんに使用された。彦根藩では米札とも見るべきものがあり、米一升と1刃を同じ価値にしていた。八日市の藩札引換所は中沢、西川両氏で、苗字帯刀を許されていた。つぎに最上藩の藩札であるが、茶切手と称され、弘化 丁未年(1847)の制定で、八日市は大森藩の隣接だったから、このお札が流通した。引換え場所は清水町の米屋五兵衛であった。万延元年(1860)のものには茶切手と明記されていないが、銀匁分の3種類があった。このほか、西大路藩の米手形も通用していた。

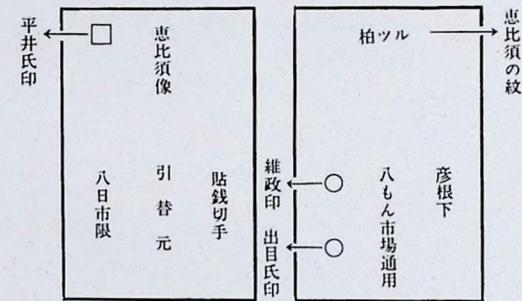
表		裏	
銀一匁	以時相場金子	手切茶	引請郷惣代
引替可相渡也	江協大森茶会所	銀一もんめ	尻無村
		上大森村	大森村

矢立の名は『源平盛衰記』や『太平記』などででてくるが、昔は軍に使った文具で、真鍮銅などで作られ、帯にはさむ軸と、黒壺に筆入れる部分にわかれていた。いまの万年筆にあたるものである。江戸時代には天秤棒とこの矢立をもって行商人の風俗を連想するほどよく用いられた。その矢立であるが、八日市矢立とか江州矢立と称するものは、墨汁のかわかないのと、墨壺と筆入れとの境の蠟付が巧妙で、米一俵を吊りさげても分離しないという特色をもっていた。

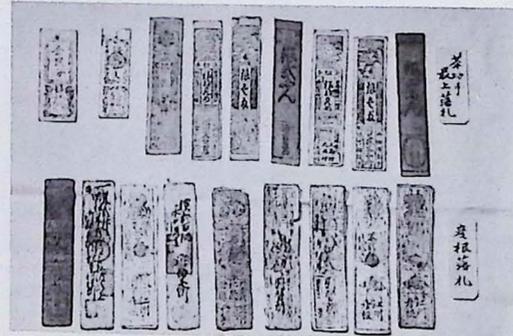
八日市矢立の製造家は代々浜野に住む小森弥兵衛という人で、商標に傘を刻んでいた。分家が一軒だけあり、もちろん矢立を製造していた。元禄の頃から、矢立の製造をはじめ、明治に及んで六代目であった。維新前は1挺1分位であり、ごく上等の品でも二部三朱位で買えたという。近代になるが、この小森弥兵衛のことが、明治11年(1878)の物産誌にでている。それによると、浜野村に矢立製造家は2軒とあり、年間産額は750本、総額168円とある。これから想像すると、江戸時代の矢立の製造量も推察できる。金屋鋳物師と何かのつながりがあるらしい。矢立は亡んだ産業ながら、郷土の産物とし

なお、関中山陣屋の豆切手、郡山藩の金堂代官所の銭札、松井藩武佐代官所の米切手などもあったようだ。

ところで、こゝでとくに興味ふかいものは八日市通用切手である。これは『近江商人郡事跡誌』に掲載されていて、広く知られたものであるが、藩札と平行して、八日市市場に限って使用された四種類の小切手である。八日市村は井伊領、三淵領、奥山領にわかれていた。そこで小切手にも奥山庄屋福原氏、三淵庄屋出目氏、井伊庄屋平井氏の検印がある。福原維政の印があるから寛政年間に発行された通用切手で、福原氏は本町通りの現福原進氏宅であり、出目氏は三津屋に流れる用水を出目川と称するように公益の事業を残した現出目弘氏の先祖である。また、平井氏は八日市町にすむ平井永次郎氏のことであろう。八日市通用切手の種類は4文、8文、16文、24文であり、かなり市場で価値をもった通用切手であった。



近世の金融が市場の発展に大きな影響のあったことは当然であるが、頼母子講もさかんであった。太郎坊宮の享保元年(1716)願主八日市講



通用切手

中の銘のある燈籠や野々宮神社の地蔵講などすべて金融講であったのだろう。

現存する各町内の地蔵講、日待講、神明講、行者講、庚申講、常盤講、薬師講、護摩講、観音講など、すべて近世にできた金融講の名ごりで、私方帳などの史料がある。

八日市通用切手がどの範囲の商品に適用されどのくらいの取引高であったか知るすべがないけれど、浜野に酒の神をまつる松尾神社があり福原氏文書に酒造株のことが記され八日市村の酒改に「酒屋四郎佐衛門、酒造株七石二斗、酒造米玄米七拾五石、此役米七石五斗酒屋喜左衛門」とあり、また「酒屋八兵衛」とある文書もあって、醸造業のあったことを知るので、通用切手と直接関係はないが、豊かな経済ではなかったかと想像される。

また、八日市の近世の市場を考えると、安土町桑実寺の桑畑のこと、従って養蚕業、あるいは、永源寺の政所茶の取引も茶切手の発行と深い関係にあり延宝2年(1674)の「野々茶之吟味仕候」の文書も残っている。また、煙草についても寛文71年(1667)と、元禄15年(1720)に禁止された記録がある。これらの煙草に関する記録を辿ると、承応明暦の頃からすでに問屋があり、煙草商人が八日市にいた。

これらの商品の流通を考えると、御代参街道八風街道、武佐道、安土街道が交通の中心となり、八日市宿の創設と助郷制度もあって、かなり交通がさかんであり、寛永十三年(1636)の春日局も通行し、伊能忠敬も宿泊している。直接商業交通史と関係ないことながら、八日市の賑わいを想像させる。

近世の八日市商人

商工業を中心に八日市の歴史をたいへん大胆に概観したが、いよいよ近代を迎えることになるので、近世のしめくくりの意味で当時の商人名を史料によって瞥見しておきたい。

井伊藩では宝暦6年(1756)に井伊主英が「村住居致候而商仕候者之分者筋奏行へ向え商仕段相居、免して受商可致候云々」とあり、株仲間を認め商業の発展を考えている。文政十二年(1829)の肥料商組合名簿が八日市と敦賀、小浜にも残っているの、清水町の「山田文書」の中から八日市組の氏名をあげておこう。

文政十二年五月廿日改

八日市組	
司	神崎郡 浜野 米屋善助
△	蒲生郡 金屋 干鯛屋太右エ門
△	同 辻村 木綿屋徳兵衛
△	同 辻村 米屋五兵衛
△	同 中野 松前屋善八
△	同 同 干鯛屋助治郎
△	同 同 和田重蔵
△	同 同 和田又右衛門
△	同 同 村田武右衛門
△	同 今在家 納屋新五郎
△	同 古保志塚 広瀬新五郎
△	同 同 西村九郎兵衛
△	同 同 米屋勘兵衛

△ 拾三軒

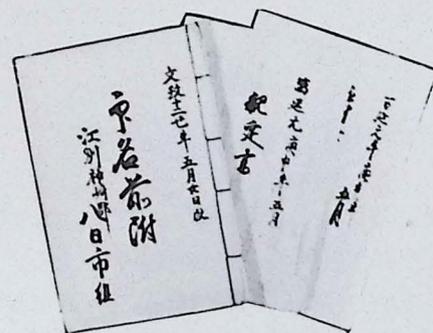
ができる。これらの株仲間がどのような規約をもっていたかは、前述した肥料商の作法帳によって、おおよそを知ってもらうことができよう。

仲間作法帳の要点をあげると次のようである。

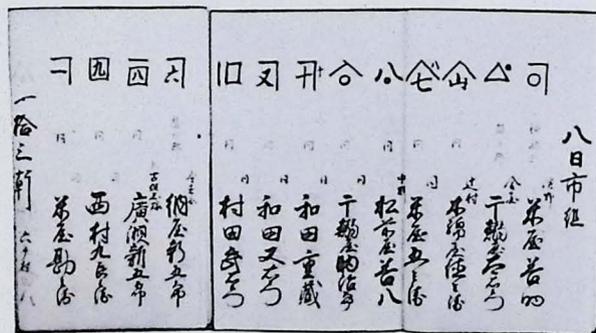
- 1 年頭は朔の御礼は年々怠慢なくつとめる。
- 1 敦賀、大阪の仲買が田舎廻りをするのを制止制止けんせいする。
- 1 仲間人の売くずしの防止
- 1 代金未済者へは仲間人の売止
- 1 毎年四月二十四日の仲間集金に大津相場を引合せて米価を準じない部分の値を決める。
- 1 株の譲渡金銀十枚
- 1 仲間の数の制限

これらの規約をつぶさに検討すると、宮座と株仲間がよく似ている。このようなこともあって、八日市の商業は近代を迎えるのである。

これらの株仲間の記録を見ると、当時の活躍ぶりがよくわかる。「金屋共有文書」によると文久年間には「酒株4株、油株2株、醤油株1株、菜種株1株、干鯛株貳株、△十株」とあるので、金屋の商人がどんなだったかを知ること



山田文書



山田文書の一部

5. 近代の八日市の商工業

明治前期の市場

明治初年の八日市を知っている人がいないから、たしかなことを知るすべがないけれど、当時、問屋が市神社の向いにおいて三納屋高野弥兵衛といった。また、本町通りに(現ひかり屋付近)に飛脚屋があり、郵便取扱所ができるので唯一つの通信機関として活躍した。飛脚屋は何軒もあり、近くに宿場茶屋も並んでいた。さらに、草鞋、駄菓子などが軒につるされた店もあった。そして、宿場につきものの女郎屋も賑わっていた。その昔、滋賀銀行の前あたりにあった巡礼橋は御代参街道と八風街道の交叉点にあたり、かなり交通量があった。明治初めの戸長時代の地図を見ると、市神社の近くに市場という字名があり、広場になっていて、ここで盆踊りが行なわれた。当時、どれだけ市場商人がいて、どれほど営業高があったかよくわからないが、慶応年間の小浜肥料問屋の名簿中にでてくる中沢善助は明治15年(1882)の全国長者番付にでてくる金持ちで、明治維新にあたって井伊藩に金を貸している。井伊大老の開国にあたって、長野主膳が金策をしたときも中沢善助は金を貸している。延命山の一本松付近の古墳石を庭石に使おうと持ち帰り、不幸がおきたので再び山上へ石をもどした伝説さえある。よほどお大尽だったのだろう。今の市口町一帯が本宅で、蔵がいくつもあり、米、肥料、北海物を商っていた。伝説に近い話だが、井伊家へ貸した金は9万両、その他の大名へ貸した金が40余万両、その他10万両はつねに現金でもっていたという。馬を十数頭もち、まことに豪勢であった。しかし、明治維新となって、諸大名か

ら金を返してもらえず、そのうえ、明治5年(1872)の大火により、貧乏になった。当時の資産家といえは3千両ぐらいもっているのが八日市での金持で4~5軒はあったらしい。明治4年(1871)5月18日に金屋の1隅(指物屋の清右衛門)よりおこった火事は筏川をこえて川端町に飛火し、浜野から市場はもちろん、八日市のほとんども焼いた。当日の風がととも激しかったらしく被災を示す史料によると次のようである。

- | | |
|--------------|------|
| 1 住 本家 五軒 | 金屋村 |
| 1 住 百廿四軒 借屋共 | 八日市村 |
| 法蔵寺 壱ヶ所 | 八日市村 |
| 生蓮寺 壱ヶ所 | 八日市村 |
| 市 宮 壱ヶ所 | 八日市村 |
| 1 住 本家 六十八軒 | 浜野村 |
| 住 借家 五十四軒 | 浜野村 |
| 西照寺 壱ヶ所 | 浜野村 |

計 貳百五拾壱軒 寺三ヶ所 宮一ヶ所

この史料によると、八日市で五割、浜野で7割を焼失したことがわかる。このとき義捐金が滋賀県をはじめ、八日市周辺の町村から集められその拠金で復興ができた。復旧中の市場は金屋通りで行なっていた。市日には金屋通りにずっと、野菜果物が並べられ、法蔵寺前は混雑を極め、スリがでたという。また、朝から余興があった。明治14年(1881)までは2と8の日だけが市日であった。

明治5年の職業表

明治5年(1872)の壬申戸籍に書いてある職業を統計のみ示して、八日市の明治初期の商店のあらましを知ることしよう。

①八日市

荒物商 5	臘商 6	紙商 6
酒商 1	農業 52	干物商 2
鋤商 3	さとう商 2	畳商 1
料理業 1	塩商 1	太物商 9
傘商 6	僧侶 2	木挽商 1
煙商 2	彫物業 1	茶商 2
菓子商 3	仕立業 3	饅頭商 3
塩魚商 9	金物商 1	道具商 11
代書 1	染物業 1	指物業 3
小間物商 3	古物商 1	医者 1
大工 4	青物商 2	綿止商 1
塗商 5	油商 1	瀬戸物商 1
表具商 3	醤油商 3	理髮業 1
古着商 1	桶商 1	貸席業 3
石工業 2	米育 8	薬商 1
旅館業 2	雑業 45	出稼 6
無職 60		

②金屋

金物商 1	質屋 1	荒物屋 13
硝子商 2	木挽業 1	書林商 1
紙木綿商 2	転物 2	とうふ商 2
旅館業 1	木綿商 7	雑穀商 1
畳商 1	小間物商 2	古着商 2
紙商 1	醤油商 2	炭商 1
道具商 3	タバコ商 3	塩業商 2
大工業 1	染物業 2	塩商 1
仕立業 1	医者 1	矢立屋 1
薬屋 1	油屋 1	魚商 1
米商 3	石工業 1	材木商 2
土木業 1	古道具 1	僧侶 1
農業 30	雑業 12	無職 60

干物商 1	米商 4	菓子商 3
鍛冶屋 1	傘屋 4	荒物商 2
油商 1	古着屋 2	青物商 1
道具商 1	大工職 2	蕨印商 10
鋳職 2	桶職 7	鼈甲職 1
僧侶 1	棒工商 1	醬油屋 1
小間物商 1	金物商 2	指物商 1
畳屋 1	官吏 1	鎮鎌業 1
出稼 3	農業 32	無職 33

④小脇(清水町)

茶商 1	蕎麦商 1	菓子屋 1
道具屋 1	木綿商 1	農業 32
雑業 4	無職 2	

⑤川合寺(東本町)

茶取師 1	農業 2	無職 2
-------	------	------

滋賀県物産誌に明治13年(1880)の資料があるので参考のため紹介しておこう。

字名	商業	工業	計
八日市町八日市	171	46	217
浜野	38	14	52
金屋	13		13
御園村 林田	5	3	8
中小路	7	4	11
今田居	8	1	9
寺	4	2	6
中野村 小脇	5		5
中野	85	5	90
今崎	65		65
小今	1		1
建部村 上日吉	15		15
瓦屋寺	10	4	14
下野	3		3
市辺村 市辺	37	5	42
蛇溝	1	1	2
玉緒村 尻無	3	2	5

玉緒村 下大森	7	7	14
瓜生津	20	2	22
合計	498	96	594

八日市場争い

はっきりした年代がわからないが、明治18年(1885)から同20年ぐらゐの間に、市場の魚屋連中が、大相撲の勧進をした。これに対し、金屋の商人は個々に花を出したが、八日市は組合でまとめて花を出したがその金額が少なかった。そこで魚屋連中が憤慨して八日市の市場に店を出さぬことを決議した。ちょうど、熊本治右衛門が、新道を開いたときだったので、魚屋連中に場所を提供した。こんなことから、八日市と金屋が市場の本家争いを始めた。金屋は明治5年(1872)3月15日に「開市場御届書」を出していた。明治14年(1881)に滋賀県は市場についての条令を出していたので、無届の八日市の市場に閉鎖命令がでた。あわてた八日市では陳情委員に福原維淳、沢島治郎兵衛、村井善六、西川平兵衛、山本元三郎、寺村富江らを選び嘆願書を出した。その嘆願書の内容を書くとき次のようである。

御下ケ地ノ風説ニヨリ願書

1. 当村市場之義ハ推古天皇ノ御宇聖徳太子此地ヲ始メテ市ヲ開キ玉ヒ八日市ト称セリ四民之便トシ村名ヲ八日市ト唱ヘリ降テ正暦年代安倍晴明白鹿山ニ詣テ聖徳太子ノ遺志ヲ承ケ市場繁盛ヲ計リ例月二ノ日並ニ正月十二日ヲ初市トシ七月十日及ビ十二月二十六日ヲ以テ之ヲ間之市トス。然ルニ客年来更ニ官許ヲ請ケ五之日ヲ加ヘ例月二五八日之日以テ開市定日トナセリ、右市場アルヲ以テ維新前ニ在テ八年之市場税ナル者ヲ領主ニ納メ来レリ維新後ニ至リテハ市税ナルモノ廃止サレタルヲ以テ之レニ換ルニ

市場地価一反歩ニ付壹千九拾五金余之地租金ヲ完納シ是レ前述ノ市場營業ヲ以テ村民生計ヲ當ムカ故ナリ 然ルニ本年十一月八日隣村蒲生郡金屋村接地ノ道路ニ於テ而ナラズ目下風説ニヨレバ金屋ニ於テハ道下ゲ官許相成候哉ノ風説喋々アルヲ以テ村民一統忍干古接迫シ金屋村道路ニ於テ市場開設許可相成候上ハ一弊村市場ト競争ヲ来タシ双方利益ナラズシテ金屋村ニ於テ此迄右市場開設相成ラザルモ農業ヲ以テ生活シ足ルニ却テ右等ノ為メ損失ヲ生ズモ知ルベカラズ此レヲ他村ノ目的トス自村ニ於テハ其ノ影響ノ及ブ処市場ハ趣キ禿額ヲ来シ生計ナラズ場合ニ至リ合日暫ク繁華ノ観ヲナス家屋モ流レシ俣トナリ、村民手ヲ措キ又飢餓ヲ踏ル人鏡ヲ掛ケテ見ルガ如シクノ如クンバ八日市市場經濟ハ為ニ憂シ今日一反歩壹千九拾五円余之処壹万円内外トナルハ当然タルコトナリ加フルニ之ニ拘ラス納税ヲナオザルヲ得スシテハ是レ又堪ユキニアラズ良三右市場衰頹ニヨリ地面ヲスクシ随テ減税ト相成ニモセヨ一時減税ナルト云フニモ至ル迄其間ナキニシモアラバ若間ニナシトスルモ好此変動ハ容易ナラザルニテ此レハ地面ノ一部分ノミヲ影況アリト述フル者ニシテ其他商業上及一村之經濟ハ言語ノ述べ尽ス処ニアラズ嗚呼一ノ新事業ノタメ全市ノ貧困ニ至ル実ニ歎歎次第ナリ

第二ニハ右下ケ地ハ道路ノ空地ト金屋村ニ於テ申立ル趣ナレ圧元来道路ノ空地ノアル可キ道理ナクマタ其空地ナリトノ反証ハ恐クハアラザルベシ是レ彼ラノ名ヲ空地ニ設ケ人ノ利益ヲ得ントスルノ構言ニ外ナラザルナリ第三ハ道路ナラバ勿論良シ道路ニアラズトスルモ該地ハ云々 (以下略)

この嘆願書がどのような経過で作成されたかの詳細は不明であるが、当時としては生活がかかっていただけに、しんげんに論議検討された

結果できたものだから、八日市商業史としては貴重な資料である。

この嘆願書をうけた県令中井弘は八日市場の伝統を認めて市場開設を許した。ところが金屋では物いいをつけた。それは県条令に「隣接地ニ同種類ノ市場二ツハ認可セス」とある項目による反対であった。ここで、明治21年(1888)に双方が弁護士を頼んで市場争奪訴訟をおこした。金屋では熊本治衛門、熊本伊右衛門、熊本九兵衛、川島新兵衛、河村平兵衛らが委員となり、市場の歴史を研究してさかんに争論した。しかし、明治22年(1889)に神崎郡八日市村、浜野村、川合寺村、蒲生郡金屋村、辻村が合併して、八日市町制を施行したので、この市場問題は解決した。

明治中期の交通と商業

町の発展を考えると水と道と人との三つの力が根本的な問題である。八日市にとって、水の不足が大きく発展を阻止してきたようである。交通はどうであったろうか。さらに人はどれほど集まり、どんな人々が住んだであろうか。明治中期になってやっと交通機関の開発が行なわれた。八日市を通る道は御代参街道、八風街道のほか八日市道、八日市停車場道、八日市警察署道、八日市御園線、旭八日市線、八日市百済寺道などが当時早く改修され、八日市への周辺農村からの道であった。明治22年(1889)に東海道線ができ能登川駅へ汽車を八日市から見にいった話が伝えられている。東海道線は彦根から八幡へ行き、八日市は通らなかったので、近江鉄道が設立された。明治29年(1896)に会社が設立されて工事がはじめられ、八日市・彦根間の19.5kmが開通した。八日市駅は明治32年(1899)にできた。この時、浜野と小脇(現漬水町)が駅の争奪をしたが、浜野の勝となって、今日の本町通りの商店街の発展の基礎となった。駅の設置が町の繁栄に大きな影響のあることは

昔も今も同じである。もちろん、明治中期の近江鉄道は軽便鉄道だったけれど沿線の発展に寄与したことは大きかった。

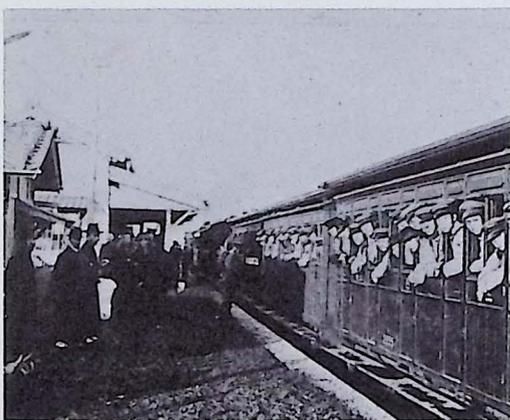
交通機関の発達で周辺農村からの人々を集め商品の流通をさかんにするのはよくわかるが、それによって通信機関、金融機関も発達した。

明治5年(1872)2月1日から八日市郵便取扱所ができ、福原維淳が取扱人となった。明治18年(1885)に八日市駅伝取扱所も兼ねて荷車や、軽運車馬車などの鑑札を渡していた。

やがて、明治19年(1886)5月25日に八日市郵便局と改められ、さらに、明治26年(1893)2月18日に八日市郵便電話局となった。明治29年(1896)には小包郵便も扱うようになった。

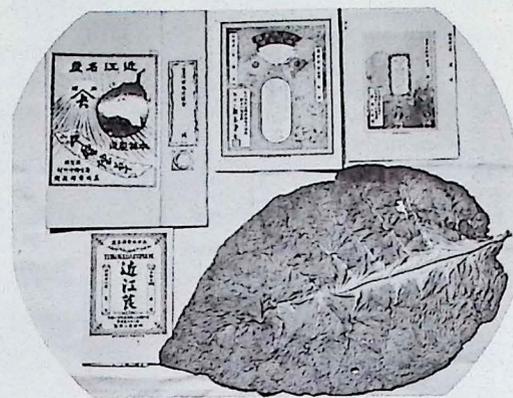
金融機関がはじめて八日市に誕生したのは株式会社八幡銀行八日市支店の設立である。八日市の中之町に資本金10万円で発足し、後に、金屋(現マスリン東隣)へ移った。その後、近江商業銀行が彦根を本店として、これも金屋に(現湖東信用金庫)できた。また、明治38年(1905)に近江銀行が本町通り(現西堀氏宅)にできた。

このように交通・通信・金融などの諸機関が発達して、市場はたいへん繁栄した。当時は金屋と八日市の市場争いもなく、毎月、二・五・八の9日となり、市屋形、露店などが充実していずれも賑った。



古き時代の八日市駅

八日市煙草取締所



八日市タバコ

八日市地方の煙草が近世から盛んであったことはすでに述べたが、明治29年(1896)に葉煙草専売法が実施されて、政府の事業となった。そこで、明治38年(1905)には八日市町に八日市専売支局ができた。八日市の煙草は「八日市煙草」とか、「中野煙草」といわれて有名であり、明治12年(1879)の「滋賀県物産誌」によれば、つぎの記載がある。

八日市町	葉煙草	千二十貫
	耕地	二町四反
御園村	葉煙草	千五百余貫
	耕地	八町一反余
建部村	葉煙草	四百十四貫余
	耕地	一町弱

専売法は耕作者を監視し、葉煙草の収穫前と乾燥後に検査をし、専売局に納めさせた。専売局ではこれを煙草製造業者に渡した。八日市煙草取締所が管理した耕作地は300余町歩であった。後に、明治37年(1904)になって、製造煙草専売法となり、取締所は大阪専売支局八日市葉煙草収納所と、八日市分工場となったが、さらに、神戸支局の出張所となり、名古屋支局

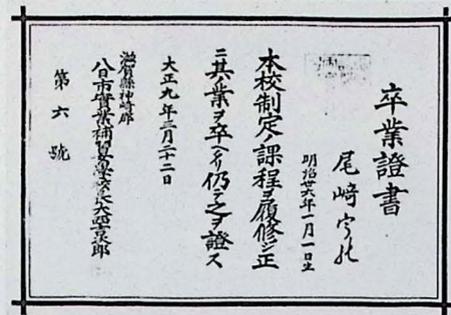
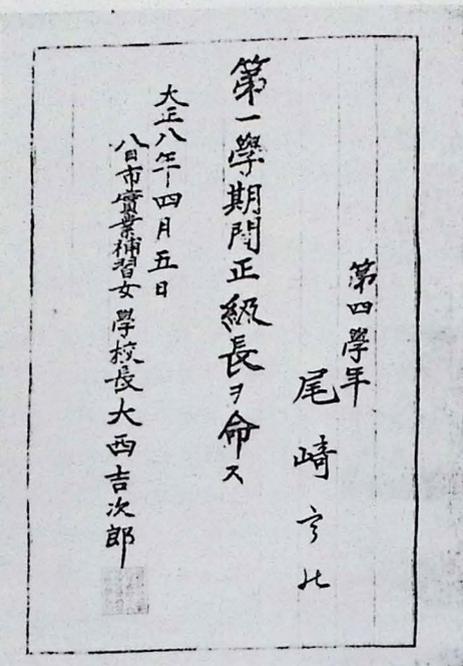
の出張所など名称を変えて、大正10年(1921)に名古屋地方専売局彦根出張所八日市煙草取扱所となった。大正14年(1925)ごろには八日市町、御園村、中野村、市辺村、玉緒村などでもっとも多く葉煙草を生産した。

明治後期の工場

明治後期になると八日市の市場は中期とほとんど同じだったが、新しく工場がつぎつぎとできた。明治42年(1909)には浜野の岡崎彦次郎が、技術面を担当し、森藤助が資本を出して、繊維工場が設立された。これは明治40年(1907)ごろに、専売法が施行されて、煙草の製造工場が彦根に移ったため、たくさんの失業者がいたのでそれを救うためであった。岡崎氏の技術は京都の西陣織物を学んだものであった。これがきっかけで、二人は研究を重ね、いくたの困難をおして、明治44年(1911)には浜野に230人ぐらいの工場をたて、さらに大正6年(1917)には金屋に近代的な岡崎製織場を建設した。さらに、この工場は発達し、後に傍糸工場として、滋賀織物合資会社、岡崎撚糸工場、神崎製織合資会社、八日市織布合名会社などもでき、現在の滋賀織物株式会社に発展する基礎となった。

こうして、八日市にも近代工場ができたのと呼応して、近江鉄道が八日市から貴生川まで開通した。そして、湖南鉄道の設立の動きがおこり、にわかに人口もふえ、活気を呈してきた。そこで明治39年(1906)6月2日に八日市小学校に裁縫学校を付設し青年教育に力を注いだ。

この裁縫学校は大正4年(1915)になって、八日市町立八日市裁縫学校と改められ、さらに翌年八日市実業補習女学校を付設して、女子青年実業教育に力を注いだ。これは明治35年(1902)に文部省令第1号の実業補習学校規程に基づくもので、修業年限は4年、生徒定員75名の2学級で、商業の町にふさわしい学校であった。



八日市実業補習女学校卒業証書

日市矢立ト称シ、精製ヲ以テ名アリ、又芸娼妓アリ、常ニ絲竹ノ声ヲ聞ク、道路ハ御代参街道ニ属シ、郵便局アリ、郵政施行以来、郡役所ヲ此地ニ設ケテ郡ヲ管セリ。

また、明治33年（1900）に発行された『近江地誌』にも「八日市ハ有名ナル市場ニシテ、警察署、郵便電話局、停車場等アリ」と書いてあり、さしえ入りで、八日市が教科書にとりあげられた。ついでながら、戦後になって、『滋賀県八日市町史の研究』正統2冊を聖徳中学校郷土研究会が編纂して、八日市町より発行したとき中教出版株式会社発行の文部省検定済教科書『あかるい社会』4年の上に、つぎのように八日市がとりあげられた。市場町の史料として、珍らしいので長いけれど全文を紹介する。

(五) 市場町

—滋賀県八日市町—

琵琶湖の東にひろがった平野を湖東平野とよんでいます。ぼくたちの八日市町はこの平野のまんなかにあります。むかし、みやこがあった滋賀里や京都も、すぐそばにあります。蒲生郡というところは、むかしは「がま」のはえた、あれはたところだったのでしょ。それで、みやこの貴族たちは、こゝへ、よくかりにきたのでしょ。ぼくたちも、遠足のとき、よく、ここをとおります。

このへんは、もとはあれ地でしたが、朝鮮からきた人たちを、ここにすまわせて、かいこんさせたといわれています。

ひくいところには、たんぼをつくって、米をとるようになりました。その米は、東大寺の人たちがやってきて、ねんぐにもっていきました。のちにはひえい山のぼうさんがやってきました。おひやくしょうは、せっせとはたらいでたんぼをひろげ、畑をひらきました。そうして、みんながもちよつて、ほしいものを、たがいにとりかえっこするようになりました。そこで、まい月、八の日には市をひらくことにしました。それが八日市町のはじまりだといわれています。ひえい山の寺では、この市がさかえるように、いろいろほねをおりました。市にはたくさんの人があつまって、にぎやかになれば、それだけ、たくさんの税金がとれたからです。

そのうちに、このへんの武士の力が、しだいに強くなって、寺の領地を、どんどん、じぶんのものにしていきました。武士も、市場が、さかえるようにしてやりました。

市ができたのは、ここではありません。このころになると、日本じゅう、ほうほうに、市場がたつようになりました。八日市町では

二の日にも、市がたつようになりました。それだけ、たくさんしなものがつくられるようになったのです。ことに、美濃国（いまの岐阜県のあたり）や山城国（いまの京都府のあたり）は、ほかのどこよりも農業がすすんでいましたので、このへんには大きな市場町がたくさんできました。

そのころの八日市の市場は、たんもの、あぶら、しお、海草、のり、土器、農具、かなもの、わた、紙などのような、しなものがならんでいたといえます。

織田信長は、全国をおさめるようになると、近江国（いまの滋賀県のあたり）の安土山に大きな城をきずきました。これが安土城です。そして、多くの商人をじぶんの城の近くによびよせて、かんとくしました。それは、信長のつごうのいいように商売はさせるが、商人が大きな力をもたないようにするためでした。大阪の近くの堺の町は、商業と貿易でさかえた、たいへんにぎやかな町でしたが、この町の人たちは、信長のいうことをきかなかつたので、とうとうせめられて、自由をおさえら

市場風景



れてしまいました。

八日市町は昭和のはじめまでさかえました。いまでは、むかしのようすは見られませんが、それでも、八の日がくると、本町通りに露店がならび、人どおりもにぎやかになります。

だいぶ、長くて退屈だったが、八日市が教科書に掲載されたのは珍しいので記録を残す意味で、全文書きとめた。

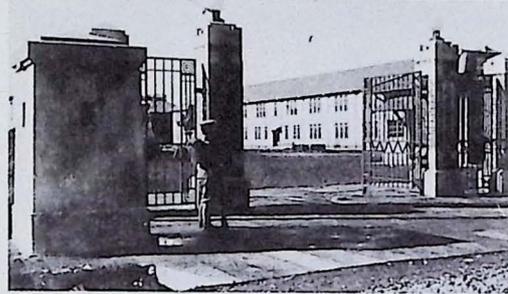
大正時代の八日市

明治末期に八日市実業聯合会が組織されて商工業の発達計画されたが、大正時代に至ると八日市飛行場ができてすべての方面に急速な発達をとげた。大正11年(1922)3月に発行された奥井清弘著『八日市と飛行場』によって、概略を知ることができる。八日市飛行場を設立したのは民間飛行家萩田常三郎、熊木九兵衛、権畑耕夫、フランク、チャンピオンらであった。萩田常三郎は大正3年(1914)にフランスより万国飛行一等の免状をえて、モラーヌソルニエ一式単葉飛行機を買い、伏見宮殿下り命名された鷲風号で郷土訪問飛行をしている。わずか4000坪内外よりない。しかも高低の多い自然の土地であった沖野原のまん中で大橋助手をのせて飛行した。観覧者は遠くから集ってたいへんな賑わいであった。みごとに湖東平野を飛んだ鷲風号を見た横畑八日市町長は早速有志と相談して萩田飛行後援会を結成した。そして、萩田常三郎のいった沖野ヶ原が飛行場として最適という意見にうたれ、時の神崎郡長平塚分四郎、熊本九兵衛と話合った結果飛行場の設立にとりかかった。

まず、15万坪の土地を買入れて鷲風飛行学校設立期成同盟会を組織すると、費用をすべて寄附でまかなうため募金活動を開始した。これは日本で最初の民間飛行場の開設であった。

萩田常三郎は飛行場建設のため基金をあつめ

るほか、飛行技術を高めるほか、大阪と東京との間を大飛行し、社会に認められるよう努めていたが、惜しいことに大正4年(1915)1月3日京阪連絡飛行をしようとして突然不可抗力の事故に出会い残念ながら死亡した。まことに気の毒なことであった。だが、八日市では萩田氏の遺志をついで飛行場の建設に熊木九兵衛らが努力した。町会は1万5千円の支出を議決し、熊木九兵衛も自己所有の山林7000坪を提供した。かくて、滋賀県飛行会が結成され、飛行場ができると、アメリカの民間飛行家ナイルスを招き飛行大会を行った。ナイルスは宙返り高等飛行をやって数万の観覧者をアッといわせた。このように飛行場設立にはたいへん苦勞した。とくに経費の点で、多大の支出が必要となり町民の強く反対するところとなった。そこで横畑町長攻撃の運動が大きく行なわれた。その後、アメリカの飛行家アーツミスを招いて八日市飛行



飛行第3大隊正門

場とんでももらった。そのころ、台湾台北市から台領20周年記念共進会の招きで、鷲風号を出品してほしいと依頼され、熊木九兵衛らが台湾へ渡った。また、孫逸仙の中国革命戦に対する一つの示威運動隊として青島へも招かれた。その後、横畑、熊木らの涙ぐましい努力が実を結んで、やっと飛行第三大隊が実現したと『八日市と飛行場』の著者は書いている。今日からいえば、空軍飛行場のあることは不幸だというけれど、当時においてこれが唯一の八日市の特色ということで関係者の心中を察すると、その感慨無量のほどが手に取るようにわかる。

飛行第三大隊は飛行第三聯隊ともいった。飛

行場は八日市町、御園村、玉緒村、中野村にまたがり、当初は48万8677坪であった。このようにして飛行場ができると、町には軍人が多くなり、商店もおおのずと賑わった。したがって、娯楽施設もできた。浜野にあった大谷座が明治35年(1902)4月14日の火災で消えてしまうと、清楽館が大正座の前身としてできた。

また、新地の芸妓が舞を練習する目的で、歌舞練場もできたが、後に川合寺(現東本町)に移って、いろは館となった。また、昭和映画劇場の前身である万才館も大正15年(1926)に横畑町長を社長としてできた。

明治末期から何回か角力の興行があった。延命公園の広場や小学校の運動場で角力、映画会などが行なわれ、盆おどりなどの娯楽も、飛行場とともに盛んになった感じであった。とくに飲食店はそのために栄えた。遊郭も大正10年(1921)ごろ、もっとも多く、お茶屋は48戸もあった。江州音頭や沖野の大風飛場も、飛行場と深い関係のもとに発展した。

だが、大正時代の景気よさは第1次世界大戦のおかげだけれど、そのかわり物価がはなはだしく上昇して、米騒動がおこった。そして、戦争がすむとすぐに、不景気となり、都会の商人の破産が続くと、八日市へもきびしく影響した。

大正14年(1925)の職業別統計があるから下記しよう。

	商業	工業	農業	他	計
八日市町八日市	0	2	1	8	11
浜野	4	2	12	12	30
金屋	2	2	10	3	17
小脇	2	0	11	0	13
川合寺	0	0	1	0	1
御園村	12	3	71	3	89
藪畑	17	0	55	4	76
中小路	1	0	35	1	37
妙法寺	3	4	49	1	57
岡田	1	1	9	1	12

御園村	今田居	3	3	31	1	38
	寺	1	1	32	2	36
	池田	1	1	53	1	56
	川合寺	0	0	23	0	23
	神田	6	2	58	5	71
	野	10	3	40	7	60
	外	3	0	61	6	70
	上	1	0	7	0	8
中野村	小脇	17	5	165	21	208
	中野	85	9	56	126	276
	今崎	17	1	30	17	65
	今堀	22	4	47	8	81
	小今	1	0	22	0	23
建部村	上日吉	20	7	56	13	96
	南	1	0	23	3	27
	上中	4	4	55	1	64
	瓦屋寺	5	4	25	2	36
	堺	1	3	32	3	39
	北	2	2	39	5	48
	下野	9	4	57	7	77
平田村	上平木	16	12	120	12	160
	下平木	0	0	23	0	23
	柏木	0	0	34	0	34
	下羽田	2	4	58	7	71
	中羽田	4	7	39	0	50
	上羽田	2	0	22	0	24
	上羽田西	3	6	29	10	48
	上羽田南	11	7	77	5	100
	上羽田北	2	0	25	5	32
市辺村	市辺	26	13	155	22	216
	糠塚	1	2	34	0	37
	野口	20	0	80	11	111
	三津屋	2	2	45	0	49
	布施	0	3	70	1	74
	蛇溝	0	0	45	1	46
玉緒村	芝原	0	0	72	5	77
	柴原南	2	1	57	0	60
	下二俣	4	2	37	2	45
	尻無	3	4	60	3	70

玉緒村	下大森	3	12	79	7	101
	上大森	3	3	68	0	74
	土器	3	1	25	1	30
	瓜生津	16	0	52	5	73

昭和前期の八日市

大正大震災に続いて、農村が貧乏となり、八日市でも銀行ががつぎつぎつぶれる不景気の中で大正から昭和へと時代が移った。大正8年(1919)の全国農業生産高40億8千万円が、昭和2年(1927)になると27億円に減じている。農村を周囲にもつ八日市の商工業はさっぱり振わな

くなった。そのため近江銀行がつぶれた。昭和4年にはアメリカの大不景気の影響をうけて小さな企業がつぎつぎつぶれた。農家もまったくひどいものだった。その中で、町の発展を企てた人々が、各種の工場を建てた。昭和2年には京でちりめん工場をやっていた沖田氏が地震のために困った罹災者70人をつれて、中野へやってきて、岡崎撚糸工場で、ちりめん工場をはじめた。大正時代にできた。藤原製織工場、近江酒造会社、藤田鉄工所なども生産向上に努力している。

昭和3年の『近江神崎郡志稿』に掲載された工場一覧表を示すとつぎの通りである。

会社名	製品	産高	職工	男	女	計
岡崎製織工場	女帯地	240,950円		30	132	162
八日市織布会社	紬類帯地	103,242円		30	160	190
丸越機業部	女帯地	51,016円		7	33	40
桶屋製茶再製工場	製茶	2,760円		7	6	13
近江酒造会社	醸酒	103,600円		9	0	9
野村手套製造所	軍手	25,000円		2	12	14
松阪靴下工場	靴下	2,310円		1	9	10

昭和5年の『八日市町勢要覧』に5人以上の使用の工場一覧があるので上記以外の事業所を示すとつぎのようである。

滋賀織布会社	西田印刷工場	藤原製織場				
合資会社神崎織物所	竹鼻製織場	堤製織場				
藤川メリヤス工場	宮崎織物工場					

また、八日市地方の昭和前期の生産物の一覧を示そう。

絹紬	2,225,850碼	907,698円
清酒	75,370斗	61,016円
女帯地	1580本	21,143円
木製品		36,214円
饅頭及麦類		23,580円
メリヤス手袋	14,400打	14,250円

藤製品	15,387円
鋳力製品	8,629円
傘提燈	10,182円
計	1098,099円

大正14年(1925)10月に八日市実業聯合会が創立され、宮師惣治郎の尽力で、会長、副会長がきまり、20名の実行委員がでて、千日会の花火、売出しなどが計画され、町の発展に貢献した。

また、昭和初年『近江神崎郡志稿』に掲載されている八日市地方出身の全国に活躍していた代表的商店一覧を示すと次の通りである。

出身地	氏名	商店名	出店地	商品	創業
八日市浜野	高瀬政太郎	高瀬合名会社	朝鮮	綿布	明治17年
	八日市 山本元三郎	兄	東京	太物	明治22年
	野々村又治郎	稲西屋	大阪	絹糸交織綿布	明治44年
	川島宇治郎	淡海商店	〃	玩具	明治40年
金屋	梅原米治郎	梅米商店	東京	織物雑貨輸入	明治13年
金屋	松吉直彦	文松吉	北海道	缶詰和洋酒	明治33年
八日市	島田孫四郎	近江屋	埼玉県	醤油	明治28年
浜野	高瀬政太郎	高瀬合名会社	大阪	綿布	大正11年
八日市	沢島八重	京都八重	京都	呉服太物	明治36年
金屋	奥村義輔	三徳園	東京	茶商	大正13年
金屋	田中彦次郎	山彦	東京	材木	大正12年
八日市	野辺市治郎	野辺市	大阪	金属製品	明治36年
八日市	磯部円造	開国舎	横浜	洋帳簿	大正元年
金屋	梅原米治良	梅原洋行	ハルビン	絹織物雑貨	明治40年
金屋	山本新治郎	本	浜松	織物	大正13年
浜野	西田米治郎		八王子	樽問屋	明治39年
浜野	内藤貞三	近江屋	東京	小間物雑貨	大正元年
浜野	山本弥太郎	近江屋	横浜	絹綿布	大正2年
浜野	山本誠逸	近江屋	横浜	絹綿布	大正4年

昭和9年に筏川の覆蓋工事が完成すると、金屋大通りに商店ががつぎつぎできた。延命山の小脇側の麓に町営住宅ができて、天理教湖東教会、生蓮寺の移転、太郎坊宮への参道の整備など住宅側の充実にもなって、商店もいっそう賑わいを増した。町役場、郵便局、公会堂、警察署、幼稚園など新築され、地方事務所も新しく建ち官庁街ができた。昭和13年5月には近江蚕業販売組合八日市工場がたち、昭和17年には松原鉄工所八日市工場が八日市中学の東側にできた。

戦時体制下の八日市の経済

日華事変がはじまって、太平洋戦争へ移ると、国家総動員法によって、八日市も統制経済となった。昭和15年には砂糖、マッチの配給がはじまり、翌16年には六大都市に米穀通帳制が実施され、だんだんと生活必需物資が軍需の要求か

ら一般の国民経済に出まわらなくなって、チケット制とか切符制とよんで、町民の生活がだんだん苦しくなった。業者も地域別、業種別、商業組合別に再組織され、蒲生神崎の各組合事務所ができた。この地方の農家の二男、三男は従来、東京や大阪の大商店へ奉公へ行くのが生きる道だったが、戦争の悪化とともに、満蒙開拓義勇軍を志願し大陸に渡る者も多くなった。さらに、軍需工場へ働きにでるものも増加した。また、八日市の工場もすべて軍需工場にかわり岡崎製織工場も木工部と、飛行機部品部にかわった。総動員体制は商人に統廃業を要求し、国民生活はとても苦しくなった。

昭和13年に御園にできた各務ヶ原陸軍航空支廠の分廠は、昭和16年に大阪陸軍航空支廠となり、はじめは70名余りだったが、昭和17年には330名の大きな分廠となり、昭和18年から女子も採用され、男子にかわって、飛行機、発動機

車輛等の手入れ、加修等の作業を行った。

戦時中の市民の生活は農村と商店ではすこし違うけれど、防空演習がつねにくりかえされ、燈下管制、バケツリレー、注水作業、爆弾、焼夷弾の処置法、衛生手当などの訓練が、町内単位で、また、青年団、婦人会の単位でくりかえし行なわれた。衣服も防空ズキン、モンベとなり、食事も代用食で、パン食、芋食、お粥生活が続き、住いも疎開という形で、町の中心部のとりこわしがあつた。食料、衣料、住所などいづれも、大都市の戦災がわざわざいして、八日市も苦しかった。一軒に3世帯も住む家があり、広い家庭では飛行隊の将校を下宿させた。軍隊はすべて秘密主義で、飛行場周辺の立入りが禁止された。末期には飛行場が拡張されて、八日市の皇美麻神社の樹木なども飛行の邪魔になるといって伐採された。

闇物資の横行、畑物荒しが盛んとなり、警防団が組織され、不寝番が町内ごとに行なわれた。日華事変のはじめに、戦勝記念の旅行列、提燈行列があつたが、やがておこなわれず、出征兵士の見送りの変りに、遺骨の出迎えが連日のように続いた。

昭和20年7月15日早朝はじめて八日市にも敵機の空襲があり爆弾が落ち、清水町の薬師寺付近が被害を受けた。都市の荒廃はいちだんと激しく、八日市への疎開者もふえて、人口が急増したけれど8月15日の終戦を迎えた。

近代八日市の経済発展に輝く人々

中沢善助

八日市にとって、近代でもっとも富豪を誇る中沢家の記録はきわめて少ない。まず、天保9年(1838)の野々宮神社にある島村紀孝の記録につきの通り書いてある。

天保十年八月二十三日禁裏御所御代参宮として大和殿御通行土山に泊り石原中食、八日市小休、愛知川泊り 四日多賀に泊りの由御座候八日市は中沢氏本陣

つぎに、蒲生郡金田村大字浅小井の今宮天満宮神社の境内に中沢善助の献じた文化5年(1808)の銘ある常夜燈があり、慶応3年(1868)の福井県小浜市に残っている肥料問屋の名簿にも名が残っている。明治15年(1882)の「大日本新持丸長者鑑」に小さくのっている。堀川辰之助氏の『八日市郷土志稿』にはつぎのように記されている。

現在云ふ市口町一帯に本宅、倉庫を有し、当時付近の米、肥料並に北海物を取引したのである。財力については責任なき数字乍ら古老の言により、記し見るに井伊家に九万両、其他用立金四十数万両、他に現金十数万両近くと称へられ、所有馬十余頭を持ち非常に豪勢を極め、維新により諸大名よりの利息も入らず其他失費、後述明治4年の大火等により衰微したのである。

延命山麓の松尾神社の馬場を金丸馬場といった。金丸は司で屋号であつた。

高瀬政太郎

高瀬政太郎の名を知っている人は多いが、その伝記となるとほとんど知らない。嘉永5年(1852)5月2日に建部村界の福永善六の次男として生れた。6才で浜野の高瀬政男の養子となった。20才ごろ、親類の小林吟右エ門の大坂支店へ奉公にでた。呉服問屋の公債係となって株式問屋と親しくなり、朝鮮事情を知って好奇心をおこし一時視察のために彼地へ渡つた。宿屋がすべて予約制だったので、船中で知りあつた人に頼みこみ15日間とめてもらつて事情をしらべたが、朝鮮語がわからなくて困つた。帰り

に三井銀行大津支店長の堀口という人にあつた。この人から釜山に店を出している話を聞いたのがきっかけで、朝鮮への移住を決定した。

2000円の資金をこしらえて陶器、家具類などの実用品を仕入れて行つた。釜山で偶然にも日本語のわかる13才ぐらゐの季賛和を知り番頭にした。かくて、明治23年(1890)5月1日に開業した。さいわい人気があつて、商売は思わぬ盛況であつた。季賛和もよく働いたので、2000円の資金はたちまち6000円となり、40万円になつたという。はじめは実用品だけだったが、後に石油も扱つた。その他、浅野セメントや煙草、砂糖も扱つた。また、金羅南道に綿花の試作もやつた。ついに、釜山の元老となり、各地からの朝鮮進出の相談をうけた。

その後、明治42年12月から明治44年4月まで八日市町長もつとめた。そして、八日市中学校の設置、西照寺の鐘楼、松尾神社の鳥居などを寄附している。大正8年(1919)9月29日68才で死亡された。

高瀬ふさ

明治10年(1877)に発行された『近江商人の内助』なる書につきのように記してある。

神崎郡八日市町の高瀬政太郎は朝鮮にて成功せし豪商なるが、ふさ女はすなわちその母にして、為人高潔、最も同情心に富める賢婦人なり。高瀬家は従前より八日市町内に多くの貸家を有せるが、家賃は最初契約せしまいつまでも値上げせざるのみならず、常に管理者に見廻らせて行届ける修理をなすため、物価騰貴の際などは、却つて缺損を生ずる有様なりければ、借家人これを気の毒に思い、代表者を選びて家賃の値上げを懇請せしにふさ女答えて「貸家は私方の本業にあらず、余剰の資産故御心遣ひは御無用なり、幸に家賃廉きため住心地よくば、何卒永住して此の土地の繁栄に心懸けられたし、さすれば、私も問

接に郷土へ御奉公できる次第にて此上の喜びなし」といひし。借家人ら皆落涙して喜びあへりとなむ。

なお、ふさ女は、男女多くの召使にも偏頗なく、慈愛の心深かりしかば、一同脱服してお家大事と忠勤を励めりといふ。ふさ女、若き頃より信仏の念篤く余生を信仰三昧に託し悠々として養子順孫に圍繞せられ報恩謝徳の日を送り迎へつつありと。

山岡つや

つや女は慶応2年5月18日八日市大字八日市8番屋敷に生れた。家貧にして早く両親を失い兄弟もなく、独立生活を試みたるも力およばず明治21年(1888)3月23才のとき、近江八幡の松島伊三郎の家へ下女奉公にでた。主人夫婦にとつても気に入り、主家の家運がようやく傾いてついに給料がもらえなくなったが、つや女はすこしも気にせず主家のために働いた。大正10年(1921)に主人の伊三郎が死に、その妻も続いて他界すると、遺児が長男15才、長女が7才次男が3才だったので、つや女は母がわりとして育てた。伊三郎が死んだため、不動産も動産もことごとく債権者に差押えられ、町角の小さな家をかきて、つや女は職工となり遺児の育英に當つた。つや女の努力で、長男は八幡商業学校を卒業し、銀行につとめ、長女は師範学校を卒業し、三男も立派に成人した。つや女は一生松島家のために尽して死んだ。



八日市場と郵便局

1 八日市郵便局のおこり

八日市に郵便局が置かれたのは明治5年2月一日で、今年で丁度百年になる。最初は郵便局のことを郵便取扱所といい、又局長は取扱人といった。

八日市郵便取扱所の初代取扱人は福原四郎左エ門で、氏は代々建部郷八日市村の庄屋を勤め又酒造を家業とした。福原氏は八日市でも屈指の旧家で八日市油座に深い関係があり、又八日市枡を伝承していることで有名である。明治4年の八日市大火により家財を焼失したがいち早く再建した所、郵便取扱所設置のこと、なり、酒造業を廃業して郵便取扱人に任命された。当時、駅逓寮（現郵政省に相当）から左の様な通達が出されている。

1 郵便取扱人は毎村1人宛と相定め云々

1 郵便御用取扱人自宅に於て取扱申す可き事、但し郵便御用取扱所と相記候掛け札致可き事

1 郵便御用取扱人へ諸入用御手当として1カ月金貳分宛下され（以下略）

最初の郵便取扱所の置かれた位置は本町通り商店街のフクハラ運動具店で、のち電信業務を取扱うようになってその二階を電信室としたため一部改造され、今も同店の天井が高低二段となっているのはその名残りである。

主要街道からはずれたこの八日市が比較的早く近代郵便の恩恵に欲したのはほかならぬ商業の町として古くから栄え、各地方との取引通信が多かったからで、日野の西大路と共に全国でも例の少い存在といえよう。

明治4年、県内では先ず東海道筋の土山、水口、石部、草津、大津と堅田、八幡の7カ所に取扱所が置かれた。この配置は、東京・大阪間に最初の郵便路線が定められたため、東海道を

主としたもので、さしあたり旧来の宿場々々におかれ、継続飛脚で運送する中継所的な性格が多分にあった。八幡、堅田については、その周辺から飛脚が集散し、湖上を往復する船便で大津に至る発着点であった為、又西大路は維新後、西大路県がおかれ、御代参街道の宿場として八日市と共に栄え、一方酒造業を主とする人達が関東方面に進出して活躍し、併せて製菓業の盛んな土地柄だけに郵便取扱所の必要度が高く、ために置かれたものと思われる。

勿論、この八幡、西大路の取扱所に発着する郵便物のうち八日市から又は八日市あてのものが相当多かったものと思われる。

この頃八日市と八幡、西大路間は私設の飛脚に頼っていた。

翌明治5年には中仙道、北陸道、湖西道、御代参街道筋に郵便取扱所が設けられ、御代参街道では八日市一岡本一西大路一土山と繋った訳である。この御代参街道の起源に遡れば、もともと一筋の街道として在ったものではなく、八日市を中心として四通発達した商業用間道がいつの頃からか中仙道を下って草津に至り、更に鈴鹿越えに向う大迂回路のバイパスとして往来が繁しくなり、一筋の街道となつてずい分栄えた様である。それまで個々に営業していた飛脚業の人達は合併して陸運会社を興し運送業を営んでいた。

さらに翌明治六年に郵便取扱所を郵便役所に同取扱人を取扱役と改められた。その理由は、

『ここは飛脚屋の営業所ではない。政府の通信務を扱う役所であるという事を広く示す必要があり、その頃は発信人が手紙を出す際、この手紙は目方が軽いか、届け先が近いからといって賃金（切手代）を半分に負けるとか、三分の一でよいだろうと言う者もあれば、やれ茶を出せの煙草を吸わせろという者もあり、局員がそんなことはできないと言うと、この会社は横着だとか失敬だとか有様』で、商売の町として政府の役所に接したことの無い八日市にしてみ

れば無理のないことであった。

2 運送径路と脚夫賃

当時八日市から各地へ手紙を出す場合の径路を推察すると八幡へは武佐を。彦根、長浜、北陸方面へは愛知川。大津、京都方面へは岡本を径て水口、東海、東京方面へは岡本、西大路から土山を径たようで、その運送も毎日という訳には行かず、

愛知川—西大路間は毎月二・四・七・九の日

岡本—水口間は毎月二・五・八の日

西大路—土山間は毎月三・八の日

武佐—八幡間は毎日

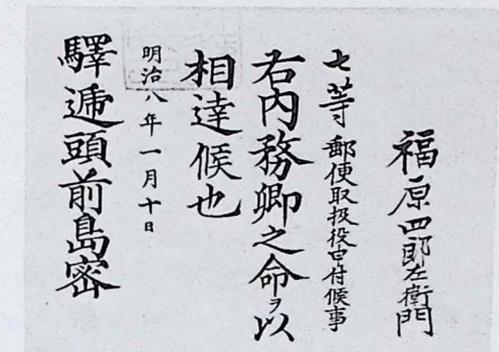
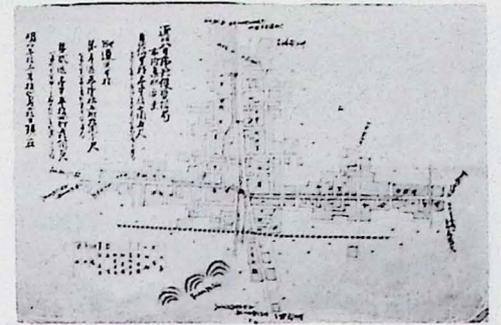
となっていた。

当時は電話は勿論、新聞も充分にない時代のことで、大阪など都会で毎日変動する物価の相場もすべて郵送されていたことを思うと、八日市で二・五・八の日に開かれた市と、この運送日との関連性について調べると更に興味深いものがある。

郵便取扱所間を走る郵便脚夫の賃金はその距離によって支払われ、通常一里宛二銭八里と定められたが、山道等では割増金があり、又速度重量によって多少の増額があった。

この郵便脚夫の賃金及び先の郵便運送日等はすべて駅逓局からの令達によって定められたものであるが、最初の頃は相当混乱し、手落ちもあった模様で、これも亦無理のない事であったが、八日市一西大路間、西大路一土山間及び、岡本一水口間の運送脚夫の賃金の達しがなかった。而し、達しがないからといって、東海道筋への接続をしなければ折角の郵便の便利さも無に等しく、ただ手をこまねいている訳にも行かないのでこの区間の賃金を八日市、岡本、西大路の三取扱人が自弁していたということであった。

明治5年6月17日付の滋賀県令（知事）松田道之から大蔵省に出された「郵便賃金之儀に付伺書」によると、



「郵便取扱所之儀先達て（中略）是賃金一カ年金六圓と見込み、取扱人三名にて貳圓宛持出し勉強致居候之共右にては永続の場に至兼候儀は勿論云々」とあり、創業期の苦勞と意気込みがうかがわれる。そして、これらの区間の距離は、

八日市—武佐間	一里二六町
八日市—岡本間	二里一八町
岡本—西大路間	一里三一町三尺
西大路—土山間	二里三五町二七間二尺

と記録されている。

3 商業専用はがき

物価の通報について明治21年に近江三等局長協議会から駅逓局（郵政省に相当）に建議された記録に、

1 特別地方郵便法を設置し並小物価郵報用紙を發行せられんことを（中略）物価郵報用紙は商業上の利便を計り市価の平準を得せしめ

んが為に発行するものにして発行要領左の如し。

1 沓葉参里の物価郵報用紙を発行のこと。
但し発行手続は郵便葉書に準ず
(中略)

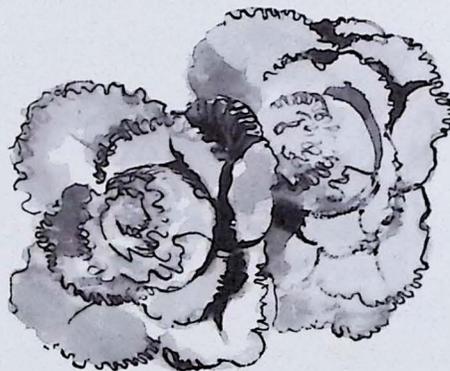
1 物価郵報用紙は専ら物価の速報を計るのみなれば他の通信文或は暗号等を記載するを得ず。
(以下略)

理由

「従来物価を報告する方法種々あり、新聞又は物価表の発行ありと雖とも未だ以て完全と謂ふを得ず。殊に遠隔の地へ之を報告するは其費用巨多を要し商家の不便不利蓋し大なりと謂はざるを得ず。商家の便否は本会の興らざる所なりと雖とも物価報告の如きは郵務上至大の關係あり、且国家の經濟上に於て黙了に付すへからざるものあり、本会の議爰に及ふも敢て無用の業に非らざるなり、況や將に各地に取引所の創設ならんとする今日に於ては物価報告の必要片時も忽諾に付すへけんや、今や外交日に開け商業月に頻繁を極め内地雜居に遠からず実行のあるを見んとするに當り物価報告の便法を図るは実に目下の急務なりと信し遂に威嚴を冒読するに至れの敢て乞う涵納せられんことを」とある。之は誰の提案によるものか判らないが湖国随一を誇る八日市市場の真中に在って、日常痛切にその必要性を感じた八日市局長福原氏の発案ではないかと推察される。

この物価通報用紙は今までの処所っていないので或は採用されなかったのかも知れない。

しかしながら商業を営む者の利便をはかってこの様な意見を堂々と具申したことは現時点からみても高く評価されるべきであろう。



八日市の郵便関係年表

年 月 日	局異動・呼称	業 務
明治 5. 2. 1	八日市郵便取扱所設置	
5. 3. 1		通常郵便事務取扱開始
8. 1. 10	七等郵便取扱所	
9. 9. 16	五等郵便取扱所	
12. 5. 1		内国為替事務取扱開始
12. 9. 1		貯金事務取扱開始
12. 9. 22	四等郵便取扱所	
18. 11. 1	三等郵便取扱所	
19. 5. 25	八日市郵便局(三等)と改称	
26. 2. 16	八日市郵便電信局(三等)と改称	電信(和・欧文)業務取扱開始
29. 7. 1		小包郵便取扱開始
37. 4	中野郵便局開局	
43. 3. 21		電話通話事務取扱開始
大正 5. 10. 1		簡易保険事務取扱開始
7. 4. 1	御園郵便局開局	
15. 10. 1		郵便年金事務取扱開始
昭和 3. 3. 26	玉緒郵便局開局	
9. 10	市辺郵便局開局	
12. 10. 1	三等郵便局を特定郵便に改める	
13. 11. 16		速達郵便事務取扱開始
15. 1. 26	平田郵便局開局	
20. 3. 1	八日市郵便局は普通局に昇格	
20. 7. 1		電話交換方式を共電式に改める
24. 6. 1		電信電話業務を八日市電報電話局に移管
42. 7. 1	八日市郵便局は市内野々宮町に国設局舎建築移転	
43. 2. 1	八日市浜野郵便局開局	
47. 2. 1	八日市における郵便100年	

八日市駅伝営業組合

八日市の商工史を論ずるにあたり、その生命はわずかであったが、往時の状況を知る上で駅伝営業組合について記さなければならない。即ち明治18年7月、県甲第90号布達により県内駅毎（三十四箇所）に駅伝営業組合が組織され、八日市駅伝取締役に当時八日市郵便取扱役の任に在った福原維淳氏（世襲名 四郎左エ門）が任せられた。駅伝営業組合が置かれた各駅は当時既に郵便取扱所が置かれ、後述の組合各業種を統率するのに、交通（当時は陸運、通信などを総称していった）事情その他で最も精通し又役人として権威を有した者が適任と認められた由で、殆んどの地で取締役を郵便取扱役が兼務した様である。

明治4年までは手紙を送るには全て飛脚に頼っていたが、明治5年に官営の郵便取扱所が出来て遠方でも比較的安い賃金で手紙を送れるようになったため、それまで飛脚業をしていた人たちは失業するはめとなった。そこでこれらの人の救済策として飛脚業の人々を合併せしめて陸運会社を興させ、荷物の運送に当ることとした。しかしこれもわずかの期間でなくなり、個人で運送業を営む者がふえ、又人力者、荷車、牛馬車、或は旅籠屋等交通に関連する事業者が次第にふえていった。

各宿場においてこれらの業種がまちまちに営業する様になると、その料金も亦高低まちまちで何ら統制するものがなく、これを利用する側にとって非常に困る問題となった。そこで県において先の布達が為され、少くとも県内ではこれ等業種毎の料金は略々平等とし、不当に高い料金をとることなく、又一方では過当競争のあまり料金の値引などにより営業に困難を来たすのを防ぎ、営業者相互の利益保護を目的とした様である。

明治19年5月の八日市駅伝組合の状況

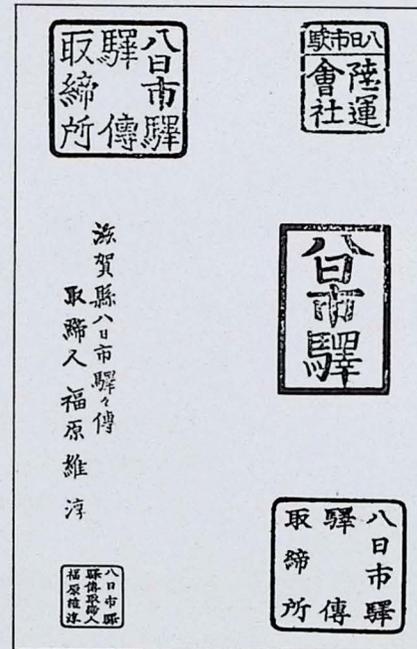
業種	人員	1人1カ月組合費	車輛馬匹
陸運諸荷物請負業	4	40銭	人力車 55両
旅人宿	54	7銭	荷車 238両
人力車夫	55	二銭5里	献牛馬 52頭
陸運稼業	632	二等 5里 一等二銭5里	

参考

当時の米価	一石（約150kg）当り
上米	5円70銭
中米	5円35銭
下米	5円15銭

この様にして組織された駅伝営業組合も二年目の20年5月、二年足らずの期間を以ってその制度撤廃により解散された。

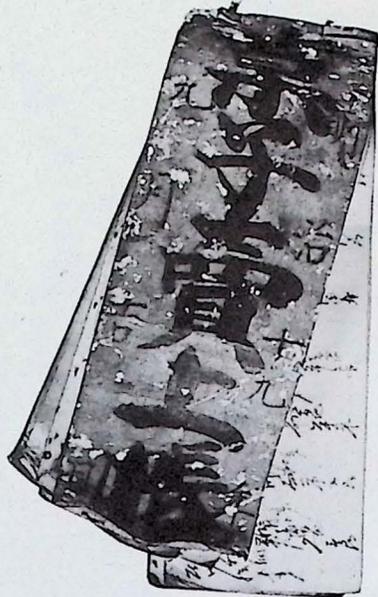
その理由は当時自由化思想の普及から拘束することが不当であった為か、或は業種毎の同業組合として細分化のために発展的開散となったものか、その真意はいまのところ不明で、今後解明してゆくべき課題であろう。



目でみる明治・大正・昭和



明治時代の標札



明治時代の売上標



明治時代のチラシ



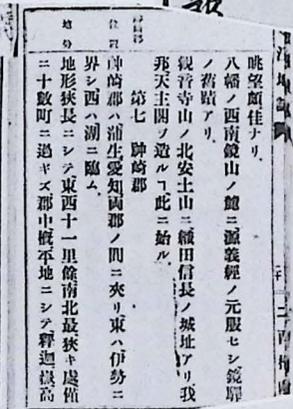
明治時代のチラシ



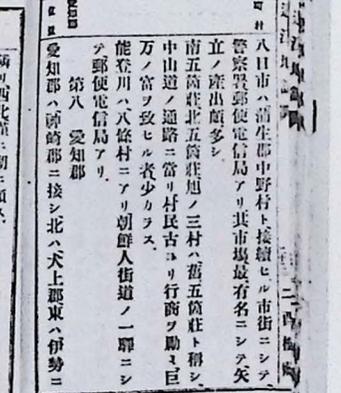
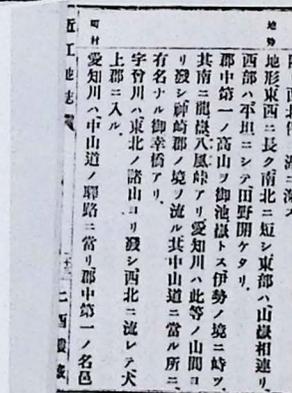
明治時代のチラシ

明治時代のチラシ

明治時代の郡誌



明治時代の郡誌



大 正



大正時代の大通り



大正時代の本町通り

大正時代の南町



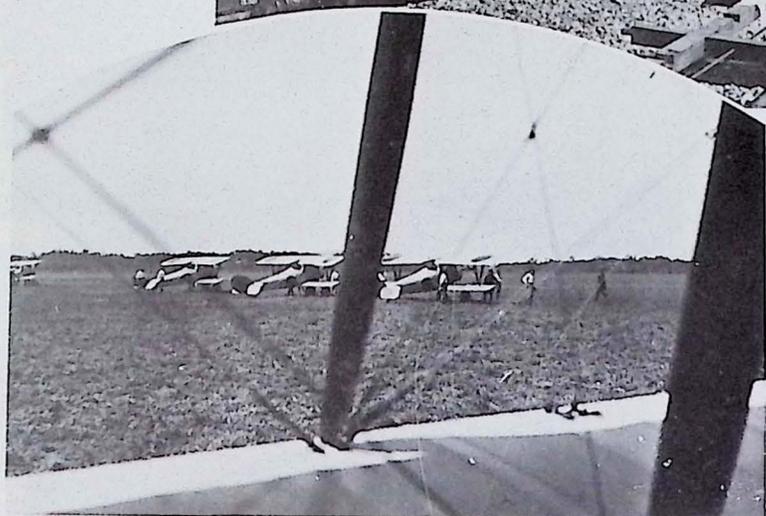
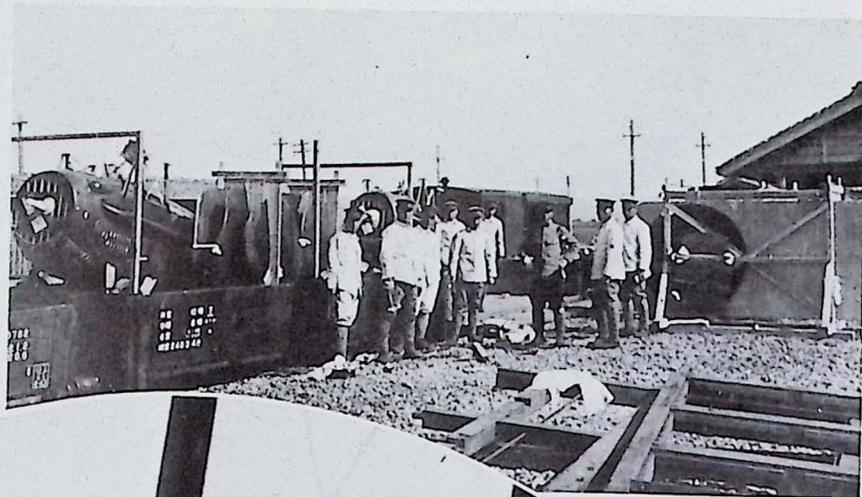
大正時代の八日市の中心部

大正時代の市場



昭和

戦前の新八日市駅



第3飛行大隊

昭和30年頃の本町通り



昭和46年の南町



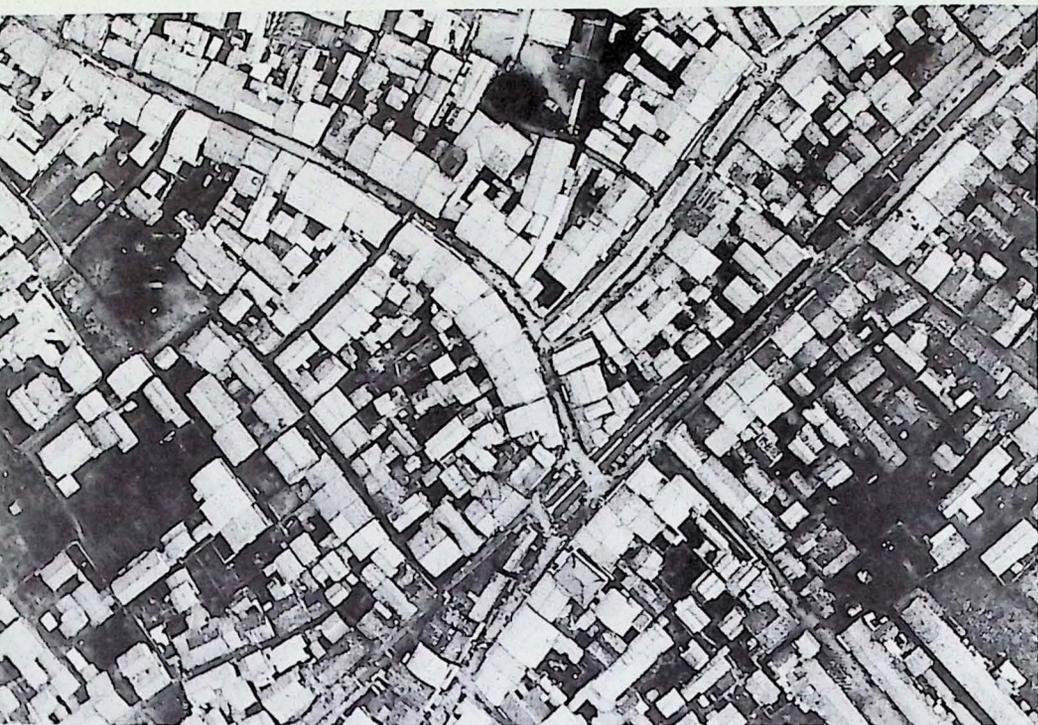
昭和44年の本町



昭和46年の本町

昭和46年のチラシ



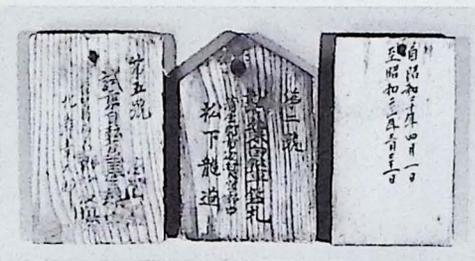


昭和初期の八日市

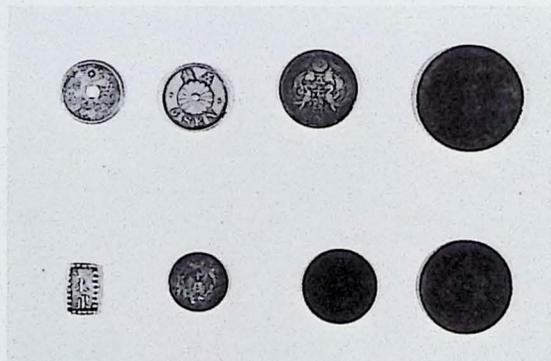
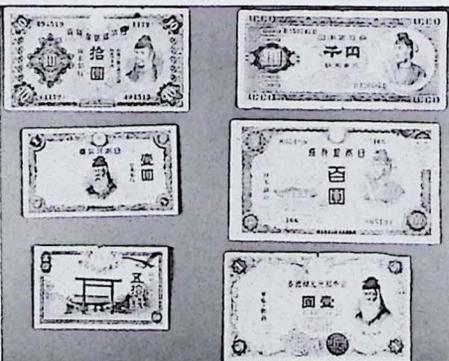
陸軍病院の門鑑



昭和20年発行の試乗自転車鑑札



通貨のいろいろ



八日市商工会議所役員・議員・顧問

役名	氏名	事業所名	業種	住所	電話番号
八日市商工会議所役員・議員・顧問					
会 頭	岡崎 耕平	(合資)岡崎製織場代表社員	絹・人絹帯製造	野々宮町2-7	2-0089
副 会 頭	二橋貞治郎	太陽コンクリート(株)取締役社長	生コンクリート製造	建部下野町	2-2491
"	奥村晃一郎	(株)太陽堂薬局専務取締役	医薬品販売	八日市町13-15	2-0308
専務理事	北村察太郎	商工会議所専務理事		本町	2-0475
常 議 員	笹井 太一	近江印舗店主	印刷	上之町	2-0433
	北川 脩	八日市バルブ工業(株)取締役	碎木バルブ	浜野町6-3	2-2088
	向 政五郎	(有)向菊商店代表取締役	食料品卸	今崎町	2-1525
	前川 恕	前川木材(株)取締役社長	木材販売	建部日吉385	2-0830
	村田 八郎	湖東信用金庫理事長	金融	金屋三丁目2-10	2-2020
	北岸幸太郎	(有)丸幸自動車商会取締役	自転車販売	小脇町	2-0792
	石戸慶次郎	(株)石戸商店取締役社長	菓子卸	東本町9-20	2-0431
	西沢 定雄	(株)西与呉服店取締役社長	呉服衣料品販売	本町	2-0137
	村田信一郎	(株)近信商店取締役社長	和洋家具販売	清水二丁目7-5	2-3235
	福原 憲治	(合資)神崎倉庫代表社員	倉庫業	浜野町1-6	2-2034
監 事	鳥塚 太源	(株)滋賀銀行八日市支店長	金融	本町13-11	2-1231
	久保 謹吾	伊藤銀証券(株)八日市支店長	証券売買	清水一丁目9-19	2-2460
1号議員	藤井 幸雄	(株)藤井商会取締役社長	食肉販売	金屋二丁目	2-0200
	笹井 太一	近江印舗店主	印刷	上之町	2-0433
	山田晴一郎	(名)かじ藤商店代表社員	金物セメント	八日市町13-19	2-2500
	村田 梅吉	村田石油(株)取締役社長	石油製品販売	清水二丁目	2-0851
	長野 重衛	滋賀産業(株)代表取締役	室内装飾	清水三丁目1-39	2-4555
	前田 春吉	(有)前田クリーニング商会代表取締役	クリーニング商	浜野町	2-0787
	北川 脩	八日市バルブ工業(株)取締役	碎木バルブ	浜野町6-3	2-2088
	堀井 寅蔵	協楽興業(株)専務取締役	映画館経営	本町10-2	2-1016
	西川 平助	(有)トラヘイ代表取締役	事務用品販売	本町7-7	2-1060
	西田 藤吉	西田印刷店主	印刷	清水二丁目	2-0124
	川島 浩司	(有)大里専務取締役	化粧品袋物販売	本町	2-2150
	小沢 康二	コザワ洋品店主	洋品類販売	本町	2-0834
	高木 達也	(株)ポウルカネトラ取締役社長	ボウリング場経営	東浜町	2-5530

監 事



久保 謹 吾



鳥 塚 太 源

常 議 員



前 川 恕



北 川 脩

役 名	氏 名	事業所名	業 種	住 所	電話番号
八日市商工会議所役員・議員・顧問					
1号議員	松吉 郁郎	(有)アラカツ専務取締役	洋品類販売	本町7-10	2-0162
	渡辺福之助	八日市小型運送(有)代表取締役	運送業	浜野町3-28	2-3322
	向 政五郎	(有)向菊商店代表取締役	食料品卸	今崎町	2-1525
	楠林勘二郎	楠林時計店店主	時計・カメラ販売	栄町	2-0510
	辻川 敬一	(有)辻川一六堂代表取締役	印刷製造	栄町3-24	2-2298
	奥出 栄司	タキロン化学(有)八日市工場長	合成樹脂製品製造	野村町	2-2255
	国寄喜代助	滋賀小松(有)取締役社長	自動車修理	野村町	2-0990
	喜多喜久子	喜多酒造(有)取締役社長	酒造業	池田如来	2-2505
	池田峯次郎	池田 商店店主	日用雑貨販売	瓜生津町	2-0876
	村防 龍雄	村防サク泉工業(有)代表取締役	サク泉業	上平木町	2-2254
	前川 恕	前川木材(有)取締役社長	木材販売	建部日吉 385	2-0830
2号議員	北岸 正次	いたや店主	料理旅館	本町14-4	2-0047
	辻 与惣二	近江鉄道(有)取締役	鉄道運輸	彦根市大東町	07492 2-3301
	今宿 市郎	近江酒造(有)代表取締役	酒造業	上之町	2-1000
	木村 豊一	(有)木村鉄工所取締役社長	鉄工業	清水二丁目4-4	2-0939
	村田 八郎	湖東信用金庫理事長	金融	金屋三丁目2-10	2-2020
	西沢 久治	西沢種苗店店主	種苗販売	金屋一丁目	2-0835
	山田隣之助	マスリン商店店主	衣料呉服販売	金屋一丁目2-5	2-1220
	速水 九一	速水工業代表者	鍍金	浜野町	2-2847
	北岸幸太郎	(有)九幸自転車商会取締役	自転車販売	小脇町	2-0792
	石戸慶次郎	(有)石戸商店取締役社長	菓子卸	東本町9-20	2-0431
3号議員	西沢 定雄	商店街連盟会長	衣料呉服販売	本町	2-0137
	中村 秀敏	料理飲食業組合長	料理旅館	本町8-11	2-0003
	村田信一郎	(協)八日市専門大店理事長	和洋家具	清水二丁目7-5	2-3235
	福原 憲治	(資)神崎倉庫代表社員	倉庫	浜野町1-6	2-2034
	仙波 玄一	八日市観光協会々長	旅館	本町	2-0248
顧 問	小嶋 外夫	県会議員		東中野町	2-0025
	北川 弥助	県会議員		五個荘町伊野部	074848 2537
参 与	森井 謙	商工会議所前専務理事	会社重役	栄町	2-0645



村田八郎



石戸慶次郎



西沢定雄



村田信一郎



福原憲治



北岸幸太郎



向政五郎



菅井太一

議 員



村田梅吉



国寄喜代助



喜多喜久子



中村秀敏



小沢康二



速水九一



西川平助



奥出栄司



楠林勤二郎



西田藤吉



村防龍雄



西沢久治



渡辺福之助



山田隣之助



今宿市郎



高木達也



池田峯次郎



藤井幸雄



辻与惣二



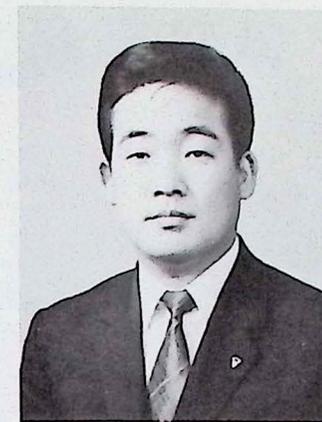
辻川 敬一



木村 豊一



仙波 玄一



川島 浩司



堀井 寅藏



前田 春吉



北岸 正次



山田 晴一郎



松吉 郁郎



長野 重衛

八日市商工会議所事務局職員



事務局長 阿部 秀二

事務局職員



結 び

八日市商工会議所が創立せられて今年で満15年、「是非記念事業をやりたい」の声、岡崎会頭始め三役、阿部事務局長を筆頭とする事務局両者から期せずして湧き起って来たのは当然でしたが、何回かの議員総会が持たれ、15周年記念特別委員会が組織され、何回かの会合が持たれました。そして商工名鑑の発行を骨子とする幾多の記念事業が企画立案せられ、決定されたのですが、昭和46年11月6日に15周年記念式典が盛大に行われ、数多の巧労者が表彰され、記念品が贈呈され、宴げも終って、あれから半年、商工名鑑の校正も進み、結びを書く時期になり、振り返って見ますと、幾つか企画立案せられ、決定された記念事業も、何時しか消え果てて「夏草や強兵どもの夢のあと」じゃありませんが、我々が後世に残せるのは、この八日市商工名鑑だけになりそうです。資金的にも、資料的にもゼロから出発したこの事業、下世話にも申す通り、「ほんまに出来るやろか？」でしたが、資金的に御協力下さった会員始め各企業各位、渡辺守順先生を引っ張り出した笹井太一委員長始め編集委員会のメンバー各位の熱意、車の両輪と申しましょうか、この両々相俟ってお手許にお届けするこの八日市商工名鑑が出来上がったことは申し上げるまでもないと思います。稍々文献学的に出来上がった譏りも免ぬがれないと思いますが、今後何年後に再び斯様な企画が持たれるか予測出来ませんが、これを踏み台として更に優れたものを作っていただければよいと我々編集委員一同は考えております。前述の通り皆々様の絶大なる御支援でこの名鑑が出来上がった訳ですが、この企画に八日市市として能う限りの資料を提供していただき、豊富な経験を駆使して、数々の貴重なデータを八日市市企画室企画主任中村つとむ氏から頂戴したのですが、氏はこの名鑑の完成を待たず去る二月八日病のため幽冥界を異にされました。御霊前に完成した名鑑を供え、御協力に感謝すると共に御冥福をお祈りしたいと思います。

最後になりましたが、この名鑑の表紙用クロスは岡崎会頭に特にお願いして、(有)岡崎製織場で特別製織していただき、しかも無償提供していただいたものです。

商工名鑑編集委員会

編集後記

計画して以来、1カ年を経てお届け出来る様になりました。出来映えを心配していましたが、思ったより立派に出来上り、御協力願った関係各位に衷心よりお礼申し上げます。

この名鑑が、八日市商工業発展の指針になればと念じつつ……………。

編集のため御協力願った委員各位

商工名鑑編集委員長	笹井 太一
” 副委員長	長野 重衛
” 委員	渡辺 守順
	出目 弘
	石戸慶次郎
	奥村晃一郎
	小沢 康二
	中村 昇
	西川 平助
	二橋 貞雄
	松吉 郁郎
	山田晴一郎

” 事務局長	阿部 秀二
事務局員	武田 康男
	小林 緑

写真撮影 (旬)朝陽写房

石田 洋



『八日市商工名鑑』

頒布価格
¥. 2500

昭和47年5月15日 初版印刷
昭和47年6月1日 発行

編集：八日市商工名鑑編集委員会
発行者：岡崎 耕平
発行所：八日市商工会議所

〒 527 滋賀県八日市市浜野町3-27
TEL. (07482) 3-0187(代)

印刷所：明文舎印刷商事株式会社

〒 526 滋賀県長浜市朝日町11-27

